

圓二一日若ハ二圓ヲ管一ニ折算ス共ノ一圓ニ滿テサルモノト雖猶管一ニ計算ス但シ管ハ五ヲ下ルコトヲ得ス

第六條 管刑ハ管ニ鞭ス

第七條 管刑ハ滿十六歲以上滿六十歲以下ノ男子ニアラサレハ之ヲ科スルコトヲ得ス

第八條 管刑ハ管二十五以下ニ在リテハ之ヲ一回ニ執行シ共ノ以上ニ在リテハ管數二十五ヲ増ス

第九條 管刑ノ言渡確定シタル者ハ其ノ執行ヲ終ルマテ之ヲ監獄又ハ即決官署ニ拘置ス

第十條 管刑ノ言渡確定シタルトキハ速ニ之ヲ執行スヘシ但シ管刑ニ處セラレタル者身體ノ健康

之ヲ受クルニ堪ヘ難キモノト認ムルトキハ三月以内猶豫スルコトヲ得共ノ猶豫三月ヲ超ニ猶執

行ニ堪ヘ難キモノト認ムルトキハ管刑ノ執行ヲ免ス

第十一條 管刑ノ執行ハ監獄ニ於テ秘密ニ之ヲ行フ但シ即決官署ニ於テ言渡シタル管刑ハ其ノ官

署ニ於テ執行ス

第十二條 本令ニ規定スルモノ、外必要ナル規定ハ臺灣總督之ヲ定ム

附則

本令ノ施行期日ハ臺灣總督之ヲ定ム

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル利息制限規則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

明治三十七年二月十八日

律令第二號 (官報 二月二十六日)

臺灣總督男爵兒玉源太郎

利息制限規則

第一條 金錢貸借ニ關スル契約ノ利息ハ左ノ制限ニ依ル

一元金百圓未満 年三割以下

但シ質屋營業者ノ質物元金五十圓以下ノ利息ヲ除ク

一元金百圓以上千圓未満 年二割五分以下

一元金千圓以上 年二割以下

若此ノ制限ヲ超過シタルトキハ其ノ超過部分ヲ無効トス

第二條 禮金割引手續料引去金借替金共ノ他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス利息ト認ムヘキ給

付ヲ受クルノ契約ハ之ヲ利息契約ト看做ス

附則

本令ハ明治三十七年二月二十日ヨリ施行ス

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル廳長ヲシテ民事等訟調停等ヲ取扱ハシムル件勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

明治三十七年二月二十五日
律令第三號(官報三月九日)

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第一條 廳長ヲシテ民事等訟調停等ヲ取扱ハシムル件

澎湖廳長、恆春廳長及臺東廳長ハ其ノ管轄區域内ニ於ケル左ノ事項ヲ取扱フ

一 民事等訟調停

二 公證登記其ノ他ノ非訟事件

三 前掲各號ノ執行

第二條 民事等訟ノ調停成立シタルトキハ廳長ハ調書ヲ以テ之ヲ明確ナラシムル件

調停ノ成立シタル等訟ト同一事件ニ付テハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第三條 前二條ニ掲ケタル事務ノ取扱、其ノ費用、執行手續其ノ他必要ナル規定ハ臺灣總督之ヲ定

第四條 臺灣總督ハ必要ト認ムルトキハ第一條ニ掲ケタル以外ノ廳長ヲシテ其ノ管轄區域内ニ於

テ本令ニ定メタル權限ノ全部又ハ一部ヲ行ハシムルコトヲ得

附則

本令ノ施行期日ハ臺灣總督之ヲ定ム

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル犯罪即決例勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

明治三十七年三月十二日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

律令第四號(官報三月二十八日)

犯罪即決例

第一條 廳長ハ其ノ管轄區域内ニ於ケル左ノ犯罪ヲ即決スルコトヲ得

一 拘留又ハ科料ノ刑ニ該ルハキ罪

二 主刑三月以下ノ重禁錮ノ刑ニ處スヘキ賭博ノ罪

三 主刑三月以下ノ重禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ノ刑ニ處スヘキ行政諸規則違反ノ罪

第二條 即決ハ裁判ノ正式ヲ用非ス被告人ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ取調ヘ直ニ其ノ言渡ヲナスヘシ

被告人ヲ呼出スノ必要ナキトキ若ハ呼出スモ出頭セサルトキハ直ニ其ノ言渡ヲ聽キ若ハ本人又ハ其ノ住所ニ送達スルコトヲ得

第三條 即決ノ言渡ヲ受ケタル者之ニ服セサルトキハ法院ニ正式裁判ヲ請求スルコトヲ得

第四條 即決ノ言渡ヲ受ケタル被告人ノ氏名、年齢、身分、職業、住所、犯罪ノ事實適用シタル法律條言渡シタル刑、正式裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ期間並言渡ヲナシタル官吏ノ官氏名及年月日ヲ記載スヘシ

第五條 正式裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ受ケタル官吏ニ申立書ヲ送付スヘシ其ノ期間ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタル日ヨリ三日同條第二項ノ場合ニ於テハ言渡書原本ノ送達アリタル日ヨリ五日トス

前項ノ期間内ニ正式裁判ヲ請求セサルトキハ即決言渡ハ確定シタルモノトス

第六條 前條ノ申立ヲ受ケタル官吏ハ速ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ法院檢察官ニ送致スヘシ

第七條 重禁錮ノ即決言渡ヲ受ケタル被告人ニ對シテハ廳長ハ拘留狀ヲ發シ監獄ニ引致スルコトヲ得

即決ノ言渡確定シタルトキハ拘留セラレサル被告人ニ對シテハ廳長ハ直ニ逮捕狀ヲ發シ監獄ニ引致スヘシ此ノ場合ニ於ケル逮捕狀ハ拘留狀ト同一ノ效力ヲ有ス

第八條 罰金ノ言渡ヲ受ケタル被告人言渡確定ノ日ヨリ一月以内ニ之ヲ完納セサルトキハ廳長ハ換刑處分ヲ言渡シ之ヲ執行スヘシ

第九條 拘留ノ言渡ヲナシタルトキハ必要ノ場合ニ於テハ第五條ニ定メタル期間内之ヲ留置ス但シ刑期五日以内ナルトキハ其ノ日數ヲ過クルコトヲ得ス

第十條 科料ノ言渡ヲナシタルトキハ其ノ金額ヲ假納セシムヘシ若納メサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シテ之ヲ留置ス其ノ一圓ニ滿タサルモノト雖尙一日ニ計算ス

第十一條 留置セラレタル者正式裁判ヲ請求シ依テ呼出狀ノ送達アリタルトキハ直ニ其ノ留置ヲ釋クヘシ

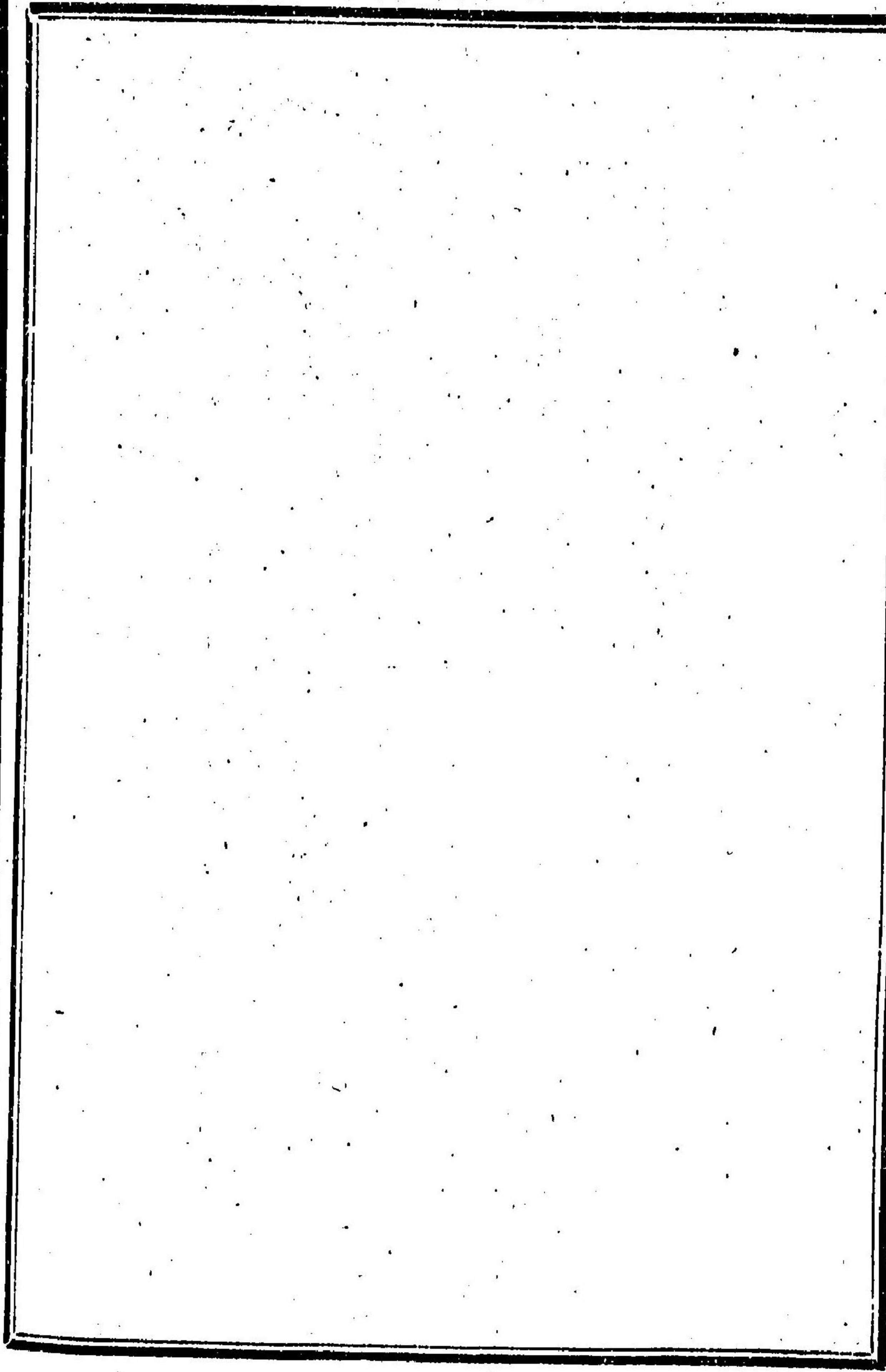
第十二條 第九條及第十條ニ依ル留置ノ日數ハ一日ヲ一圓ニ折算シテ科料ノ金額ニ算入シ又ハ拘留ノ刑期ニ算入スヘシ

第十三條 臺灣總督ハ必要ト認ムルトキハ支廳長及廳警部ニ本令ニ掲ケタル廳長ノ職務代理ヲ命スルコトヲ得

附則

本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

拘留又ハ科料ノ刑ニ該ルハキ犯罪即決例ハ之ヲ廢止ス



臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル外國補助貨幣ノ輸入禁止ニ關スル律令勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

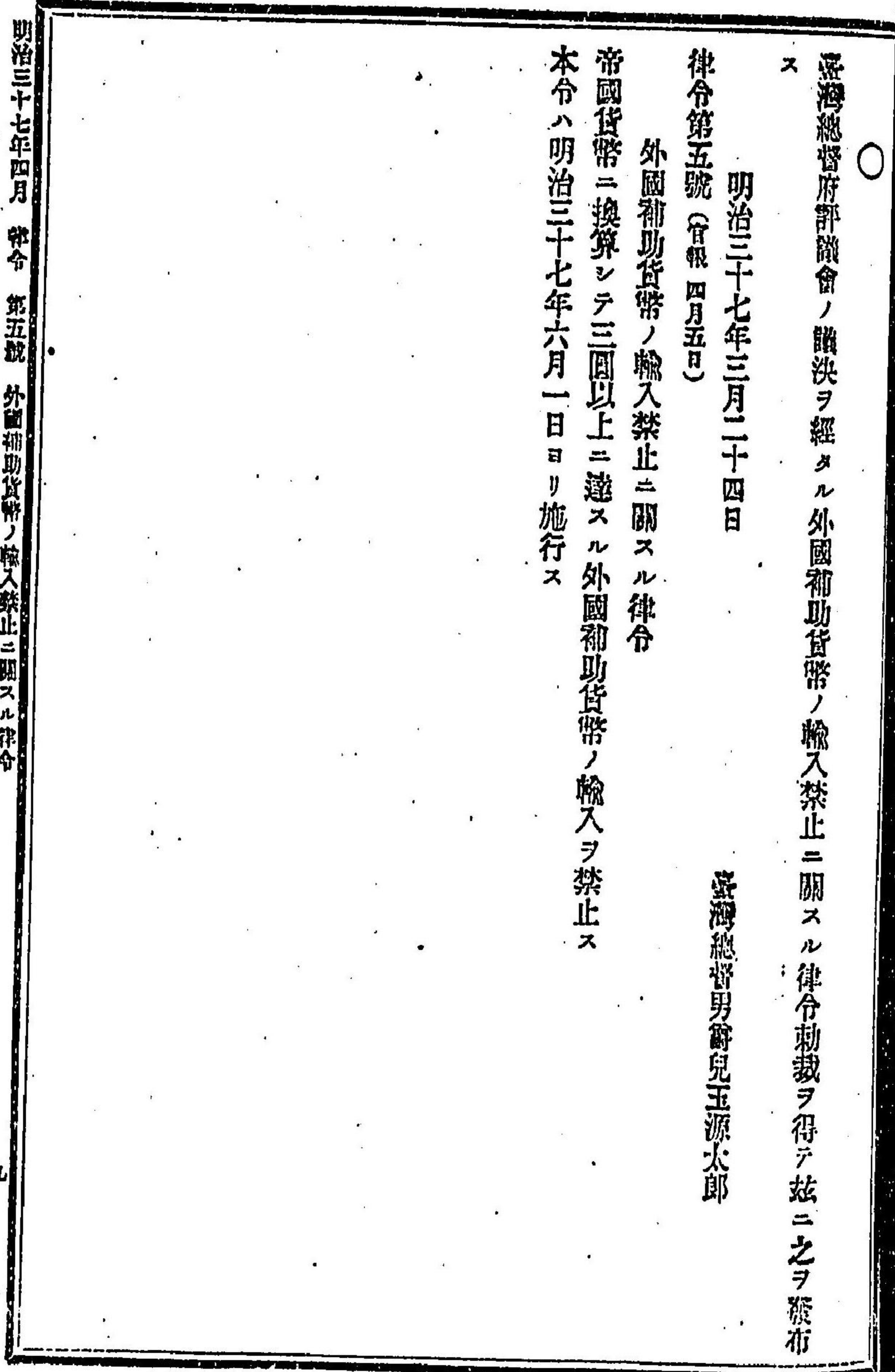
明治三十七年三月二十四日

律令第五號(官報 四月五日)

臺灣總督府 野村 元直 大郎

外國補助貨幣ノ輸入禁止ニ關スル律令

帝國貨幣ニ換算シテ三圓以上ニ達スル外國補助貨幣ノ輸入ヲ禁止ス
本令ハ明治三十七年六月一日ヨリ施行ス



臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル大租權整理ニ關スル件勅諭ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

明治三十七年五月二十日

臺灣總督府 爵見玉源太郎

律令第六號(官報 五月二十七日)

大租權整理ニ關スル件

- 第一條 明治三十六年律令第九號ニ依リ確定シタル大租權ハ消滅ス
本令施行後確定シタル大租權ハ本令施行ノ日ニ於テ確定シタルモノト看做ス其ノ未ダ確定セサル間ハ之ヲ行使スルコトヲ得ス
- 第二條 政府ハ前條ニ依リ消滅シタル大租權ニ對シ大租權者又ハ其ノ相續人ニ補償金ヲ交付ス
- 第三條 補償金ハ臺灣事業公債法ニ依リ發行スル公債證書ヲ以テ之ヲ交付ス但シ公債證書ヲ以テ交付スルコトヲ得サル端數ハ現金ヲ以テ之ヲ交付ス
- 第四條 補償金額ハ大租額ニ臺灣總督ノ定ムル所ノ率ヲ乘シテ算定ス
- 第五條 抽的大租ハ半年ノ納額ヲ以テ前條ノ大租額トス
- 第六條 臺灣總督ハ確定シタル大租權者及其ノ補償金額ヲ公示スヘシ
- 第七條 補償金ヲ受ケントスル者ハ前條公示ノ初日ヨリ六箇月以内ニ臺灣總督ニ其ノ請求書ヲ提出スヘシ
- 第八條 前條ノ期間内ニ請求書ヲ提出セサル者ハ補償金ヲ受クルコトヲ得ス
- 第九條 大租權者ハ明治三十七年分ノ大租ニ付テハ月割ヲ以テ六箇月分ヲ取立ツルコトヲ得但シ二期ニ取立ツルモノハ其ノ上半期分ヲ取立ツルコトヲ得

第十條 本令ニ規定スルモノノ外必要ナル規定ハ臺灣總督之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十七年六月二日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル銃砲火藥取締規則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

明治三十七年五月二十七日

臺灣總督府爵兒玉源太郎

律令第七號 (官報 六月九日)

銃砲火藥取締規則

- 第一條 本令ニ於テ銃砲ト稱スルハ軍用銃砲及非軍用銃砲ヲ謂ヒ火藥類ト稱スルハ火藥雷管導火線其ノ他ノ爆發質物品ヲ謂フ但シ煙火、爆竹、燄竹其ノ他ノ爆發質玩具品ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二條 管轄廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ軍用銃砲ヲ所有スルコトヲ得ス
銃砲製造業者、銃砲商ニ非サル者ハ管轄廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ非軍用銃砲ヲ所有スルコトヲ得ス
- 火藥商ニ非サル者ハ管轄廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ火藥類ヲ所有スルコトヲ得ス
- 第三條 銃砲製造業者又ハ銃砲商ニ非サル者ハ管轄廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ所有ノ非軍用銃砲ヲ讓渡スコトヲ得ス但シ銃砲製造業者又ハ銃砲商ニ讓渡スハ此ノ限ニ在ラス
- 火藥商ニ非サル者ハ管轄廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ所有ノ火藥類ヲ讓渡スコトヲ得ス但シ火藥商ニ讓渡スハ此ノ限ニ在ラス
- 第四條 軍用銃砲ハ製造、改造、修繕、讓渡、輸入又ハ移入スルコトヲ得ス
火藥類ハ製造、輸入又ハ移入スルコトヲ得ス但シ火藥商又ハ管轄廳ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ軍用銃砲實包ヲ除クノ外火藥類ヲ輸入又ハ移入スルハ此限ニ在ラス
- 臺灣總督ハ前二項ノ規定ニ拘ラス特ニ軍用銃砲ノ修繕、讓渡、輸入又ハ移入及軍用銃砲實包ノ輸入又ハ移入ヲ許可スルコトヲ得

第五條 非軍用銃砲ノ製造者ハ販賣又ハ火藥類販賣ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ管轄廳ノ許可ヲ受
 ノハシ
 非軍用銃砲ノ改造又ハ修繕ヲ業トスル者ハ銃砲製造業者ト看做ス
 第六條 銃砲製造業者ハ其ノ製造改造ニ係ル非軍用銃砲ヲ銃砲商以外ノ者ニ讓渡スコトヲ得ス但
 シ官廳又ハ特ニ臺灣總督ノ許可ヲ受ケタル者ニ讓渡スハ此ノ限ニ在ラス
 第七條 銃砲商ハ所有ノ許可ヲ受ケサル者ニ非軍用銃砲ヲ讓渡スコトヲ得ス但シ官廳銃砲製造
 業者銃砲商ニ讓渡スハ此ノ限ニ在ラス
 火藥商ハ所有ノ許可ヲ受ケサル者ニ火藥類ヲ讓渡スコトヲ得ス但シ官廳又ハ火藥商ニ讓渡スハ
 此ノ限ニ在ラス
 第八條 非軍用銃砲火藥類ハ行商シ又ハ市場露店其ノ他屋外ニ於テ販賣スルコトヲ得ス
 第九條 第五條ノ許可ヲ受ケタル者其ノ許可ノ日ヨリ六箇月以内ニ開業セス又ハ開業後一箇年以
 上休業シタルトキハ管轄廳ハ其ノ營業ノ許可ヲ取消スコトヲ得
 第十條 管轄廳ハ銃砲製造業者銃砲商又ハ火藥商カ法律命令ニ違背シ又ハ銃砲火藥類ヲ危險ノ
 用ニ供スルノ虞アルトキ其ノ他公安ヲ害スルノ所爲アリト認ムルトキハ營業ノ許可ヲ取消シ又
 ハ營業ノ停止ヲ命スルコトヲ得
 前項ノ營業許可ノ取消又ハ營業ノ停止ノ效力ハ全島ニ及フ
 第十一條 臺灣總督ハ公安ヲ保持スル爲必要アリト認ムルトキハ銃砲火藥類ノ授受運搬所持又
 ハ所有ヲ禁止スルコトヲ得
 第十二條 警察官憲兵ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ何人ノ所有タルヲ問ハス銃砲火藥類ノ検査
 及領置ヲ爲スコトヲ得

第十三條 第四條ニ違背シタル者ハ刑法第五百十七條及第五百八十一條ニ依リ處斷シ其ノ未ダ遂ケ
 サル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス
 第十四條 第五條ノ許可ヲ受ケズシテ營業ヲ爲シタル者第六條乃至第八條ニ違背シタル者又ハ
 第十條ノ停止命令ニ違背シテ營業ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以下ノ罰金ヲ附
 加ス
 第十五條 第十一條ノ禁令ニ違背シタル者ハ一年以下ノ重禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處シ仍其
 ノ物件ヲ沒收ス
 第十六條 第二條又ハ第三條ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十七條 火藥類船積運搬ニ關シテハ明治六年第二百九十二號布告ニ依ル
 第十八條 本令ニ規定スルモノノ外必要ナル規定ハ臺灣總督之ヲ定ム
 附則
 本令ハ明治三十七年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
 銃砲取締規則及火藥取締規則ハ之ヲ廢止ス
 ○
 臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣銀行券發行ニ關スル律令勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス
 明治三十七年六月四日 臺灣總督男爵兒玉源太郎
 律令第八號(官報六月十四日)
 臺灣銀行券發行ニ關スル律令
 第一條 臺灣銀行ハ金貨ヲ以テ引換フヘキ券面金額一圓以上ノ銀行券ヲ發行スルコトヲ得
 前項ノ銀行券ニ關シテハ臺灣銀行法ニ依リ發行スル銀行券ニ關スル規定ヲ準用ス但シ其ノ發行

明治三十七年六月 律令 第九號 一圓銀貨幣ヲ公納ニ使用スルコトヲ得ルノ件

高ノ制限ニ付キテハ臺灣銀行法ニ依リ發行スル銀行券ノ發行高ト併算シ其ノ引換ハ臺灣銀行本店及臺灣總督府管轄地方内ノ同行支店ニ於テ之ヲ爲スセノトス
第二條 臺灣銀行法ニ依リ發行シタル銀行券ハ臺灣銀行本店又ハ臺灣總督府管轄地方内ノ同行支店ニ於テ臺灣總督ノ告示スル一圓銀貨ノ時價ニ依リ金貨又ハ本令ニ依リ發行スル銀行券ト引換フルコトヲ得

附則

本令ハ明治三十七年七月一日ヨリ施行ス

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル一圓銀貨幣及政府ノ極印ヲ施セル一圓銀貨幣ハ時價ヲ以テ公納ニ使用スルコトヲ得ルノ件勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

明治三十七年六月四日

臺灣總督 勇爵 兒玉源太郎

律令第九號 (官報 六月十四日)

一圓銀貨幣ヲ公納ニ使用スルコトヲ得ルノ件

臺灣ニ於テ一圓銀貨幣及政府ノ極印ヲ施セル一圓銀貨幣ハ時價ヲ以テ公納ニ使用スルコトヲ得但シ時價ハ臺灣總督ノ告示スル所ニ依ルヘシ

本令ハ明治三十七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十一年律令第十九號ハ之ヲ廢止ス

【參照】

明治三十一年八月廿七日 律令第十九號ハ臺灣ニ於テ一圓銀貨幣及政府ノ極印ヲ施セル一圓銀貨幣ハ時價ヲ以テ其ノ制限ニ制限ナク通用スルコトヲ得ルノ件ナリ

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル出典地業主權ニ關スル律令勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

明治三十七年十月七日

臺灣總督 勇爵 兒玉源太郎

律令第十號 (官報 十月十八日)

臺灣土地調査規則ニ依リ國庫ニ歸屬シタル土地ニシテ出典地ニ係ルモノハ土地邊帳ニ登錄シタル典主ヲ以テ其ノ業主トス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年十月 律令第十號

七

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル明治三十七年律令第六號中改正ノ件勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス
明治三十七年十月二十七日
臺灣總督府勅諭 兒玉源太郎

律令第十一號 (官報十一月十日)
明治三十七年律令第六號中左ノ通改正ス

第三條 補償金ハ臺灣事業公債法ニ依リ發行スル公債證書ヲ以テ交付スルコトヲ得其ノ價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル但シ公債證書ヲ以テ交付スルコトヲ得サル端數ハ現金ヲ以テ之ヲ交付ス

〔参照〕

律令第六號大租權整理ニ關スル件(明治三十七年五月二十七日官報)抄録
第三條 補償金ハ臺灣事業公債法ニ依リ發行スル公債證書ヲ以テ之ヲ交付ス但シ公債證書ヲ以テ交付スルコトヲ得サル端數ハ現金ヲ以テ之ヲ交付ス

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣地租規則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

明治三十七年十一月十日
臺灣總督府勅諭 兒玉源太郎

律令第十二號 (官報十一月十六日)
臺灣地租規則

第一條 土地ノ地目ヲ左ノ通定ム

一 田畑養魚池

- 二 建物敷地、鹽田、礦泉地、池沼、山林、原野、牧場
- 三 祠廟敷地、墳墓地、鐵道用地、公園地、練兵場、射的場、砲臺用地、燈臺用地
- 四 道路、鐵道線路、溝渠、用惡水路、河川、隄防
- 五 雜種地

第二條 土地ハ地目ヲ定メ地盤ヲ測量シ一區域毎ニ地番ヲ付ス但シ第一條第四號ニ掲グル土地ハ此ノ限ニ在ラス

地目ヲ變換シ若ハ區域ヲ變更シタルトキハ其ノ地目若ハ地番ヲ更正シ地盤ニ増減ヲ生シタルトキハ地盤ヲ測量ス

第三條 地積ハ左ニ掲グル名稱位ニ依ル

- 絲 甲ノ萬分ノ一
- 毫 甲ノ千分ノ一
- 厘 甲ノ百分ノ一
- 分 甲ノ十分ノ一

甲 二千九百三十四坪但シ一坪六尺平方

第四條 地方廳ニ土地臺帳及地圖ヲ備ヘ土地ニ關スル事項ヲ登錄ス

土地臺帳及地圖ノ閱覽又ハ其ノ謄本ノ下付ヲ要スル者ハ其ノ所管地方廳ニ請求スルコトヲ得

第五條 田、畑及養魚池ニハ地租ヲ賦課ス但シ國庫ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條 地租ハ土地ノ等則ヲ除定シ甲數ニ應シ左ノ租率ニ依リ之ヲ賦課ス

一 等 則	一箇年一甲ノ租率
二 等 則	金十七圓八十錢
三 等 則	金十五圓六十錢
四 等 則	金十二圓八十錢
五 等 則	金十圓九十錢
六 等 則	金八圓六十錢
七 等 則	金七圓
八 等 則	金五圓六十錢
九 等 則	金四圓
十 等 則	金三圓十錢
二 畑	金二圓五十錢
一 等 則	一箇年一甲ノ租率
二 等 則	金十三圓
三 等 則	金十一圓
四 等 則	金八圓六十錢
五 等 則	金七圓三十錢
六 等 則	金五圓七十錢
六 等 則	金四圓六十錢

七則	金三圓四十錢
八則	金二圓六十錢
九則	金一圓六十錢
十則	金六十錢

三 養魚池

等則	一箇年一甲ノ租率
一則	金九圓三十錢
二則	金七圓五十錢
三則	金五圓八十錢
四則	金三圓五十錢
五則	金二圓三十錢
六則	金一圓十錢
七則	金四十錢

第七條 地租ヲ課セザル土地ニシテ地租ヲ課スル土地トナリタルトキハ其ノ翌年ヨリ地租ヲ徵收ス

地租ヲ課スル土地ニシテ他ノ地租ヲ課スル土地トナリタルトキハ其ノ翌年ヨリ地租ヲ修正ス

第八條 地租ヲ課スル土地ニシテ天災ニ罹リ土地ノ形狀ヲ變シ若ハ作土ヲ損害シタルトキハ被害ノ情況ニ應ジ十箇年以内ノ荒地免租年期ヲ付與スルコトヲ得

荒地免租年期ヲ付與シタルモノハ滿期年ノ翌年ニ至リ原地租ニ復ス但シ他ノ地租ヲ課スル土地トナリタルモノハ滿期年ノ翌年ヨリ地租ヲ修正ス

第九條 左ニ掲グルモノハ其ノ土地ノ情況ニ應ジ十箇年以内ノ開墾免租年期ヲ付與スルコトヲ得

一 第一條第二號乃至第五號ノ土地ニシテ特ニ勞費ヲ加ヘテ地租ヲ課スル土地トナシタルモノ

二 海面水面海埔淨洲等ニ勞費ヲ加ヘテ地租ヲ課スル土地トナシタルモノ

開墾免租年期ヲ付與シタルモノハ滿期年ノ翌年ヨリ地租ヲ徵收ス

第十條 前三條ニ依リ新ニ地租ヲ徵收シ又ハ地租ヲ修正スヘキトキハ土地ノ收益其ノ他ノ情況ヲ審査シ等則ヲ決定ス

第十一條 地租ハ業主ヨリ徵收ス但シ出典ニ係ル土地ハ典主ヨリ之ヲ徵收ス

業主又ハ典主カ社團財團又ハ公業ナルトキハ地租ハ其ノ管理人ヨリ之ヲ徵收ス

第十二條 地租ノ納期ハ臺灣總督之ヲ定ム

第十三條 納租者地租ヲ追脱シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ自首シタル者ハ刑ヲ免ス

第十四條 地租ヲ追脱シタルトキハ發覺ノ年ヨリ地租ヲ賦課又ハ修正シ仍追脱シタル地租ヲ追徵ス

第十五條 此ノ規則ニ規定スルモノノ外必要ナル規定ハ臺灣總督之ヲ定ム

附則

明治三十七年分ノ地租ハ明治三十七年下半年分ヨリ徵收ス

明治三十九年律令第五號明治三十年律令第三號明治三十年律令第七號明治三十一年律令第十三號

號 明治三十一年律令第十四號及明治三十三年律令第十一號ハ之ヲ廢止ス
臺灣總督ハ管分ノ内澎湖廳及臺東廳ニ此ノ規則ヲ施行セサルコトヲ得此ノ場合ニ於テ地租ハ從來ノ例ニ依リ之ヲ賦課ス

〔參照〕

明治二十九年九月四日律令第五號ハ臺灣地租規則同三十年三月三十日律令第三號ハ臺灣官有森林原野及產物特別處分令ニ依リ賣渡シタル土地ノ地租ニ關スル件 同年七月十七日律令第七號ハ鐵道用地地租免狀規則同三十一年八月二日律令第十三號ハ鐵道地租規則同第十四號ハ臺灣土地調查規則同三十三年七月十二日律令第十一號ハ賦課漏ノ地租ニ關スル件ナリ

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣地方稅規則中改正ノ件勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス
明治三十七年十一月十日 臺灣總督男爵兒玉源太郎

律令第十三號(官報 十一月十六日)
臺灣地方稅規則第四條中三分ノ二ヲ三分ノ一ニ改ム

〔參照〕

律令第十七號臺灣地方稅規則(明治三十一年八月二日官報)抄錄
第四條 地租附加稅ハ地租三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス

法令全書

關令

○關令第一號
官吏遺族扶助法施行規則中左ノ通改正ス

明治三十七年三月十九日

內閣總理大臣伯爵桂 太郎

第七條 官吏遺族扶助法ニ依リ扶助料ヲ請求スル者ハ其ノ請求書ニ戶籍謄本及第一條乃至第六條ニ掲ケル書類ヲ添ヘ住所地ノ地方長官ニ送付スヘシ

〔參照〕

關令第四號官吏遺族扶助法施行規則(明治二十三年七月二日抄錄)
第七條 扶助料ノ請求書ハ請求者署名シ後見人アリハ其後 親族二名親族ナキトキハ居住地ノ戶主二名連署シ市町村長ノ與印ヲ受ケ第一條乃至第六條ニ掲ケル書類ノ外市町村長ノ證明シタル戶籍謄本ヲ添付シ地方長官ニ送付スヘシ
第十六條 市町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ本規則ニ依リ市町村長ノ爲メハ戶籍謄本ハ區戶長ニ於テ之ヲ行フヘシ

○關令第二號
軍人恩給法施行規則中左ノ通改正ス

明治三十七年三月十九日

內閣總理大臣伯爵桂 太郎

第三條第一項中「請求者署名シ後見人アリハ其後 親族二名親族ナキトキハ居住地ノ戶主二名連署シ市町村長ノ與印ヲ受ケ左ニ掲ケル書類ノ外市町村長ノ證明シタル戶籍謄本ヲ添ヘ」ヲ「戶籍謄本

及注目揚ノル者願ヲ添ハ住所地ノニ改メ
第十一條 削除

〔参照〕

附令第五號軍人恩給法施行規則(明治二十三年七月二日)抄錄
第三條 軍人恩給法ニ依リ扶助料ヲ請求スル者ハ其請求書ニ請求者姓名シ 且人別アルハ其親族二名 親族ナキトキハ母
性祖ノ月主二名 遺孀シ市町村長ノ裁印ヲ受ケ左ニ揚タル者願ノ外市町村長ノ證明シタル月主祖祖母ヲ添ハ地方長官ニ提出
スルニ
第十一條 市町村制ヲ施行セザル地方ニ於テハ本規則ニ依リ市町村長ノ裁メハ其親族ハ區長ニ於テ之ヲ行フニ
スルニ

○附令第三號
金銀水杯金圓賜與手續中左ノ通改正ス

明治三十七年十二月十三日

内閣總理大臣 伯耆桂 太郎

第二條中但管圓未滿ハ褒詞ヲ以テ褒狀ニ換フルコトアルヘシ但管圓未滿ハ便宜ノ方法ヲ以テ
表彰ヲ爲シ褒狀賜與ニ代フルコトアルヘシニ改ム
第三條第二項但書中其妻ニ「下」ニ「水杯三組又ハ之ニ該當スル定例金圓ヲ」ヲ加フ
第六條中「褒詞」ヲ削ル
附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

本政官達第十七號金銀水杯金圓賜與手續(明治十六年三月二十六日)抄錄
第二條 公益ノ爲メニ金銀財産等ヲ管理シタル者ニ金銀水杯ヲ賜ヒ又ハ褒賞ト之ヲ併セ賜フトキハ其等左ノ如シ
管附金圓又ハ價格
拾圓未滿
褒狀
第三條 但管圓未滿ハ褒詞ヲ以テ褒狀ニ換フルコトアルヘシ
第三條 金銀杯又ハ特例金圓又ハ褒章ト金銀水杯又ハ金圓ヲ併セ賜フ事項ハ賞勳局總裁之ヲ管理スルモノトス
褒狀又ハ水杯又ハ定例金圓ノミヲ賜フハ警視總監府縣知事管理施行スルモノトス
但勅任官褒任官以上ノ待遇ヲ受クル者就從六位以上及ヒ勳六等以上ノ者及ヒ華族ノ月主其祖父父母妻孀長子孫及
其親ニ賜フヘキトキハ第四條ニ準ジスヘシ
第四條 金銀杯又ハ特例金圓又ハ褒章ト金銀水杯又ハ金圓ヲ併セ賜フヘキ者アルトキハ警視總監府縣知事ヨリ主務大臣ニ
具申シ主務大臣ハ之ヲ審査シ賞勳局總裁ニ申渡スヘシ
賞勳局總裁ハ其中腹ニ據テ勅任官褒任官以上ノ待遇ヲ受クル者就從六位以上及ヒ勳六等以上ノ者及ヒ華族ノ月主其祖

大藏省令第十八號(明治三十三年四月十四日)
大藏省令第十八號(明治三十三年四月十四日)
臨時設關工事部ニ於テ購入スル小汽船汽機汽機ノ構造ヲ要スル材料運搬船汽機汽機ヲ備付クヘキ機橋船其他之ニ準スヘキ
船隻製造ノ競争ニ加ハラントスル者ハ會計規則第六十九條ニ定メタル資格ノ外尙ホ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス
第一 内地ニ於テ總噸數二十噸以上ノ汽船ノ船體汽機及汽機ヲ製造スルニ適當ナル工場船隻及機橋ヲ有スルコト
第二 造船及機橋專門ノ技術者ヲシテ二年以上引續キ其業務ヲ擔當セシメ居ルコト

法令全書

○大藏省令第一號

明治三十三年四月大藏省令第十八號中「購入スル」ヲ削リ「於テ」ノ下ニ「要スル汽機船ヲ」船隻ノ下ニ
「及特種ノ機橋」ヲ製造ノ下ニ「若クハ修繕」ヲ加ヘ第一號以下ヲ左ノ通改ム

明治三十七年一月九日

大藏大臣 野村浩光 助

第一 船體ニ關シテハ内地ニ於テ總噸數二十噸以上ノ船體ヲ製造スルニ適當ナル工場、船隻、船渠
及機橋ヲ有シ造船專門ノ技術者ヲシテ二年以上其業務ヲ擔當セシメ居ルコト但船渠ハ入渠ヲ要
スル工事ニ限ル

第二 機橋ニ關シテハ内地ニ於テ適當ナル工場及機橋ヲ有シ機橋專門ノ技術者ヲシテ二年以上其
業務ヲ擔當セシメ居ルコト

〔參照〕

大藏省令第十八號(明治三十三年四月十四日)
臨時設關工事部ニ於テ購入スル小汽船汽機汽機ノ構造ヲ要スル材料運搬船汽機汽機ヲ備付クヘキ機橋船其他之ニ準スヘキ
船隻製造ノ競争ニ加ハラントスル者ハ會計規則第六十九條ニ定メタル資格ノ外尙ホ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス
第一 内地ニ於テ總噸數二十噸以上ノ汽船ノ船體汽機及汽機ヲ製造スルニ適當ナル工場船隻及機橋ヲ有スルコト
第二 造船及機橋專門ノ技術者ヲシテ二年以上引續キ其業務ヲ擔當セシメ居ルコト

○大藏省令第二號

明治三十六年大藏省令第二十三號粗製樟腦樟腦油專賣法施行細則中左ノ通改正ス

明治三十七年一月十三日

大藏大臣 野村浩光 助

父母及兄弟姉妹等其親屬ニハ之ヲ直接ニ其他ノ者ハ主務大臣ヲ經由シテ總務府知事ヲシテ之ヲ傳達セシム
第六條 外國人ニ金銀木紙金圓又ハ通貨券類ヲ賜フヘキ者アルトキハ總務府内閣人ノ例ニ準スト雖モ公使館員及守室ノ貴族
ニ係ルトキハ外務大臣ヨリ獎勵券總額ニ申請シ授與ノトキハ亦同大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達セシムヘシ

法令全書

省令

○大藏省令第一號

明治三十三年四月大藏省令第十八號中購入スルヲ削リ於テノ下ニ「要スル浚渫船ヲ」船舶ノ下ニ
及特種ノ機械ノ「ヲ製造ノ下ニ」若クハ修繕ヲ加ヘ第一號以下ヲ左ノ通改ム

明治三十七年一月九日

大藏大臣男爵曾根克助

第一 船體ニ關シテハ内地ニ於テ總噸數二十噸以上ノ船體ヲ製造スルニ適當ナル工場 船臺 船渠
及機械ヲ有シ造船専門ノ技術者ヲシテ二年以上其業務ヲ擔當セシメ居ルコト但船渠ハ入渠ヲ要
スル工事ニ限ル

第二 機械ニ關シテハ内地ニ於テ適當ナル工場及機械ヲ有シ機械専門ノ技術者ヲシテ二年以上其
業務ヲ擔當セシメ居ルコト

〔參照〕

大藏省令第十八號(明治三十三年四月十四日)

臨時造船工事部ニ於テ購入スル小汽船特種ノ構造ヲ要スル材料運搬船汽機汽爐ヲ擔付クヘキ機械装置其他之ニ準スヘキ
船舶製造ノ費率ニ加ハラントスル者ハ合計規則第六十九條ニ定メタル費格ノ外尙ホ左ノ費格ヲ加フルコトヲ要ス

第一 内地ニ於テ總噸數二十噸以上ノ汽船ノ船體汽機及汽爐ヲ製造スルニ適當ナル工場 船臺及機械ヲ有スルコト

第二 造船及機械専門ノ技術者ヲシテ二年以上引續キ其業務ヲ擔當セシメ居ルコト

○大藏省令第二號

明治三十六年大藏省令第二十三號組織樟腦樟腦油專賣法施行細則中左ノ通改正ス

明治三十七年一月十三日

大藏大臣男爵曾根荒助

第十五條ヲ左ノ如ク改ム

一 粗製樟腦

水分及固形夾雜物ノ容量百分ノ五以下ニシテ其ノ硫酸反應着色ニ於テ二十五分一沃素規定液ヲ過キヌ温度ノ上昇ニ於テ攝氏驗温器二十度以下ナルモノ

二 樟腦油

樟腦油固有ノ香氣ノ外異臭ヲ放タス且ツ攝氏驗温器十五度ノ時ニ於テ比重〇・九一以上ナルモノ

前項ニ於テ沃素規定液ト稱スルハ沃素百二十六八六瓦ヲ沃度加里約三百瓦ト共ニ水ニ溶解シテ「リートン」ニ至ラシメタルモノヲ謂フ

第十五條ノ二 粗製樟腦油製造者ノ納付セムトスル粗製樟腦ニシテ前條標準品質ニ適合セザルトキハ製造者ハ其ノ總量目ニ左ノ乘率ヲ乘シタル量目ニ依リ納付ヲ爲スコトヲ得但シ色相不良ナルモノ又ハ着色十分一沃素規定液ヲ過クルモノ若ハ温度ノ上昇三十度ヲ超タルモノハ一級又ハ二級ヲ下スモノトス

率		反應	
十度以下	十五度以下	十度以下	十五度以下
0.98	0.90	0.90	0.80
0.96	0.94	0.92	0.84
0.94	0.92	0.94	0.88
0.92	0.90	0.96	0.92
0.90	0.88	0.98	0.96
0.88	0.86	1.00	1.00
0.86	0.84		
0.84	0.82		
0.82	0.80		
0.80	0.78		
0.78	0.76		
0.76	0.74		
0.74	0.72		
0.72	0.70		

水分百分率	等級	
	一等	二等
0-5	1.00	
6	0.98	
7	0.96	
8	0.94	
9	0.92	
10	0.90	
11	0.88	
12	0.86	
13	0.84	
14	0.82	
15	0.80	
16	0.78	
17	0.76	
18	0.74	

第十五條ノ三 粗製樟腦油製造者ノ納付セムトスル粗製樟腦ニシテ其ノ品質粗悪ナルモノ又ハ其ノ樟腦油ニシテ標準品質ニ適合セザルモノハ製造者ヨリテ更ニ相當ノ處理ヲ爲サシムルコトアルニシ

附則

本令ハ明治三十七年一月二十日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

- 一 大藏省令第二十三號粗製樟腦油製造者ノ納付セムトスル粗製樟腦ニシテ左ノ各級ノ一ニ該當スルトキハ製造者ヲシテ更ニ相當ノ處理ヲ爲サシムルニシ
- 一 可檢樟腦一五ヲ試驗管ニ入レ強硫酸五立方センチメートルヲ注加シ其ノ着色暗褐色ニ過キ且ツ温度ノ上昇攝氏數三十五度ヲ超タルモノ
- 二 可檢樟腦五五ヲ一定ノ刻度硝子管ニ入レ其ノ二十五立方センチメートルニ至ルマテ乾燥セル石油依的兒ヲ注加シ則シテ強硫酸二十五分間以上靜置シ管底ニ沈降セル水分及固形夾雜物ノ容量百分ノ十ヲ超タルモノ
- 一 粗製樟腦油製造者ノ納付セムトスル樟腦油ニシテ左ノ各級ノ一ニ該當スルトキ亦同シ
- 一 樟腦油固有ノ香氣ノ外異臭ヲ放ツモノ
- 二 攝氏驗温器十五度ノ時ニ於テ比重〇・九四未満ナルモノ

○陸軍省令第一號

新聞紙條例第二十二條ニ依リ當分ノ内軍隊ノ進退其ノ他軍機軍略ニ關スル事項ヲ新聞紙及雜誌ニ記載スルコトヲ禁ズ但シ豫メ陸軍大臣ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限リニアラス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年一月五日

陸軍大臣寺内正毅

○陸軍省令第二號

戰時若ハ事變ニ際シ臺灣居住者ヲ臺灣陸軍守備部隊ニ召集スル場合ニ於ケル召集諸費支出規程左ノ通定ス

明治三十七年一月九日

陸軍大臣寺内正毅

第一條 戰時若ハ事變ニ際シ臺灣居住者ヲ臺灣守備部隊ニ召集スル場合ニ於ケル召集諸費其ノ他召集諸費ノ仕拂命令官ハ臺灣陸軍經理部長トシ共ノ出納官吏ハ臺灣諸部隊ノ官吏及團長トス但シ必要ニ應シ職ノ官吏ニ分任出納官吏ノ職務ヲ執ラシムルコトヲ得

第二條 前條ノ召集諸費ハ應召者ノ居住地ヨリ召集部隊所在地迄ノ里程ニ應シ之ヲ支給ス應召ノ途中ニ於テ事故ノ爲復歸ヲ命ジタル者ニハ應召前ノ居住地迄ノ里程ニ應シ旅費ヲ給ス但シ召集旅費ノ内返納セシムヘキモノアルトヤハ其ノ額ヲ控除ス

第三條 本規程ニ規定セサルモノハ陸軍召集諸費支出規程中充實召集ニ關スル規定ヲ準用ス但シ師團長ノ職務ハ臺灣總督 地方長官及聯隊區司令官ノ職務ハ團長之ヲ行フモノトス

附則

本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○陸軍省令第三號

鐵道軍事供用令第十六條ニ依リ鐵道軍事輸送規程左ノ通定ス

明治三十七年一月二十五日

海軍大臣 野村 木權兵衛
陸軍大臣 寺内 正毅
遞信大臣 大浦 兼武

鐵道軍事輸送規程

第一條 陸海軍ニ於テ軍事輸送ヲ要求セントスルトキハ列車ノ組織車輛ノ數其他必要ノ事項ヲ定メ豫メ會社ニ通報スルモノトス

第二條 鐵道軍事供用令第四條乃至第八條ニ依リ難キ場合ニ於テハ會社ハ豫メ事由ヲ具シ軍事輸送ノ要求ヲ爲シタル陸海軍官衙ニ申出ツヘシ

第三條 會社ニ於テ客車ノ代用トシテ有蓋貨車ヲ使用スルトキハ代用車ニ適當ノ裝置ヲ爲シ且其乗車人員ハ車内ノ床面積少クモ三平方呎毎ニ一名ノ比例ヲ標準トスヘシ

第四條 會社ニ於テ有蓋貨車ノ代用トシテ無蓋貨車ヲ使用スルトキハ代用車ニ適當ノ裝置ヲ爲スヘシ

前項ノ貨車ニハ薪炭其他燃焼シ易キ物品ヲ積載スヘカラス

第五條 馬匹ヲ搭載シタル車輛ニハ看守者ヲ附スルコトアルヘシ

第六條 火藥類ハ有蓋貨車ニ搭載シ輸送中車扉ヲ密閉シ置クモノトス

前項ノ貨車ハ如何ナル場合ニ於テモ機關車ノ直前又ハ直後ニ聯結スヘカラス

火藥類ヲ搭載シタル貨車ハ軍用列車ニ限リ之ヲ軍隊若ハ他ノ輸送物ヲ搭載セル車輛ニ聯結スルヲ得

第七條 覆火ノ虞ナキ様成規ノ包裝ヲ爲シタル火藥類ハ其種類ニ拘ハラズ軍用列車ニ限リ之ヲ同一車輛ニ搭載スルコトヲ得

第八條 火藥類ヲ輸送スル場合ニ於テ其受渡ノ時刻ハ輸送ヲ要求シタル官衙豫メ會社ト協議シテ之ヲ定ム

第九條 燃焼ノ易キ物品ヲ無蓋貨車ニ搭載スルトキハ必要ニ應ニ束縛ヲ浸シタル水桶ヲ準備シ且看守者ヲ附スルコトヲ要ス

第十條 軍用列車ニハ輸送指揮官貨物輸送ノ場合ニ於テハ通常宰領者ヲ附シ搭載卸下及輸送途中ノ取締ニ任セシム

普通列車ニ依リ軍事輸送ヲ爲ス場合ニ於テモ輸送指揮官又ハ宰領者ヲ附スルコトアルヘシ

第十一條 陸軍官衙若ハ海軍官衙ハ必要ニ應ニ應ニ停車場司令官若ハ特ニ命シタル將校同相前官ヲ派遣シ警備停車場ニ於ケル輸送ノ業務ヲ掌ラシム

第十二條 軍事輸送ヲ要求シタル官衙ハ毎回輸送ニ對シ鐵道軍用輸送券ヲ發行ス但輸送指揮官又ハ宰領者ヲ附セサル輸送ニ在テハ此限ニアラズ

前項ノ輸送券ハ搭載地卸下地間ヲ通シテ一通トス但途中ニ於テ搭載又ハ卸下ヲ爲ス輸送物アルトキハ其輸送ニ關シテハ各別ニ輸送券ヲ發行スルモノトス

第十三條 輸送券ハ甲乙丙ノ三部ニ區分シ甲部ハ料金計算ノ用ニ乙部ハ料金對照ノ用ニ丙部ハ輸送途中ノ取扱ニ供スルモノトス

第十四條 軍事輸送ノ料金ハ會社ヨリ仕拂請求書ニ輸送券ノ甲部ヲ添ヘ請求スヘシ但輸送券ヲ發行セサル場合ニ在テハ普通貨物輸送ノ例ニ依ルモノトス

二箇以上ノ會社ニ關係スル軍事輸送ノ料金ハ始發停車場所管ノ會社ヨリ請求スルモノトス

前項料金ノ分配方ハ關係會社協議ノ上之ヲ定ムルモノトス

第十五條 軍事輸送ノ料金ハ時宜ニ依リ現金拂ト爲スコトアルヘシ此場合ニ於テハ輸送券面ニ「料金拂濟」ト朱書スルモノトス

第十六條 鐵道軍事供用令第十三條ノ費用ハ一口毎ニ一通トシ會社ヨリ其仕拂請求書ニ證據書類ヲ添ヘ之ヲ請求スヘシ

第十七條 會社ニ於テ軍事輸送實施ノ爲生シタル民事上ノ損害ニツキ賠償ヲ受ケントスルトキハ一口毎ニ證據書類ヲ添ヘ主務大臣ニ申出ツヘシ

第十八條 會社ハ陸海軍ノ要求ニ依リ軍事輸送ニ關シ必要ナル事項ヲ報告スヘシ

第十九條 本規程ニ規定セサル事項ハ鐵道運轉規程鐵道信託規程及火藥類鐵道運送規程ノ規定ヲ準用ス

第二十條 本規程ハ官設鐵道ニ之ヲ準用ス

附表

第 號	明治 年 月 日	鐵道官衙
鐵道軍用輸送券 (甲部)		

第二		第三		第四		第五	
町取二番	田取新	愛知縣	名古屋	大府	伏見	山見	田取
北新	新	愛知縣	名古屋	大府	伏見	山見	田取
福島縣	南會津郡	愛知縣	名古屋	大府	伏見	山見	田取
北會津郡	那須郡	愛知縣	名古屋	大府	伏見	山見	田取
河沼郡	河沼郡	愛知縣	名古屋	大府	伏見	山見	田取
大沼郡	大沼郡	愛知縣	名古屋	大府	伏見	山見	田取
村松町	村松町	愛知縣	名古屋	大府	伏見	山見	田取

第六		第七		第八	
町取三番	町取四番	川	旭	札	札
久留米市	三井市	三井市	三井市	三井市	三井市
八女郡	山門郡	山門郡	山門郡	山門郡	山門郡
三池郡	三池郡	三池郡	三池郡	三池郡	三池郡
久留米市	久留米市	久留米市	久留米市	久留米市	久留米市

明治三十七年一月 省令 陸軍省第四號 陸軍部及陸軍分隊管區表

○司法省令第一號

大分地方裁判所管内竹田區裁判所市場出張所ヲ三重出張所ト改稱ス
本令ハ明治三十七年二月一日ヨリ施行ス

明治三十七年一月二十三日

司法大臣波多野敬直

○農商務省令第一號

明治三十四年農商務省令第一號ハ北海道地方農ヲ以テ設立スル工業試驗場及工業講習所ニ之ヲ適用ス

明治三十七年一月八日

農商務大臣男爵清浦奎吾

〔參照〕

明治三十四年二月農商務省令第一號ハ府縣郡市工業試驗場及府縣郡市工業講習所規程ナリ

○逓信省令第一號

明治三十六年三月逓信省令第十三號第九條中「府縣知事」ヲ「北海道廳長官又ハ府縣知事」ト改メ
明治三十七年一月四日

逓信大臣大浦兼武

〔參照〕

逓信省令第十三號町村ノ購置ニ依リ電信施設ニ關スル施行細則(明治三十六年三月二十一日)第九條
第九條 本令ニ依リ逓信大臣ニ提出スル書類ハ總テ府縣知事ノ副署ヲ具シ其ノ町村所轄ノ逓信管理局又ハ一等郵便局ニ提出スル

○逓信省令第二號

相模國葉山一色電話所ノ電話通信區域、電話料及電話呼出料ハ葉山電話所ト同一トス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス
明治三十七年一月九日

逓信大臣大浦兼武

○逓信省令第三號

明治三十年三月逓信省令第三十二號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通過加メ本日ヨリ施行ス
明治三十七年一月二十一日

逓信大臣大浦兼武

前橋高崎間金二十錢ノ次ニ

後須賀葉山間

金二十錢

金十錢

後須賀葉山間

金十錢

金二十錢

金十錢

○逓信省令第四號

明治三十年三月逓信省令第三十二號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通過加メ本日ヨリ施行ス
明治三十七年一月二十六日

逓信大臣大浦兼武

廣島吳間金二十五錢ノ次ニ

神戸岡山間金四十錢ノ次ニ

金二十五錢

金二十錢

後佐保保間

金二十五錢

後岡佐保保間

金十五錢

金十五錢

○内務省令第一號
肺結核豫防ニ關スル件左ノ通定ス

明治三十七年二月四日

内務大臣 伯耆 太郎
司法大臣 波多野敬直
文部大臣 久保田 謙
農商務大臣 野村 浩三
逓信大臣 大浦 兼武

肺結核豫防ニ關スル件

第一條 學校病院製造所船舶發着待合所劇場寄席旅店其ノ他地方長官ノ指示スル場所ニハ適

當箇敷ノ唾壺ヲ配置スヘシ

警察官署ハ前項配置ノ唾壺不適當ナルガ若ハ其ノ箇敷充分ナラスト認ムルトキハ期間ヲ定メテ

唾壺ノ變更ヲ命ジ若ハ箇敷ヲ指定シテ之ヲ増置セシムルコトヲ得

前項ノ唾壺ニハ唾痰ノ乾燥飛散ヲ防ク爲少量ノ消毒藥液又ハ水ヲ入レ置キ唾壺内ノ唾痰ハ第六

條ノ方法ニ依リ消毒スルニアラサレハ投棄スヘカラス

第二條 前條ノ場所ニ於テハ何人ト雖モ唾壺以外ニ唾痰ヲ咯出スルコトヲ得ス

第三條 地方長官ノ指定シタル礦泉場海水浴場轉地療養所ニ於ケル旅店ハ左ニ掲クル事項ヲ遵

守スヘシ

一 營業用ニ供スル寝具ハ白布ヲ以テ被包スルコト

二 前號ノ白布及貸浴衣ハ使用者ヲ更ムル毎ニ洗濯スルコト

三 肺結核患者若ハ其ノ疑アル患者ナルコトヲ知リタルトキハ其ノ患者ノ居室ハ消毒スルニア

ラサレハ他人ヲ宿泊セシメサルコト

四 前號ニ掲グル患者ノ使用シタル物品ハ消毒スルニアラサレハ他人ニ使用セシメサルコト

第四條 病院ハ左ニ掲グル事項ヲ遵守スヘシ

一 肺結核患者ト他ノ患者トヲ同室ニ收容セサルコト

二 肺結核患者ヲ入レタル病室ニハ消毒スルニアラサレハ他ノ患者ヲ收容セサルコト

三 結核病者ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物品ハ使用者ヲ更ムル毎ニ消毒スルコト

第五條 監獄官公立ノ學校、病院、養育院、育兒院、製造所、官設及私設ノ鐵道停車場、同客車ニ於テハ其ノ首長ハ本令ノ規定ニ準シ相當ノ措置ヲ爲スヘシ

第六條 消毒方法ハ明治三十年五月内務省令第十三號ニ依ルヘシ但シ唾痰ヲ消毒スルニハ石炭酸水(二十倍)結晶石炭酸五分體ヲ使用スヘシ

第七條 第一條第一項ニ違背シテ唾痰ヲ配置セサル者、警察官署ノ指定シタル期間ニ其ノ命令ヲ履行セサル者、同條第三項及第三條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 第二條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第九條 第四條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十條 第七條第九條ノ罰金ハ使用人其ノ他ノ從業者ノ所爲ト雖モ之ヲ其ノ首長又ハ營業者ニ科ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關レ本令ニ違背シタル場合ニ於テハ本令ニ規定シタル罰則ハ之ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第十一條 本令ノ規定ハ廳府縣令ヲ以テ肺結核預防ニ關スル規定ヲ設ケルコトヲ妨ケス

第十二條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

第十三條 本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

○大藏省令第三號

明治三十五年十一月大藏省令第二十四號專賣局出張所名稱位置中本專賣支局馬頭出張所ノ次ニ左ノ出張所ヲ追加シ北葛根湯出張所ハ之ヲ廢止ス

明治三十七年二月四日

大藏大臣 野村胡堂

名稱

喜連川出張所

位置

栃木縣鹽谷郡喜連川町

○大藏省令第四號

國庫債券發行規程左ノ通之ヲ定ム

明治三十七年二月十三日

大藏大臣 野村胡堂

國庫債券發行規程

第一條 政府ハ明治三十六年勅令第二百九十一號ニ依リ國庫債券壹億圓ヲ發行ス

第二條 國庫債券利子ノ割合ハ一箇年百分ノ五トス

第三條 國庫債券ハ無記名利札附トシ其種類ハ五拾圓、百圓、五百圓、千圓及五千圓ノ五種トス但應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名ト爲スコトヲ得

第四條 國庫債券元金ハ募集ノ年ヨリ五箇年以内ニ償還スルモノトス

第五條 國庫債券ノ利子ハ毎年六月及十二月ニ於テ支拂フモノトス

第六條 國庫債券ノ發行價格ハ額面百圓ニ付其最低ヲ九拾五圓トス

第七條 國庫債券ノ應募申込期間ハ明治三十七年三月一日ヨリ同月十日ヲテトス

第八條 應募申込人ハ應募高應募價格及住所姓名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金貳圓ノ保證金ヲ添ヘ日本銀行本支店其他日本銀行ノ定ムル申込所ニ申込ムヘシ但保證金ニハ利子ヲ付セズ

第九條 國庫債券應募高應募價格ニ超過スルトキハ大藏大臣ハ應募價格ノ高キモノヨリ順次債券ヲ

交付シ需要額ニ滿スルニ至テ止ム其價格同シキモノハ申込ノ高ニ割合ヒ減少スルモノトス但一
百圓以下ノ應募者ニハ之ヲ減少セズ

第十條 申込ハ明治三十七年三月二十一日マテニ確定スルモノトス

確定ノ上ハ其旨申込人ニ通知スヘシ

第十一條 前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ左ノ區別ニ依リ拂込ヲ爲スヘシ但第一回拂込ハ保證金ヲ以
テ之ニ充ツ

- 第一回 三月二十一日 貳圓(券面百圓)
- 第二回 四月十六日ヨリ同月二十五日迄 拾五圓(同前)
- 第三回 五月十六日ヨリ同月二十五日迄 拾五圓(同前)
- 第四回 七月十六日ヨリ同月二十五日迄 拾五圓(同前)
- 第五回 八月十六日ヨリ同月二十五日迄 拾圓(同前)
- 第六回 九月十六日ヨリ同月二十四日迄 拾五圓(同前)
- 第七回 十月十七日ヨリ同月二十五日迄 拾五圓(同前)
- 第八回 十一月十六日ヨリ同月二十五日迄 八圓(同前)

發行價格以上ノ申込ヲ爲シタル者ハ第二回拂込ト共ニ其差額ヲ拂込ムヘシ
第十二條 應募者ノ都合ニ依リ應募額ノ全部又ハ一部ヲ一時ニ拂込ヨリ若クハ後期ノ分ヲ前期ニ繰
上ケ拂込ヲ爲スコトヲ得

第十三條 國庫債券ノ應募者第二回ノ拂込ヲ了シタルトキハ記名ノ假債券ヲ交付シ全額拂込ノ上
ハ之ト引換ニ本債券ヲ交付スヘシ

第十四條 前條ノ假債券ハ買賣譲與シ及質ト爲スコトヲ得
前項ノ取扱ニ關シテハ明治三十七年大藏省令第十七號ヲ準用ス

第十五條 假債券ヲ紛失シ又ハ消滅シタルモノアルトキハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其事實ヲ日本
銀行本支店若クハ代理店ニ證明シ更ニ假債券ヲ請求スルコトヲ得

第十六條 國庫債券取扱ニ關スル順序ハ本令ニ規定シタルモノノ外ハ明治十九年大藏省令第二十
號整理公債取扱順序ニ據ル

○大藏省令第五號

明治三十七年大藏省令第四號國庫債券發行規程中左ノ通改正ス

第三條中其種類ハノ下ニ貳拾五圓ヲ五千圓ノ下ニ壹萬圓ヲ加ヘ五種ヲ七種ニ改ム
大藏大臣男爵曾禰荒助

○陸軍省令第五號

陸軍現役將校同相當官及准士官ニシテ現役年限年齢ニ滿スル者ハ當分現役ヲ繼續セシム
陸軍豫備役後備役將校同相當官准士官及現役豫備役後備役下士兵卒並田兵下士兵卒及六補充兵ニ
シテ服役期限滿ツル者ハ當分其ノ服役ヲ延期ス

明治三十七年二月六日 陸軍大臣寺內正毅

○陸軍省令第六號

陸軍兵籍規則左ノ通改正ス

明治三十七年二月十日 陸軍大臣寺內正毅

陸軍兵籍規則

第一條 陸軍兵籍ハ分テ第一種及第二種兵籍トス

將校同相當官及准士官ノ兵籍ハ第一種兵籍トシ士官候補生主計候補生見習醫官見習藥劑官見
習獸醫官下士兵卒並及職工ヲ包テ諸生徒並常備兵籍ニ編入ス及依託學生ノ兵籍ハ第一種兵籍トス

明治三十七年二月 省令 大藏省第五號 陸軍省第五號 第六號 陸軍兵籍規則

「何月何日何少尉」○「何月日正八位」○ 「何月何日少尉」○ 「何月何日何階級」○ 「何月何日何階級」○ 「何月何日何階級」○	「何月日一等給下賜」○「何月日何々二付何 地ニ派遣巡回」何月日歸著「何月日何々 法會議判士長判士」○「何月日軍
----------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------

第一種陸軍兵籍

一 當開ハ陸軍出身後ニ領ルモノヲ指ク
二 當開ハ陸軍出身後ノ事項ヲ逐年順次ニ記載スルモノトス
三 當開ハ陸軍出身後ノ事項ヲ逐年順次ニ記載スルモノトス
四 當開ハ陸軍出身後ノ事項ヲ逐年順次ニ記載スルモノトス
五 當開ハ陸軍出身後ノ事項ヲ逐年順次ニ記載スルモノトス

六 月給ニ關スル事項トハ該條ニ依リ記載スルモノトス
七 陸軍省令ニ依リハ記載例ヲ示ス
八 陸軍省令ニ依リハ記載例ヲ示ス

附表第二(料紙西ノ内紙)

九寸

兵科	階級	氏名	生	死	妻	子	父	母	兄弟	姉妹
陸軍	少尉	田中 太郎	明治三十七年一月一日	明治三十七年一月一日	明治三十七年一月一日	明治三十七年一月一日	明治三十七年一月一日	明治三十七年一月一日	明治三十七年一月一日	明治三十七年一月一日

第七様式ノ一中近衛師團欄内砲兵ヲ野戰砲兵ニ改メ海軍欄内砲治ヲ削ル
第七様式ノ五欄外第三項中「砲治」ヲ削ル

附則

本令ハ明治三十七年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

陸軍省令第十號陸軍事務條例施行細則(明治二十九年四月二十三日抄録)

第三條第二項

前項ノ人員中明治二十八年勅令第百二十六號第三條及明治三十年勅令第百五十八號第二項ニ當ルヘキ人員及前年假決

ノ人員ハ各別記スヘシ

第九條第二項

徵集免除ニ關シ國民兵役ニ服スル者ニハ前項ノ例ニ依リ本人ニ適スヘシ

第十二條 海軍兵ニ編入スヘキ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選ツヘシ

一 機關兵ハ體力強健ニシテ視力聴力完全シ且成ルヘキ普通ノ文字ヲ解シ汽機汽船ノ取扱ニ慣レタル者

四 木工及鐵治ハ材力アリテ成ルヘキ此ノ職業ニ慣レタル者

第十八條 艦札ハ附録第四様式ニ依リ之ヲ作り艦籍ニ納メ之ヲ封鎖シ徵集官徵集事務員列席ノ前ニ置キ其ノ封ヲ披キ徵兵

事務員長或ハ附録第四様式ニ依リ之ヲ作り艦籍ニ納メ之ヲ封鎖シ徵兵官徵集事務員列席ノ前ニ置キ其ノ封ヲ披キ徵兵

第三十五條 條例第四十三條及第六十五條ニ依リ集令地ハ左ノ如シ

第四十一條 現役兵第一補充兵及現役兵ニ繰上ケタル海軍補充兵ハ島田郡市長(東京市)江刺市市長(大阪府)各ヨリ各自ノ戶籍高フ屬隊

區司令官又ハ警備隊司令官ニ送附シ聯隊區司令官ハ第一補充兵ニシテ現役兵ニ繰上ケタル者ヲ除ク外之ヲ各隊長又ハ

警備隊司令官ニ送附スヘシ

第五十三條 志願兵出願者ニシテ採用ニ決シタルトキハ現役兵及補充兵ニ決定スルモ入營ノ前後ヲ問ハズ志願ニ應ゼシム

但シ現役兵ニシテ該志願ニ應ゼサル者ハ條例第四十五條第二項ノ例ニ依リ翌年之ヲ徵集スルモノトス

○陸軍省令第八號

明治三十三年陸軍省令第三十號中左ノ通改正ス

陸軍大臣寺內正毅

第二條中第二項ニ依リ徵集免除ニ屬スル者及同第三項ヲ削ル

第六條中第三項ヲ削ル

第八條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ近衛兵ニ在リテハ近衛師團長ヨリ第六師團長ニ通知スヘシ

第十條 削除

第十一條中各隊長ノ下ニ近衛入營兵受領員ヲ加フ

附則

本令ハ明治三十七年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

陸軍省令第三十號(明治三十三年十月十三日抄録)

第二條 明治三十年勅令第百五十八號第二項ニ依リ徵集免除ニ屬スル者及同第三項ニ依リ徵集免除ニ屬スル者ハ身檢檢

査ヲ行ハス

第六條 明治二十八年勅令第百二十六號第二條及明治三十年勅令第百五十八號第三項ニ依リ徵集免除ニ屬シタル者ハ町

村長ニ於テ其ノ處分ヲ受ケタル翌年ヨリ徵集免除期限満シタル迄毎年其ノ生業ノ狀況ヲ調査シ徵兵要開股送ニ屬シタル徵兵

官ニ報告スヘシ

第十條 沖繩縣ノ島郡區長ハ現役兵第一補充兵及現役兵ニ繰上ケタル海軍補充兵ノ戶籍高フ警備隊區司令官ニ送附シ警

備隊區司令官ハ第一補充兵ニシテ現役兵ニ繰上ケタル者ヲ除ク外之ヲ各隊長又ハ鐵守府府兵官ニ送附スヘシ

第十一條 徵兵事務條例第十一條ノ引率吏員ハ現役兵交付ノ際徵兵事務條例第四十四條ノ入營延期願書ノ者其ノ他事

故不參ノ者ノ人名及事由各隊長若ハ鐵守府府兵官ニ通知シ又引率ノ際永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認ムル者アルトキハ其

ノ除附願書ヲ添ヘ警備隊區司令官ニ通報スヘシ

○海軍省令第三號

海軍豫備役後備役准士官以上及下士卒ニシテ服役滿期ニ至ル者ハ當分ノ内該服役ヲ延期ス

明治三十七年二月五日

海軍大臣野村權兵衛

○海軍省令第四號

市長村長 東京市 又ハ之ニ準スヘキ者ハ海軍志願兵及其ノ家族ニシテ左ノ事項ニ當ル者アルトキハ志願兵在籍領守府所在地ノ海軍經理部ニ報告スヘシ

一 戸籍ニ異動アリタルトキ

二 轉籍ヲ爲シタルトキ

三 家族所在不明ト爲リタルトキ

四 所在不明ノ家族所在判明セシトキ

海軍志願兵ノ家族轉居シタルトキハ其ノ家族ハ直ニ志願兵在籍領守府所在地ノ海軍經理部ニ届出ス

本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年二月二十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省令第五號

明治三十一年海軍省令第四號海軍志願兵家族扶助金支給規則ハ明治三十七年三月三十一日限り之ヲ廢止ス

明治三十七年二月二十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省令第六號

海軍生徒學生下士卒死亡者取扱規則中左ノ通改正ス

明治三十七年二月二十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第二十條 第二十一條 第二十二條 第二十三條 第二十四條 第二十五條ヲ削ル
第二十七條 中但書ヲ削ル
死體引受願書式(附) 附則 中死亡者ニハ地ヲ削リ追書ヲ左ノ通改ス

追テ海軍埋葬地内(外)ニ埋葬可仕候也

附則

本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

【参照】

海軍省令第一號海軍生徒學生下士卒死亡者取扱規則(明治三十三年一月七日)抄録

第二十條 明治三十二年勅令第二號ニ依リ支給スル埋葬料ハ左ノ區分ニ依ル

一 海軍埋葬地ニ葬ルトキハ生徒學生及下士ニハ二十圓卒ニハ十五圓トス

二 海軍埋葬地外ニ葬ルトキハ生徒學生及下士ニハ二十圓卒ニハ十五圓トス

第三十一條 傳染病ニ罹リ死亡シタル者ニ對シ傳染病預防法ニ依リ行フ預防ニ關シ死體取扱ニ必要ナル費用ハ總テ官費トス

第三十二條 溺死等ニテ死體ヲ取服成ハ通當取服ヲ以テ死體ニ代ヘ葬ル場合ト雖モ明治三十二年勅令第二號ニ依リ埋葬料ヲ支給スルコトヲ得

第三十三條 艦内其ノ他各部ニ於テ死體ヲ葬ルトキハ第二十條埋葬料金額以內ノ實費ヲ以テ現ニ此ノ埋葬料ヲ爲シシ艦内其ノ他各部ノ經費ヨリ支給スヘシ

第三十四條 外國航海中死體ヲ外國ニ於テ埋葬シ又ハ傳染病ニ罹リタル者ノ死體ヲ埋葬スル場合ニ於テ第二十條金額以內ニテ支給シ難キトキハ特ニ其ノ實費額ヲ爲スコトヲ得

第三十五條 市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者第二十條及第十一條ニ依リ死亡者ヲ埋葬スルトキハ第二十條埋葬料金額以內ヲ以テ埋葬シ速ニ其ノ計算書ヲ調製シ本人所屬ノ長ニ請求スヘシ

第三十七條 前條ニ依リ親族散居成ハ身元引受人ニ死體ヲ引渡ストキハ先ツ之ヲ欲シ棺上ニ白布ヲ覆フヘシ但シ此ノ費用ハ死體引受人ニ於テ埋葬料中ヨリ支給スルモノトス

○海軍省令第七號

明治二十二年省令第四號ハ明治三十七年三月三十一日限り之ヲ廢止ス

明治三十七年二月二十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

【参照】

海軍省令第四號(明治三十三年六月十三日)抄録

明治三十七年二月 省令 海軍省第七號

○司法省令第五號
神戸地方裁判所管内神戸區裁判所兵庫出張所ノ管轄ニ屬スル商業登記ノ事務ハ神戸區裁判所ニ於テ之ヲ取扱フ
本令ハ兵庫出張所開闢ノ日ヨリ施行ス
明治三十七年二月十二日
司法大臣波多野敬直

○司法省令第六號
松江地方裁判所西郷支部ニ於テハ豫審事務ヲ除ク外當分裁判事務ヲ取扱ハス本令ハ明治三十七年二月二十五日ヨリ施行ス
明治三十七年二月十六日
司法大臣波多野敬直

○司法省令第七號
徳島地方裁判所管内富岡區裁判所小濱出張所ヲ櫻谷出張所ト改稱ス
本令ハ明治三十七年二月二十九日ヨリ施行ス
明治三十七年二月二十日
司法大臣波多野敬直

○文部省令第一號
明治三十三年文部省令第十四號小學校令施行規則中左ノ通改正ス
明治三十七年二月二十二日
文部大臣久保田巖

第六十四條ヲ左ノ如ク改メ
第六十四條 校地校舍體操場及校具ハ學校ノ規模ニ適應スルヲ要ス
校地ハ遊樂上並ニ衛生上善ナク且児童ノ通學ニ便利ナル場所ヲ選フヘシ
校舍ハ教授上管理上並ニ衛生上適當ニシテ敷地堅牢ナランコトヲ要ス

第六十五條乃至第七十四條及第七十八條ヲ削除ス

〔參照〕

文部省令第十四號小學校令施行規則(明治三十三年八月二十一日抄録)
第六十四條 校地ハ遊樂上並ニ衛生上善ナク且児童ノ通學ニ便利ナル場所ヲ選フヘシ
校地ハ遊樂上並ニ衛生上善ナク且児童ノ通學ニ便利ナル場所ヲ選フヘシ
第六十五條 體操場ハ分テ屋外體操場及屋内體操場トス
第六十六條 屋外體操場ハ方形若ハ之ニ類スル形状ニシテ其ノ面積ハ左ノ例ニ例ルヘシ
一 尋常小學校ニ於テハ児童百人以上未滿二百人以上ハ一坪以上一坪以上ノ割合トス
二 高等小學校ニ於テハ児童百人以上未滿二百五十坪以上トシ児童百人以上ハ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル児童一人ニ付尋常高等小學校ニ於テハ児童百人以上未滿二百五十坪以上トシ児童百人以上ハ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル児童一人ニ付一坪以上一坪以上ノ割合トス但シ児童百人以上ニシテ高等小學校ノ教科ヲ修ムル児童百人以上未滿二百五十坪ノ外全校児童中百人以上トシ児童一人ニ付一坪以上ノ割合ヲ以テ増スコトヲ得
第六十七條 特別ノ事情アルトキハ第二號及第三號ノ規定中一坪半ウ一坪マテニ減スルコトヲ得
第六十八條 屋内體操場ハ雨露ニ堪フヘキ設備ヲ爲スコトヲ要ス
第六十九條 屋内體操場ハ土地ノ情況ニ依リ之ヲ段ケサルコトヲ得
第七十條 校地内ニハ遊具ナル飲料水ヲ供給スルノ備ヲ爲シ又下水道ヲ設クヘシ
第七十一條 校舍ノ建築ハ規程上管理上衛生上ノ便ヲ圖リ質料堅牢ナランコトヲ要ス
第七十二條 校舍ハ平屋造ト爲スヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ二階造ト爲スコトヲ得
第七十三條 校舎ニハ各級級ニ應ジテ通學教室並ニ教員室ヲ設クヘシ
第七十四條 前項ノ外通學教室等ヲ設クル學校ニ於テハ便宜特別教室ヲ設ク又必要ナル場合ニ於テハ禮堂、児童控所、宿直室、湯洗所、小使室、砂場等ヲ設クヘシ
第七十五條 教室ノ構造ハ左ノ各項ニ準據スヘシ
多級小學校ノ教室ハ幅三間以上四間以下長四間以上五間以下單級小學校ノ教室ハ幅及長各々四間以上五間以下ヲ常例トシ其ノ大ハ児童一人ニ付三尺平方ノ割合ヨリ小ナルコトヲ得ス
天井ハ床面ヲ距ルコト九尺以上トスヘシ
床ノ高ハ二尺以上トシ床下ノ四方ニ風抜ヲ設クヘシ

探光窓ノ總面積ハ床面積ノ六分ノ一以上トシ其ノ下縁ノ位置ハ牀上凡二尺五寸ニ定メ其ノ上縁ハ牀上八尺五寸以上ニシテ成ルヘク天井ニ接近セシムヘシ但シ探光窓ノ上部ハ開閉ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

窓ハ兒童座席ノ前面ニ設クルコトヲ得ス

教室内ノ壁ハ灰色淡黄色其ノ他ノ中性色ト爲スヘシ

土地ノ情況ニ依リ成ルヘク校房ノ設置ヲ爲シ又ハ校房器ヲ備フヘシ

各教室ニハ通常二箇ノ出入口ヲ設クヘシ

第七十條 廊下ハ片廊下ヲ常例トシ其ノ幅ハ六尺以上タルヘシ

二階造ノ校舎ニハ二箇以上ノ階段ヲ設クルヲ常例トス

階段ハ幅四尺五寸以上上縁上テ五寸乃至六寸階而八寸乃至一尺トシ成ルヘク曲折構造ト爲シ中間ニ踏場ヲ設ケ且手欄ヲ附スヘシ

第七十一條 昇降口ハ成ルヘク男女ヲ區別シ常風ノ方向ヲ避クヘシ

第七十二條 便所ハ別棟トシ夏季常風ノ方向ニ注意シ又非テ距ルコト四間以上ノ位置ニ之ヲ設クヘシ

便所ノ排水ノ注入口ハ不透透物ヲ以テ之ヲ造ルヘシ

便所ハ男女ヲ區別シ男兒百人ニ付大便所二以上小便所四以上、女兒百人ニ付五以上ノ割合ヲ以テ設クルヲ常例トス

第七十三條 尋常小學校ニ於テハ教科用圖書地圖度量衡器黑板机履掛時計環曉計其ノ他必要ナル器具並テ用圖書及小學校ニ關スル法令等ヲ備フヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ノ外歴史地理及理科ノ教授用具體操器械中學校高等女學校及實業學校ニ關スル法令等ヲ備フヘシ

第七十四條 兒童用机及履掛ノ寸法ハ第八號表ノ標準ニ依リ兒童ノ身長ニ適應セシムコトヲ要ス

第七十八條 土地ノ情況ニ依リ水草ノ規定ニ依リ離キトキハ府縣知事ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

○文部省令第二號
明治二十五年文部省令第十二號師範學校設備規則中左ノ通改正ス
明治三十七年二月二十二日
文部大臣久保田謙

第一條 左ノ如ク改ム

第一條 師範學校ニ於テハ校地校舎寄宿舎體操場及校具ヲ備フヘシ

第二條 左ノ如ク改ム

第二條 校地校舎體操場及校具ハ學校ノ規模ニ適應スルヲ要ス

第三條 左ノ如ク改ム

第三條 校地ハ道徳上並ニ衛生上善ナキ所タルヘシ

第三條乃至第九條ヲ削除ス

〔參照〕
文部省令第十二號師範學校設備規則(明治二十五年七月十一日抄録)

第一條 校地ハ學校ノ規模ニ適應ナル地積ヲ有シ道徳上及衛生上ニ善ナキ所タルヘシ

第二條 校地内ニ體操場ニ光テハ相當ノ場所ヲ設クヘシ土地ノ情況ニ依リ校地内ニ之ヲ設クルコトヲ得サルトキハ成ルヘク學校ノ近傍ニ之ヲ設クヘシ

第三條 校舎ハ其構造堅牢ニシテ教授上及衛生上ニ適スルモノタルヘシ

第四條 校舎ハ各科ノ程度級級及生徒ノ數並其ノ他ノ必要ニ應ジ左ノ諸室ヲ備フヘシ

一 通學教室

二 物理化學博物家事園藝音樂等ノ特別教室並商業實習手工實習場

三 圖書室圖書室高桌標本室

四 講堂

五 職員室其他必要ノ諸室

前項ノ外便宜體操場ニ充ツル(中相當ノ建物ヲ設クヘシ)

第五條 前項ノ外生徒寄宿舎ヲ設クヘシ

寄宿舎ハ自修室並浴室ヲ區別シ且合點室食器洗滌室並貯物等ヲ備フヘシ但女生徒ニ就テハ自修室浴室ヲ區別セサルコトヲ得

第六條 校舎ハ男生徒女生徒ニ就テ區別シテ之ヲ設クヘシ但通學教室及寄宿舎ヲ除クノ外ハ土地ノ情況ニ依リ本文ノ例ニ依リサルコトヲ得

第七條 教室ニ必要ナル黑板机履掛等ハ適宜ナルモノヲ備ヘ其他合點室ニ必要ナル器具等ヲ備フヘシ

第八條 地理數學物理化學博物家事園藝音樂體操農業商業手工等ノ教授用具器械標本模型圖畫等ハ師範學校ノ學科程度ヲ教授スルニ必要ナル機之ヲ備フヘシ

第九條 圖書ハ教科用及參考用ノモノヲ備フヘシ

○文部省令第三號

明治三十四年文部省令第三號中學校令施行規則中左ノ通改正ス

明治三十七年二月二十二日

文部大臣久保田謙

第二十五條 左ノ如ク改ム
第二十五條 中學校又ハ其ノ分校ニ於テハ校地、校舎、體操場及校具ヲ備ヘ又必要ノ場合ニハ寄宿舎ヲ設クヘシ

第二十六條 左ノ如ク改ム

第二十六條 校地、校舎及體操場ハ學校ノ規模ニ適應スルヲ要ス

校地ハ道徳上竝ニ衛生上密ナキ所タルヘシ

校舎ハ教授上管理上竝ニ衛生上適當ニシテ質朴堅牢ナラントヲ要ス

第二十七條 乃至第三十二條及第三十七條ヲ削除ス

〔參照〕

文部省令第三號中學校令施行規則明治三十四年三月五日抄録

第二十五條 中學校又ハ其ノ分校ニ於テハ校地、校舎、體操場及校具ヲ備フヘシ但シ文部大臣ノ認可ヲ受ケ寄宿舎ヲ備フコトヲ要ス

第二十六條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ道徳上竝ニ衛生上密ナキ所タルヘシ

第二十七條 校舎ハ教授上管理上竝ニ衛生上適當ニシテ質朴堅牢ナラントヲ要ス

第二十八條 校舎ニハ左ノ附屬ヲ備フヘシ

一 圖書教室

二 博物物理及化學圖書ノ各特別教室

三 禮堂

四 圖書室、寫字室、演習室

五 師長、生徒、庶務所、其他必要ナル附屬

博物物理及化學ノ特別教室ハ便宜兼用スルコトヲ得

特別教室ハ通算敷地ニ便宜兼用スルコトヲ得

圖書室、寫字室、演習室ハ便宜兼用スルコトヲ得

第二十九條 敷地ノ大ハ一畝級ノ生徒ヲ容ルルニ足ルヲ度シ生徒一人ニ付容積百二十五立方尺ノ割合ヨリ小ナルヘカラス

第三十條 寄宿舎ニハ自修室、圖書室、食室、應接所、浴室、盥洗所、病室等ヲ備フヘシ

自修室、圖書室ハ便宜兼用スルコトヲ得

第三十一條 自修室ノ大ハ生徒一人ニ付容積三百二十四立方尺、圖書室ノ大ハ生徒一人ニ付容積四百八十六立方尺、自修室、圖書室兼用スルトキハ生徒一人ニ付容積五百六十七立方尺ノ割合ヨリ小ナルヘカラス

第三十二條 體操場ハ分テ屋外體操場及屋内體操場トス

屋外體操場ハ方形若ハ之ニ類スル形状ニシテ二千坪以上ノ面積ヲ備フヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ千坪マデニ減スルコトヲ得

屋内體操場ハ生徒浴所ニ兼用シ又ハ土地ノ情況ニ依リ之ヲ設ケサルコトヲ得

第三十七條 左ノ各款ノ一ニ該當スルトキハ假校舎ヲ使用スルコトヲ得

一 新ニ中學校又ハ其ノ分校ヲ設置スルトキ

二 非常變災アリタルトキ

前項第一號ノ場合ニ於ケル假校舎ノ使用ハ道廳府縣立中學校ニ在リテハ文部大臣ニ届出ツヘシ其ノ他ノ中學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ第二號ノ場合ニ於ケル假校舎ノ使用ハ文部大臣ニ届出ツヘシ

前項ニ依リ地方長官ニ於テ認可ヲ爲シタルトキハ文部大臣ニ届出ツヘシ

假校舎使用ニ關スル認可申請又ハ届出ヲ爲ストキハ其ノ事由及使用期間ヲ具シ且前條及次條第四項ノ圖面、分析表ヲ添付スヘシ

○文部省令第四號

明治三十四年文部省令第四號高等女學校令施行規則中左ノ通改正ス

明治三十七年二月二十二日

文部大臣久保田謙

第二十六條 左ノ如ク改ム
第二十六條 校地、校舎、寄宿舎、體操場、校具及住宅ニ關シテハ中學校令施行規則第二十五條第二

十六條 第三十三條 第三十五條及第三十六條ノ規定ヲ準用ス
第二十七條乃至第二十九條ヲ削除ス

〔參照〕

文部省令第四號高等女學校令施行規則(明治三十四年三月二十二日)抄錄

第二十六條 高等女學校ニ於テハ校地校舎體操場及校具ヲ備フヘシ

遊藝府縣立高等女學校ニ於テハ前項ノ外寄宿舎ヲ備フヘシ但シ文部大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ備ヘサルコトヲ得

第二十七條 校地校舎校具校具及住宅ニ關シテハ中學校令施行規則第二十六條第二十七條第二十九條乃至第三十一條第三十三條第三十五條乃至第三十七條ノ規定ヲ準用ス

第二十八條 校舎ニハ左ノ附屬ヲ備フヘシ

一 通學教室

二 理科圖書器械音樂ノ各特別教室

三 禮堂

四 圖書室機械室標本室

五 職員室生徒事務所其ノ他必要ナル附屬

圖書室標本室ハ便宜兼用スルコトヲ得

圖書室器械室標本室職員室ハ便宜兼用スルコトヲ得

第二十九條 體操場ハ分テ屋外體操場及屋內體操場トス

屋外體操場ハ力形者ハ之ニ類スル形狀ニシテ相當ノ面積ヲ備フヘシ

屋內體操場ハ生徒事務所兼用スルコトヲ得

○農商務省令第二號
種牛牧場種付規則左ノ通相定ム

明治三十七年二月三日

農商務大臣 岡倉清浦 奏 奉

第一條 左ニ掲クル資格ヲ有スル牝牛ノ所有者又ハ管理者ハ種牛牧場ニ種牝牛ノ種付ヲ出願スルコトヲ得

一 年齡滿二歳以上ニシテ發育健全ナルコト

二 身軀四尺以上ナルコト但シ體格均稱宜シキモノハ此ノ限ニ在ラズ

三 遺傳病又ハ惡癖ナキコト

四 體格優等性質善良體質健全ナルコト

前項ノ出願ヲ爲サムトスル者ハ郡市役所ヲ經由シ第一號様式ニ依リ願書ヲ種牛牧場長ニ差出ス

第二條 前條ノ出願アリタルトキハ種牛牧場長ハ検査ノ期日及場所ヲ指定シ出願者ヲ種牝牛ヲ

牽付ケレメ前條各號ノ事項ヲ検査シ検査ニ合格シタル牝牛ニ付種付合格證ヲ交付スヘシ

第三條 種付合格證ヲ有スル牝牛ノ所有者、管理者又ハ其ノ牝牛ノ讓受人ハ其ノ一期三回ヲ限リ

其ノ牝牛ニ付種付ヲ請求スルコトヲ得

種付ヲ受ケムトスル者ハ種付合格證ヲ携帶シ其ノ牝牛ヲ種牛牧場ニ牽付クヘシ

第四條 種付ヲ爲スヘキ種牝牛ハ左ノ三種類トス

一 エーアンヤ一種

一 シンメンター一種

一 プラウンスウイス種

第五條 種付料ハ牝牛一頭ニ付一期金三圓トス

第六條 種付料トシテ納付スヘキ收入印紙ハ第二號様式ニ依リ納付書ニ之ヲ貼付シ第一回ノ種付

ヲ受ケムトスル際之ヲ種牛牧場長ニ差出スヘシ

種牛牧場長前項ノ納付書ヲ收受シタルトキハ其ノ適法ナルコトヲ認メタル後納付書ノ紙面ト貼

付印紙ノ彩紋トニ掛ケ消印ヲ押捺スヘシ

既納ノ種付料及其ノ過剩額ハ之ヲ還付セス

第七條 種付牝牛又ハ其ノ産贖ノ所有者管理者又ハ譲受人ハ遲滞ナク左記ノ事項ヲ種牛牧場長ニ届出ヘシ共ノ届書ニハ種付合格證ノ番號ヲ附記スベシ

一 種付合格證交付後分曉前其ノ牝牛ヲ讓渡シタルトキハ其ノ譲受人ノ氏名住所共ノ牝牛號死シタルトキハ其ノ年月日及事由

二 種付ヲ受ケタル牝牛分娩シタルトキハ生産ニ付テハ其ノ年月日及産贖ノ性毛色並出産ノ時ニ於ケル身軀死産ニ付テハ其ノ年月日及事由

三 種付ヲ受ケタル牝牛ノ産贖ヲ讓渡シタルトキハ其ノ年月日價額及譲受人ノ氏名住所共ノ産贖死シタルトキハ其ノ年月日及事由

第八條 種付牝牛ノ所有者又ハ管理者ハ其ノ産贖ニ付血統證ノ下付ヲ種牛牧場長ニ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ種牛牧場長ノ指定ニ從ヒ産贖ノ検査ヲ受クヘシ

第九條 左ノ場合ニ於テハ種牛牧場長ハ種付合格證ノ效力ヲ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

一 牝牛飼養地若ハ其ノ附近又ハ牽付ノ際經過スヘキ地方ニ於テ獸首傳染病ノ發生又ハ流行スルトキ

二 種付牝牛又ハ種付牝牛ノ疾病其ノ他ノ事由ニ依リ種付ヲ行フ能ハヌ又ハ種付ニ密アリト認めタルトキ

三 指定ノ種付牝牛ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキ

四 種付施行上當該官吏ノ指揮ニ從ハサルトキ

五 種付料ヲ納付セザルトキ

六 疾病又ハ傷瀉ニ依リ牝牛ヲ牽付スルコト能ハサルトキ

前項第六號ノ場合ニ於テハ疾病又ハ傷瀉ノ快復期ヲ豫定シ之ヲ届出ヘシ

第十條 種付合格證ハ左ノ場合ニ於テ其ノ效力ヲ失フ

一 種付合格證交付後六十日以内ニ於テ其ノ牝牛ニ種付ヲ受ケザルトキ

二 第一回若ハ第二回ノ種付後六十日以内ニ於テ其ノ牝牛ニ種付ヲ受ケザルトキ

三 種付牝牛受胎シタルトキ

四 種付回数一期間三回ニ及ビタルトキ

前條第一項第二號第二號及第六號ニ依リ合格證ノ效力ヲ停止シタル日數ハ前項第一號及第二號ノ期間ニ之ヲ算入セス

第十一條 種付出願者カ第二條第一項ノ期日及場所ニ牝牛ヲ牽付ケザルトキハ出願ハ其ノ效力ヲ失フ

第十二條 種付出願者ハ種付ニ因リ生シタル損害ニ對シ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十三條 種付牝牛ノ疾病其ノ他ノ事由ニ依リ種付スルコト能ハサルトキハ種牛牧場長ハ種付牝牛ノ所有者又ハ管理者ノ同意ヲ得テ種付牝牛ノ種類ヲ變更スルコトヲ得

第十四條 種牛牧場長ハ第七條ノ届出ヲ怠リ若ハ第九條第一項第三號乃至第五號ニ依リ種付合格證ノ效力ヲ取消サレ又ハ種付牝牛若ハ産贖ノ飼養其ノ他ノ管理ヲ怠リタル者ニ對シ種付ヲ許可セザルコトヲ得

第一號様式

種付願

一 何種牝牛	生年月	名號	身軀
毛色			
産地			
血統	父何種	毛色	産地
	母何種	毛色	
	右其母種牝牛何種ノ種付相取候也		

明治三十七年二月 省令 農商部告示第二號 種牛牧場種付規則

年月日
種牛牧場長宛

第二號様式

種付料納付書

一金割圖

但し種付合格證第 號何種種牡牛種付料
右納付候也

右納付候也

年月日

種牛牧場長宛

○農商務省令第三號

明治三十二年勅令第三百六十三號第十號ノ二及第十號ノ三ニ依リ國有林野產物ヲ隨意契約ニ依リ
排受ケントトヲ得ル重要製産品ノ製造業者及木材業者ノ資格左ノ通相定ム
農商務大臣男爵清浦奎吾

明治三十七年二月二十九日

第一條 木令ニ於テ重要製産品ノ製造業者ト稱スルハ左ニ掲ケル物品ノ製造業ヲ營ム者ヲ云フ

- 一 紙其ノ材料
- 一 漆器其ノ材料
- 一 漆器其ノ材料
- 一 包裝箱其ノ箱板
- 一 輸出向木材板類糊材
- 一 輸出向竹材
- 一 輸出向器具機械其ノ材料
- 一 輸出向水炭

第二條 重要製産品ノ製造業者ニシテ左記各號ノ一ニ該當シ信用確實ナルモノハ隨意契約ニ依リ

國有林野ノ產物ヲ其ノ製造用原料トシテ排受ケル資格アルモノトス

一 會社ニシテ一箇年以上其ノ排受ケントスル原料ヲ要スル重要製産品ノ製造業ヲ營ミ資本金三

萬圓以上ヲ有スルモノ

一 會社ニアラスシテ一箇年以上其ノ排受ケントスル原料ヲ要スル重要製産品ノ製造業ヲ營ミ一

箇年ノ賣上金額二千圓以上ナルモノ

一 排受ケントスル原料ヲ要スル輸出向物品ノ製造業ヲ營ミ資本金三萬圓以上ヲ有スルモノ

第三條 木材業者ニシテ左記各號ノ一ニ該當シ信用確實ナルモノハ隨意契約ニ依リ國有森林ノ主

產物ヲ排受ケル資格アルモノトス

一 會社ニシテ一箇年以上木材賣買ノ業ヲ營ミ資本金五萬圓以上ヲ有スルモノ

一 會社ニアラスシテ一箇年以上木材賣買ノ業ヲ營ミ營業稅五圓以上ヲ納ムルモノ

○逓信省令第五號

萬國電信條約第八條ニヨリ自今外國電報ニ對シ左ノ制限ヲナス

明治三十七年二月五日

逓信大臣大浦兼武

一 本邦並韓國釜山仁川及京城ヨリ發スル私用ノ外國電報ハ普通ノ日本語英語又ハ佛語ヲ以テ之ヲ記載スルヲ要シ暗號ヲ用フルヲ禁ス但シ東京郵便局橫濱郵便局及神戸郵便局ハ差出スモノニ限リ暗號ヲ用フルコトヲ許可スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ發信ノ際其暗號ニ日本語英語又ハ佛語ノ譯文ヲ添ヘ暗號帳ト共ニ之ヲ發信局ニ差出スヘシ

一 本邦ト在韓國本邦電信官署所在地トノ間及在韓國本邦電信官署所在地相互間ニ發著スル私用電報ハ普通ノ日本語英語又ハ佛語ヲ以テ之ヲ記載スルヲ要シ暗號ヲ用フルヲ禁ス

一 韓國政府所屬電信局ヨリ發シテ韓國内本邦局ニ著シ又ハ本邦局ヲ經由シテ外國ニ著スル私用電報ハ普通ノ日本語英語又ハ佛語ヲ以テ記載シタルモノヲ除ク外本邦電信線上ニ於テハ其傳送ヲ取扱ハス

一 本邦内線路並韓國釜山京城及仁川間本邦政府線路ヲ經過スル一切ノ電報ハ誤謬遲延又ハ不達ニ關シ發信人ノ危險承擔ニアラサレハ之ヲ取扱ハス

○逓信省令第六號

軍事郵便規則左ノ通相定ム

明治三十七年二月六日

海軍大臣 野山木權兵衛
陸軍大臣 寺內正毅
逓信大臣 大浦兼武

軍事郵便規則

第一條 軍事郵便物ニ關シ本規則ニ定メタルモノノ外ハ普通郵便ニ關スル規定ヲ準用ス

第二條 軍事郵便物ハ差出人ニ於テ其ノ表面ニ軍事郵便ノ四字ヲ記載シ尙ホ公用ニ屬スルモノハ公用ノ二字ヲ添記スヘシ

第三條 戰地若ハ之ニ準スル地ニ在リ又ハ該地ニ派遣スル軍隊軍艦水雷艇軍術軍人軍屬ニ宛テ又ハ該地ニ在ル者ニテ該軍術ノ許可ヲ得タル者ニ宛テ發シタル軍事郵便物ハ左ノ種類ニ限ル

一 通常郵便物

第一種 書狀

第二種 郵便葉書

第三種 毎月一回以上刊行スル定期刊行物

第四種 書籍印刷物寫眞

二 小包郵便物

第四條 戰地若ハ之ニ準スル地ニ在リ又ハ該地ニ派遣スル軍隊軍艦水雷艇軍術軍人軍屬並ニ該地ニ在ル者ニテ該軍術ノ許可ヲ得タル者ヨリ發シタル軍事郵便物ハ左ノ種類ニ限ル

一 通常郵便物

第一種 書狀

第二種 軍事郵便葉書私製葉書

二 小包郵便物

第五條 第三條及第四條ニ定ムル軍事郵便物ノ種類ハ時宜ニ依リ之ヲ増減スルコトアルヘシ

第六條 公用軍事郵便物ハ書留別配達配達證明留置及約束郵便トナスノ外特殊取扱トナスコトヲ得ス

第七條 私有軍事郵便物ニシテ第三條ニ依ルモノハ書留留置及約束郵便又第四條ニ依ルモノハ留置トナスノ外特殊取扱トナスコトヲ得ス但シ野戰郵便局又ハ艦船郵便所ニ留メ置クヘキ郵便物ニ對シテハ留置通知ヲ請求スルコトヲ得ス

第八條 軍事郵便物ノ差出人ハ其ノ郵便物ノ差立前ニ限り名宛變更又ハ取戻ヲ其ノ引受局所ニ請求スルコトヲ得但シ之カ爲メ事務ニ差支アルトキハ拒絕スルコトアルヘシ

第九條 軍事郵便物ノ別配遞送ニ軍事小包郵便物ノ轉送及還附ニ關シテハ別ニ料金を徴收セシ

第十條 第三條ニ依ル軍事郵便物ハ普通郵便局ノ取扱中ニ亡失又ハ毀損シタル場合ニ限り普通郵便ニ關スル規定ニ依リ其ノ損害ヲ賠償ス

第四條ニ依ル軍事郵便物ニ對シテハ總テ其ノ損害ヲ賠償セシ

○逓信省令第七號

軍事郵便爲替貯金規則左ノ通相定ム

明治三十七年二月六日

海軍大臣 野村 木權兵衛
陸軍大臣 寺内 正毅
逓信大臣 大浦 兼武

軍事郵便爲替貯金規則

第一章 通則

第一條 本則ニ於テ軍事郵便爲替又ハ軍事郵便貯金ト稱スルハ戰時若ハ事變ニ際シ野戰郵便局若ハ艦船郵便所ニ於テ引受ヲ取扱ヒタル通常郵便爲替又ハ預入ヲ取扱ヒタル通常郵便貯金ヲ云フ

第二條 軍事郵便爲替ノ取扱ヲ爲ス野戰郵便局又ハ艦船郵便所ト雖モ時宜ニ依リ軍人軍屬以外ノ者ヨリ請求スル軍事郵便爲替ノ取扱ヲ拒絕スルコトアルヘシ

第三條 軍事郵便爲替又ハ軍事郵便貯金ニ關シ本則ニ定メタルモノノ外ハ郵便爲替規則又ハ郵便貯金條例施行細則ヲ準用ス

第二章 軍事郵便爲替

第四條 軍事郵便爲替ハ當該局所ニ於テ差出人ヨリ現金ヲ受領シ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ爲替證書ヲ發行シ之ヲ其ノ受取人ニ送達ス

第五條 軍事郵便爲替ハ證書一枚ノ金額ニ制限ヲ付セシ

第六條 野戰郵便局又ハ艦船郵便所ニ於ケル軍事郵便爲替ノ取扱ニ關シテハ爲替料及其ノ他ノ料金ヲ徴收セシ

第七條 軍事郵便爲替ノ差出人ハ爲替金拂渡通知及其ノ他ノ特殊取扱ヲ請求スルコトヲ得ス但シ振出請求書領記ノ場合ニ於テ郵便ニ依リ訂正通知ノ請求ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 軍事郵便爲替ノ振出ヲ請求セントスル者ハ振出請求書ニ現金ヲ添ヘ當該局所ニ差出シ其ノ受領證書ヲ領置スヘシ但シ爲替金拂渡局所ノ指定ハ之ヲ省略スルコトヲ得

前項但書ニ依リ拂渡局所ノ指定ヲ省略シタルモノニ對シテハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ之ヲ指定ス

第九條 軍事郵便爲替ノ差出人爲替金ノ拂戻ヲ受ケントスルトキハ爲替金拂戻請求書ニ爲替證書又ハ爲替金受領證書ヲ添ヘ普通郵便局所ヲ經由シ之ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ差出スヘシ但シ請求書經由局所以外ノ郵便局所ニ於テ爲替金ノ拂戻ヲ受ケントスルトキハ其ノ局所名ヲ請求書ノ餘白ニ附記スヘシ

第三章 軍事郵便貯金

第十條 軍事郵便貯金ノ預ケ人ニ對シテハ貯金登記簿通知書ヲ發行セシ

第十一條 軍事郵便貯金ノ預ケ人其ノ所持ノ通帳餘白ナキニ至リタルトキ又ハ毀損汚損シテ不判

明トナリタルトキ若ハ之ヲ亡失レタルトキハ野戰郵便局又ハ艦船郵便所ニ共ノ事實ヲ證明シ別
 通帳ノ交付ヲ受ケ共ノ通帳ヲ以テ引續キ軍事郵便貯金ノ預入ヲ爲スコトヲ得
 第十二條 前條ノ繼續通帳ニ對シテハ普通郵便局所ニ於テ貯金ノ預入又ハ拂戻ヲ取扱ハス
 第十三條 繼續通帳ノ交付ヲ受ケ軍事郵便貯金ノ預入ヲ爲レタル者普通郵便局所在地ニ到リタ
 ルトキハ原通帳及繼續通帳ヲ可成速ニ普通郵便局所ニ差出シ再度通帳ノ交付ヲ請求スヘシ
 第十四條 軍事郵便貯金ノ預金ノ拂戻公債證券ノ購入再度通帳ノ交付通帳利子記入通帳
 名前書換及異動届出等ヲ要スルトキハ普通郵便局所ヲ經由シ之ヲ請求又ハ届出ヲ爲スヘシ
 ○逓信省令第八號
 明治三十二年六月逓信省令第二十六號中左ノ通追加ス
 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス
 明治三十七年二月八日
 廣島縣 吳市長
 逓信大臣大浦兼武

〔參照〕

明治三十二年六月逓信省令第二十六號ハ船員法ニ依リ市町村長戸長及之ニ準スル者ヲシテ航海官國ノ事務ヲ行ハレ
 上ル件ナリ
 ○逓信省令第九號
 明治三十七年二月逓信省令第五號中左ノ通改正ス
 明治三十七年二月十日
 逓信大臣大浦兼武

第一項在書中横濱郵便局ノ下及ノ一字ヲ削除シ神戸郵便局ノ下ニ大阪郵便局長崎郵便局及門司
 郵便局ノ十六字ヲ加フ
 逓信大臣大浦兼武

○逓信省令第十號
 明治三十一年十月逓信省令第二十號航海獎勵法ニ據リ保護ヲ受ケル船舶郵便物運送規則中左ノ通改
 定シ來三月一日ヨリ施行ス
 明治三十七年二月二十日
 逓信大臣大浦兼武

第三條 帝國郵便局ノ設置アル清韓諸港ヲ出發スル場合ニ於テハ當該帝國郵便局ニ對シ又前記
 諸港ヲ除クノ外清韓其ノ他外國諸港ヲ出發スル場合ニ於テハ當該國郵便局ニ對シ船長ニ於テ
 第一條及第二條ノ手續ヲナスヘシ
 〔參照〕
 逓信省令第二十號航海獎勵法ニ據リ保護ヲ受ケル船舶郵便物運送規則(明治三十一年十月八日)抄録
 第三條 帝國郵便局ノ設置アル清韓諸港ヲ出發スル場合ニハ其ノ郵便局ニ對シ及帝國ヘ向ケ香港ヲ出發スル場合ニハ香港
 郵便局ニ對シ當該船長第一條第二條規定ノ手續ヲナスヘシ

○逓信省令第十一號
 明治三十年十月逓信省令第三十二號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通追加シ來三月一日ヨリ施行
 ス
 明治三十七年二月二十七日
 逓信大臣大浦兼武

「探險費用金二十五圓」ノ次ニ
 金二十五圓
 西條隆藏
 金二十五圓

○逓信省令第十二號
 明治三十年六月逓信省令第十八號外國新聞電報規則中左ノ通改メ本日ヨリ施行ス
 明治三十七年二月二十九日
 逓信大臣大浦兼武

第二條第一項中第二號以下ヲ左ノ通改ム

- 一 「イースター」線ヲ經テ本邦ト歐羅巴トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付金六錢
- 二 馬尼刺線又ハ濠洲及太平洋線ヲ經テ本邦ト歐羅巴トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付金八錢
- 三 本邦ト前各號以外ノ諸國トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付金八錢
- 四 同條第三項第二號ヲ左ノ通改ム
 - 一 長崎及馬尼刺線又ハ長崎、濠洲及太平洋線ヲ經テ韓國ト歐羅巴トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付金六錢
 - 二 同條同項第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
 - 三 長崎及「イースター」線ヲ經テ韓國ト歐羅巴トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付金四錢

〔參照〕

逓信省令第十八號外國新聞電報規則(明治三十年六月二十六日)抄錄
 第二條第一項第三項
 本邦發着新聞電報ノ本邦寄附料左ノ如シ
 一 本邦ト歐羅巴トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付金六錢
 二 本邦ト前各號以外ノ諸國トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付金八錢
 韓國發着新聞電報ノ本邦寄附料左ノ如シ
 一 韓國ト歐羅巴トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付金四錢

○内務省令第二號

明治三十三年五月内務省令第二十六號第一項ヲ左ノ通り改ム

内務大臣子爵芳川顯正

購買又ハ富籤類似其ノ他射俾ノ方法ヲ用非ソトヲ提供スルノ行為ニシテ公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルモノハ廳府縣長官(ハ廳府縣長官ニ於テ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得)

〔參照〕

内務省令第二十六號(明治三十三年五月二十四日)抄錄
 購買其ノ他ノ射俾ニ附隨シテ富籤類似其ノ他射俾ノ方法ヲ用非ソトヲ提供スルノ行為ニシテ公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルモノハ廳府縣長官(ハ廳府縣長官ニ於テ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得)

○大藏省令第六號

土地登記規則施行細則中左ノ通改正ス

第五條 土地所有權ノ移轉又ハ質入ハ登記所ヨリ通知アルニアラサレハ之ヲ登録セス但シ未登記ノ土地ニ付收用ニ因リ所有權ノ移轉シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 相續ノ場合ニ於テ相續人カ未登記所有權ノ保存登記ヲ爲シタルトキハ保存登記ニ關スル登記所ノ通知ニ依リ所有權ノ移轉ヲ登録ス

明治三十七年三月二十六日

大藏大臣男爵曾根克助

〔參照〕

大藏省令第六號土地登記規則施行細則(明治二十二年四月一日)抄錄
 第五條 既登記土地所有權ノ移轉又ハ質入ハ登記所ヨリ通知アルニアラサレハ之ヲ登録セス但シ相續ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

○陸軍省令第九號
 徵兵令第二十三條第一項ニ依リ徵集猶豫中ノ者ハ明治三十七年四月十日迄ニ徵集猶豫證書ニ學校長ノ在學證明書ヲ添ヘ町村長ヲ經テ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ差出スヘ
 聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ前項ノ書類ヲ調査シ有效ト認ムル證書ニハ其ノ表面ニ適宜ノ證明ヲシテ町村長ヲ經テ之本人ニ返付スヘ
 明治三十七年三月七日
 陸軍大臣寺內正毅

○陸軍省令第十號
 第十二師管徵馬管區ノ内長崎縣ハ明治三十七年度内ニ於テ徵發ヲ實施スル場合ニ在テハ之ヲ第六師管ノ徵馬管區トス
 明治三十七年三月十日
 陸軍大臣寺內正毅

○陸軍省令第十一號
 明治三十三年陸軍省令第一號陸軍召集諸費支出規程中左ノ通改正ス
 明治三十七年三月二十二日
 陸軍大臣寺內正毅

第一條 充員召集補充召集ニ係ル諸費ハ臨時費ニ屬ス
 定期演習召集教育召集及補缺召集ニ係ル諸費ハ經常費ニ屬ス但シ勳賞セル師團ニ係ルモノハ臨時費ニ屬ス
 臨時演習召集其ノ他臨時ノ召集ニ係ル諸費ノ所屬ハ臨時之ヲ定ム
 第四十三條中臨時演習召集ノ下ニ其ノ他臨時ノ召集ヲ加フ
 ○陸軍省令第十二號
 陸軍旅費規則中左ノ通改正ス
 明治三十七年三月二十二日
 陸軍大臣寺內正毅

第十七條第三號中下士ノ下ニ憲兵上等兵ヲ加ヘ第四號中下士ノ下ニ憲兵上等兵ヲ加ヘ士官候補生ノ下ニ士官候補生ヲ加ヘ見習軍吏ヲ加ヘ見習主計ニ改ム
 第十九條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
 下士以下ニシテ赴任前管内居住ノ者ニハ前二項ヲ適用セズ
 第二十一條第六號中ノ士官學校分遣ヲ士官候補生學校分遣ニ見習軍吏ヲ見習主計ニ改ム
 第三十條中第十表ノ下ニ^{在リテハ}在リテハ^{於ケル}於ケル^ノノ^{割註ヲ加フ}割註ヲ加フ
 第三十二條末項ヲ左ノ如ク改ム
 在官者ニアラズメテ委任官ノ職務ヲ執ル者ハ士官ノ額^{臺灣清國韓國內ノ旅行共ノ他ノ者ハ判}任官ノ額
 第三十四條 戰時又ハ事變ニ際シ聯隊區又ハ警備隊區徵兵副醫官ノ職務ヲ執ル地方醫師ニシテ旅行ヲ要スル場合ニ在リテハ一般内國旅費規則ノ規定ニ依リ委任官ノ旅費額ヲ給ス
 第一表備考中士官候補生ノ下ニ士官候補生ヲ加ヘ見習軍吏ヲ見習主計ニ改ム
 第二表備考第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
 憲兵上等兵ノ下士ノ額ニ依ル
 第三表備考中士官候補生ノ下ニ士官候補生ヲ加ヘ見習軍吏ヲ見習主計ニ改ム
 第五表中一等軍曹ヲ軍曹ニ二等軍曹ヲ伍長ニ改メ備考中士官候補生ノ下ニ士官候補生ヲ加ヘ見習軍吏ハ曹長ノ額ニ依ルヲ見習主計ハ曹長ノ額ニ憲兵上等兵ハ伍長ノ額ニ依ルニ改ム
 第七表備考中士官候補生ノ下ニ士官候補生ヲ加ヘ見習軍吏ヲ見習主計ニ改ム
 第九表備考中演習ヲ削ル
 第十一表備考第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
 憲兵上等兵ノ下士ノ額ニ依ル

明治三十七年三月 省令 陸軍省第十三號

十日迄ニ陸軍將校生徒試験常置委員長ニ通知シ他ノ師管ニ於テ検査ヲ受ケムトスル者ノ人名及
必要ノ事項ヲ當該師管ノ師團長ニ三月一日迄ニ通知スヘシ

第七條 陸軍將校生徒試験常置委員長前條ノ通知ヲ受ケムルトキハ試験問題ヲ師團長ニ送付スヘシ

第八條 師團長ハ身體検査ノ時日ヲ定メ地方長官ニ通知シ地方長官ハ志願者ヲ検査場ニ出頭セシム

第九條 師團長ハ軍醫ヲシテ志願者ノ身體検査ヲ行ハシメ尙身體検査合格者中學術試験ヲ要スル者ハ部下ノ將校同相當官ニ試験委員ヲ命ジ共ノ試験ヲ行ハシム

學術試験ヲ受クヘキ者ハ新ニ單身撮影シタル寫眞紙（形）ノ裏面ニ族籍氏名ヲ自書シ身體検査ノ際軍醫ニ差出スヘシ

第十條 一年志願兵出願者ノ検査場及學術試験期日ハ陸軍召集規則第二十一條及第二十二條ニ同

第十一條 學術試験ヲ要セサル者ハ検査場ノ變更ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ三月一日迄ニ原検査場所在師管ノ師團長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第十二條 師團長前條ノ願出許可シタル場合ニ於テ其ノ検査場他ノ師管内ナルトキハ三月二十日迄ニ當該師團長ニ通知スヘシ

第十三條 師團長ハ検査ヲ終リタルトキハ五月十日迄ニ合格人員表（附錄第七條式）ヲ調製シ陸軍大臣ニ報告スヘシ但シ他ノ師管在籍者ノ成績ハ同日迄ニ受檢者本籍所在師管ノ師團長ニモ通知スヘシ

第十四條 陸軍大臣ハ前條ノ合格人員表ニ依リ一年志願兵配當表ヲ作り師團長ニ送達ス

師團長前項ノ通達ヲ受ケムルトキハ一年志願兵認定證書（附錄第五條式）ヲ本人ニ付與スヘシ但シ第五條ニ依リ學校長ノ證明書ヲ以テ卒業證明書ニ代用スル者ニ在リテハ卒業ノ届出ヲ爲シタル後之ヲ

付與スヘキモノトス

第十五條 他ノ師管ニ於テ服役スヘキ者ノ認定證書ハ本籍所在師管ノ師團長之ヲ付與シ其ノ人名書ニ體格検査表願書其ノ他必要ノ書類ヲ添ヘ送ニ當該師團長ニ送付スヘシ

第十六條 師團長前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ更ニ入營命令（附錄第六條式）ヲ作り本人ニ送付スヘシ

第十七條 師團長ハ其ノ師管内ニ於テ服役スヘキ者ノ隊籍ヲ定ムルニハ志願者ノ欲望及素養並軍事上ノ必要ヲ斟酌シ師管内ノ各兵科毎ニ各隊成ルヘシ平等ニ配賦スヘシ但シ主計生ヲラムコトヲ欲望スル者ハ師團司令部所在地ノ步兵隊ニ配賦スルモノトス

第十八條 師團長ハ其ノ師管内ノ軍隊ニ於テ服役スヘキ者ノ人名書ニ其ノ體格検査表願書其ノ他必要ノ書類ヲ添ヘ入營前隊長ニ送付シ同師團長ニ於テ下付ノ手續ヲ爲スモノトス

第十九條 一年志願兵出願後入營迄ノ間ニ轉籍轉住氏名變更犯罪死亡其ノ他願書及添付書類ニ記載セル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ本人又ハ親族ヨリ認定證書付與前ニ在リテハ本籍所在師管ノ師團長ニ認定證書付與後ニ在リテハ服役スヘキ師管ノ師團長ニ届出ツヘシ

第二十條 條例第十一條第一號ニ該當スルトキハ在職軍醫ノ診斷證書（附錄第八條式）ヲ同第二號ニ該當スルトキハ學校又ハ官廳等ノ證明書第二號ニ該當スルトキハ近鄰戸主二名ノ保證書ヲ添付シ本籍地ノ市町村長島司郡長聯隊區司令官ヲ經テ服役スヘキ師管ノ師團長ニ届出ツヘシ

島司郡市町村長ハ前項ノ病況書又ハ保證書ニ記載セル事實ヲ審査シ市町村長ニ在リテハ狀況書島司郡長ニ在リテハ意見書ヲ作り届書ト共ニ聯隊區司令官ニ送付シ聯隊區司令官ハ該狀況書及意見書ニ尙其ノ意見ヲ添付シ師團長ニ進達スヘシ

第二十一條 條例第十三條ニ依リ入營ノ延期ヲ願出テムトスルトキハ願書ニ證據書類ヲ添ヘ本籍

地市町村長、島司、郡長、聯隊區司令官ヲ經テ服役スヘキ軍隊所管ノ師團長ニ差出スヘシ

市町村長ハ前項ノ願書ニ與齊照印ヲ爲スヘキモノトス

第二十二條 師團長一年志願兵入營前認定證書ヲ返還セシメムトスルトキハ本籍地ノ聯隊區司令官ニ共ノ旨ヲ通知シ聯隊區司令官ハ本人ニ共ノ返還ヲ命スヘシ

第二十三條 聯隊長條例第二十八條ニ依リ常備後備ノ役ヲ免シ又ハ兵役ヲ免シタルトキハ之ヲ本籍地ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第二十四條 聯隊長ハ一年志願兵中所定ノ期日ニ入營セサル者アルトキハ之ヲ師團長ニ報告シ二十歳以上ノ者ニ在リテハ尙本籍地ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第二十五條 師團長ハ一年志願兵人員表 附錄第 八 條 式 及 一年志願兵終末試驗成績表 附錄第 九 條 式 ヲ毎年一月三十一日迄ニ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第二十六條 一年志願兵終末試驗及第證書 附錄第 十 條 式 ハ各部隊ニ於テ調製スルモノトス

第二十七條 一年志願兵認定證書ヲ有スル者入營シタルトキ又ハ翌年回ト爲リタルトキハ十四日以内ニ本籍地ノ市町村長ニ届出ツヘシ但シ十一月三十日迄ニ滿二十歳ニ達セサル者ハ之ヲ要セス

第二十八條 一年志願兵ニシテ條例第十一條第三號ニ該當スルトキハ聯隊長ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ在リテハ第二十條ヲ準用ス

第二十九條 本則中聯隊長トアルハ獨立隊ニ在リテハ該隊長、聯隊區司令官トアルハ警備隊區ニ在リテハ警備隊司令官又ハ警備隊區司令官、島司又ハ郡長トアルハ北海道ニ在リテハ支廳長又ハ區長、沖繩縣ノ區ニ在リテハ區長、島司又ハ郡長ヲ置カサル島嶼ニ在リテハ島司又ハ郡長ニ準スヘキ者、市長トアルハ東京、京都、大阪ノ三市ニ在リテハ區長、町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ町村長ニ準スヘキ者ニ該當ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際入營延期又ハ翌年回ト爲リタル者及明治三十七年志願兵ニ係ル一年志願兵ニシテ舊一年志願兵條例施行細則ノ規定ヲ適用スヘキモノハ從前ノ規定ニ依ル

明治三十七年志願兵ニ係ル一年志願兵中條例第三條第一號ニ該當スル者主計生ヲラムトスルトキハ證明書類ヲ添ヘ入營一箇月前迄ニ服役スヘキ軍隊所管ノ師團長ニ願出ツヘシ

前項ノ願書許可セラレタル者ハ師團司令官所在地ノ步兵隊ニ於テ服役セシム

條例附則ニ依リ臺灣ニ於テ服役スル者ニ關シテハ第五條第九條第十一條第十二條第十八條乃至第二十條第二十二條第二十四條及第二十五條中師團長トアルハ臺灣守備混成旅團長ニ該當シ、其ノ被服ハ從前ノ規定ニ依リ、第四條ノ願書其ノ他ノ書類ハ本籍所在地ノ師團長ヨリ臺灣守備混成旅團長ニ送付シ、検査ハ臺灣守備混成旅團長適宜當該司令官所在地ニ召集シテ之ヲ行ヒ、認定證書ハ検査終了後臺灣守備混成旅團長ニ於テ適宜之ヲ付與シ、第二十一條ノ書類ハ直接臺灣守備混成旅團長ニ差出スモノトス

第一樣式

一年志願兵服役願

某 姓

陸軍令第十三條ニ依リ服役中ニ關スル費用金額ヲ自辨シ一年志願兵トシテ服役後期間御認可相成度別紙所要書類相添此段奉願提出

並テ一年志願兵條例第二十六條ニ依リ勸誘證書ヲ發給セララル場合ニ於テハ之ニ要スル費用モ自辨可致候也

本籍地 府(縣)郡(市)町(村)番地第(土)族(平民)

寄留地 府(縣)郡(市)町(村)番地

年 月 日 氏 名 印

年 月 日 生

第何師團長齋氏名殿

進ヲ左ノ通符致候也

- 一 受取書 何 地
- 二 募兵科 第一何兵 (主計生 軍醫生 藥劑生 獸醫生)
- 三 第二何兵 (為受取書ハ其ノ可ラ記ス)

受取書ハ本籍地師團内又ハ寄留地師團内ニ限リ但シ臺灣ニ於テ服役セトスル者ハ臺灣守備混成旅團司令部所在地トス

第二様式

履歷書

- 一 何年月日何學校へ入學何年月日同校卒業
- 一 何年月日何所ニ於テ何研究
- 一 何年月日何ニ従事ス
- 一 一年志願兵出願ニ關スル件左ノ如シ
- 一 未タ出願セシコトナシ
- 一 何年何師團ニ於テ何何ノ爲ニ採用
- 一 何年一年志願兵認定証書ヲ受領セシモ何何ノ爲ニ服役セシ
- 一 何年月日何ニ依リ(罰)等
- (右ノ外履歷ニ關スル事項ハ悉ク記載ス)

右ニ通符送致之候也

氏 名 印

第三様式

一年志願兵服役承認書

右者一年志願兵トシテ服役ノ儀承認致候跡アハ服役後一年志願兵條例第二十六條ニ依リ勤務成績ニ要スル費用ハ無相送ニ納可

年 月 日 氏 名

寄取領出

本籍地 府(縣)郡(市)町(村)番地
寄留地 府(縣)郡(市)町(村)番地
月 生

年 月 日

氏 名 印

二十歳未満ノ志願者ニ在リテハ月主及親權ヲ行フ者ノ連署ヲ要ス此ノ場合ニハ氏名ノ上ニ「親權者」ト記載スヘシ

第四様式

身元証明書

- 一 徵附ニ關スル事項ハ履歷書ノ通
- 一 月主或ハ本人何種公債証券或ハ株券金額何千何百圓ヲ所有スル等
- 一 月主或ハ本人官廳或ハ會社等ヨリ受ケル給料何千何百圓等
- 一 何々ノ所得年額何千何百圓等

府縣市町村長 氏 名 印

年 月 日

第五様式

第 說

一年志願兵認定証書

府(縣)族籍

氏 名

年 月 日 生

陸軍一年志願兵タル資格ヲ具有スル者ト認定ス

但シ何兵科何種大隊ニ於テ服役スヘシ

年 月 日
他師管ノ軍隊ニ於テ服役スル者ニ在リテハ但書ヲ付シテ何師團ニ於テ服役スヘシト記ス
第六様式
第一號

一年志願兵入營命令

府(縣)族籍

職階 氏 名 印
年 月 日 生

何兵第何團(大)隊ニ入隊スヘシ

年 月 日

第七様式

某師團司令部

明治何年一年志願兵合格者人員表

種別	本籍			他師管ノ者			計
	師管	師管	師管	師管	師管	師管	
步兵							
騎兵							
砲兵							
要塞							
工兵							
鐵道隊							

種別	本籍			他師管ノ者			計
	師管	師管	師管	師管	師管	師管	
主計生							
軍醫生							
藥劑生							
獸醫生							
計							

一 學術試驗ヲ受ケタル者ハ未ダ以テ相當區畫ニ別記スルモノトス
一 他師管ニ在リテ留メタル者アルトキハ其ノ師管名旁切ノ年月日及該師管兵科等ヲ備考ニ記ス
一 備考ニハ

第八様式

明治何年一年志願兵人員表

某師團司令部

種別	志願者總員			其病ニノ			不採用者			採用者		
	本籍	他籍	計	依願	依願	計	本籍	他籍	計	本籍	他籍	計
步兵												
騎兵												
砲兵												
要塞												
工兵												
鐵道隊												

考 備	計	職 醫 生	藥 劑 生	軍 醫 生	主 計 生	輔 重 兵	兵 工	
							鐵 道 隊	工 兵 隊
一 入隊者中前年ニ於テ翌年同トナリ居リシ者ハ相當區畫ニ未嘗テ以テ別記シ其ノ旨 フテ加考中ニ別記スヘシ 一 不採用者中別記スヘシ 一 八相當區畫ニ未嘗テ以テ別記スヘシ 一 近衛師團及近衛守備隊ノ報告表ハ適當區畫ニ未嘗テ以テ別記スヘシ 一 近衛師團ノ報告表中本師團管下ノ區畫ニハ第一師團在籍ノ者ヲ記入スヘシ第九 機式亦同シ								

第九様式

明治何年一年志願兵成績表

某師團司令部

種 別	入 隊 者	一 箇 年 中 減 員	其ノ他 ノ事故	計	其ノ他 ノ事故	計	其ノ他 ノ事故	計
騎 兵								
步 兵								

考 備	計	職 醫 生	藥 劑 生	軍 醫 生	主 計 生	輔 重 兵	兵 工	
							鐵 道 隊	工 兵 隊
一 傷病疾病ノ爲メ終末試験ヲ受ケザル者ハ兵卒ノ區畫中未嘗テ以テ別記シ其ノ旨ヲ備考 中ニ別記スヘシ但シ條例第二十四條ニ依リ終末試験ヲ受ケタルトキハ其ノ兵科及 第 九 條 第 三 項 第 二 區 別 次 年 二 於 テ 本 表 備 考 中 ニ 別 記 ス ヘ シ 一 入隊者中前年ニ於テ翌年同トナリ居リシ者ハ相當區畫ニ未嘗テ以テ別記シ其ノ旨ヲ 備考中ニ別記スヘシ 一 條例第二十六條ニ該當スル者ハ兵卒ノ區畫中未嘗テ以テ別記シ適當ノ符號ニテ標示 スヘシ 一 近衛師團及近衛守備隊ノ報告表ハ適當區畫ニ未嘗テ以テ別記スヘシ								

第十様式

右一年志願兵終末試験ニ及ブ者

年 月 日

何兵科一年志願兵
(主計生軍醫生藥劑生 職醫 生) 氏 名

職官位勳功爵 氏 名

名 印

○海軍省令第八號

海軍内國旅費規則中左ノ通改正ス

明治三十七年三月五日

海軍大臣 野村 浩将

第五條中ニ左ノ一號ヲ加フ

六 文官臺灣在勤滿二箇年以上ニシテ休職免官若ハ廢官ト爲リ辭令受領若ハ官報ニテ承知ノ日ヨリ三十日以内ニ該地出發内地ニ歸郷スルトキ但シ廢官ノ者ハ前官ノ等級ニ依ル

第八條第一項中第九號ヲ左ノ通改メ第二項ヲ削ル

九 臺灣在勤ノ雇員備人官ノ都合ニ依リ解雇解備ト爲リ其ノ日ヨリ三十日以内ニ該地出發内地ニ歸郷スルトキ但シ内地ニ於テ採用セラレタル者ニ限ル

第九條第一項中第三號ヲ左ノ通改ム

三 下士卒被告事件不起訴免訴若ハ無罪ニ歸シ又ハ假出獄若ハ刑期滿限ニ依リ復歸スルトキ第十二條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第二項中「前項」第一項及第二項ニ「第二表」第一項ノ場合ニ在リテハ第二表第二項ノ場合ニ在リテハ第五表ニ改ム

船中ノ運轉其ノ他ノ職務ニ服スル爲乗組出帆スル軍人及文官ニハ日當及食卓料ヲ支給セシス雇員備人ニハ第五表ノ食卓料ヲ支給シ日當ヲ支給セシ

第十八條ニ左ノ一項ヲ加フ

臺灣在勤ノ准士官以上候補生及軍醫該地ニ於テ死亡シタルトキハ内地原籍地マテ准士官以上候補生及文官ニ在リテハ第二表、雇員備人ニ在リテハ第五表ノ定額ヲ支給ス但シ雇員備人ニ在リテハ内地ニ於テ採用セラレタル者ニ限ル

第二十條第三項中二箇以内ヲ内地ニ在リテハ二箇以内臺灣ニ在リテハ四箇以内ニ改ム

第二十條ノ二 内地ヨリ臺灣ニ旅行シ臺灣ニ於テ船舶ノ乗換ヲ爲ストキハ最初乗換ノ地ヨリ、臺灣ヨリ内地ニ旅行シ臺灣ニ於テ船舶ノ乗換ヲ爲ストキハ最終乗換ノ地マテ船舶料臺灣ノ額ヲ支給ス但シ臺灣發着ノ日ノ日當食卓料及宿泊附費亦同シ

第二十四條第二項中「規則」ノ下ニ「第五條第六及第八條第九ニ依リ臺灣ヨリ歸郷スル者ニ支給スル旅費並ニ加フ」

加フ

附則

本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二表ヲ左ノ通改ム

第二表

旅費等級	一	二	三	四	五	六	七	八
日	内地三圓五十錢	三圓五十錢	四圓七十五錢	五圓五十錢	四圓五十錢	三圓五十錢	三圓五十錢	三圓五十錢
寄泊料	内地三圓	三圓	四圓	五圓	四圓	三圓	三圓	三圓
汽車料	内地一圓	一圓	一圓	一圓	一圓	一圓	一圓	一圓
船料	内地一圓	一圓	一圓	一圓	一圓	一圓	一圓	一圓
食料	内地一圓	一圓	一圓	一圓	一圓	一圓	一圓	一圓
車馬料	内地一圓	一圓	一圓	一圓	一圓	一圓	一圓	一圓
食料	内地一圓	一圓	一圓	一圓	一圓	一圓	一圓	一圓

第三表備考ノ欄左ノ通改ム

備考 内地ニ在リテハ本表ノ定額運賃ニ在リテハ其ノ二倍ヲ支給シ日當宿泊料及食料ハ第一表ノ額ヲ支給ス

第四表ノ末ニ左ノ一欄ヲ加フ

備考 内地ニ在リテハ本表ノ定額運賃ニ在リテハ雜費ハ本表ノ定額其ノ他ハ二倍ヲ支給ス

第五表末欄左ノ通改ム

備考 第十二條第二項ノ場合ニ於ケル食料七等及八等ハ二十錢トシ第三項ノ場合ニ於ケル宿泊料五等以上ハ各其ノ半額六等ハ二十五錢七等及八等ハ二十錢トス

第六表ノ末ニ左ノ一欄ヲ加フ

備考 内地ニ在リテハ本表ノ定額運賃ニ在リテハ其ノ二倍ヲ支給ス

〔參照〕

海軍省令第二號海軍内國旅費規則(明治三十一年三月二十八日)抄録

第五條 左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ第二表ノ定額ヲ給ス

第八條 左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ第五表ノ定額ヲ給ス

九 臥具炊具ノ設備ナキ船艇ニ乘組出張スルトキ

前項第九ノ場合ニ在テハ食料ヲ支給シ日當ヲ支給セズ但シ陸地宿泊ヲ要スルトキハ其ノ泊數ニ應ジ宿泊料ヲ支給ス

第九條 左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ第七表ノ定額ヲ支給シ同表面外ノ地ヲ旅行スルトキハ第五表ノ定額ヲ支給ス

三 下士率刑罰期限ニ依リ復歸スルトキ

第十二條第二項

前項ノ場合ニ於テ臥具ノ設備ナキ船艇宿泊ヲ要スルトキハ其ノ泊數ニ應ジ第二表ノ宿泊料ヲ支給ス

第二十條第三項

第一項旅費ノ外宿物ノ運送費ハ實費トシ又宿泊ヲ要セス一時ノ休憩ニ止ルトキハ第十九條及第三十三條ノ規程ニ拘ラス

一人ニ付二錢以内ノ實費ヲ支給ス

第二十四條第二項

明治三十一年勅令第四十六號ニ依リ支給スル旅費及此ノ規則第十八條ニ依リ死亡者ニ支給スル旅費ハ現日數ニ拘ラス前項規程ノ規程ニ依リテ計算シ日當及宿泊料ヲ支給ス

第二十五條 前條第一項但書ノ事故ヲ生シタル場合ニ於テ明治三十一年勅令第四十六號第一第二若ハ第五ノ旅行ニ在テハ特ニ海軍大臣ノ認許ヲ得タルモノニ限り其ノ他ノ旅行ニ在テハ左ノ證明書アルモノニ限り事故ノ爲メ増加シタル日數及泊數ニ對シ別ニ日當及宿泊料ヲ支給ス

一 傷寒病ニ因リ滞在シタルトキハ八日

二 船中ノ病ニ在リシタルトキハ八日船中會社若ハ同宿店又ハ船長ノ證明書

三 川留等支那ノ他國ヲ可ラサル事故ニ因リ滞在シタルトキハ其ノ實況ヲ證明シタル書類

○海軍省令第九號

海軍軍醫學生、藥劑學生、造船學生、造兵學生、主計學生規則中左ノ通改正ス

明治三十七年三月九日 海軍大臣男爵山本權兵衛

書式第四號元引受證書中「第一第二ヲ削リ「海軍生徒學生手當金規則第六條」ヲ「海軍給與令第四十九條及海軍給與令施行細則第六十條」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省令第十號

海軍造兵生徒規則中左ノ通改正ス

明治三十七年三月九日 海軍大臣男爵山本權兵衛

書式四號身元引受證書中「海軍生徒學生手當金規則第六條」ヲ「海軍給與令第四十九條及海軍給與令施行細則第六十條」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

明治三十七年三月 省令 海軍省第九號 第十號

〔參照〕

明治三十二年三月五日 文部省令第八號工業學校規程第十三條外四箇條ハ執セ一校内ニ二學科以上併置スルコトヲ得ルノ件ナリ

○文部省令第八號

明治二十七年文部省令第二十號徒弟學校規程ヲ改正スルコト左ノ如シ

明治三十七年三月八日

文部大臣久保田謙

- 第一條 徒弟學校ハ職工タルニ必要ナル教育ヲ爲スヲ以テ目的トス
- 第二條 徒弟學校ノ修業年限ハ六箇月以上四箇年以下トス
- 第三條 徒弟學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十二年以上學力尋常小學校卒業以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ尋常小學校ヲ卒業セザルモ學齡ヲ過キタル者ニ限リ特ニ入學セシムルコトヲ得
- 第四條 徒弟學校ノ教科目ハ修身職業ニ直接ノ關係アル教科目、實習、圖畫、算學、理科、國語、體操トス但シ修身ハ國語ニ附帶シテ之ヲ教授スルコトヲ得
- 前項教科目ノ外便宜他ノ教科目ヲ加設スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得
- 第一項ノ教科目ハ修身、職業ニ直接ノ關係アル教科目、實習ヲ除ク外之ヲ缺キ又ハ隨意科目ト爲スコトヲ得但シ尋常小學校ヲ卒業セシメテ入學シタル者ニ就キテハ數學、國語ヲ缺クコトヲ得
- 第五條 徒弟學校ノ教科目ハ一種又ハ數種ノ職業ニ就キテ之ヲ定メ若ハ數種ノ職業ニ共通シテ之ヲ定ムヘシ
- 第六條 徒弟學校ニ於テハ土地ノ情況ニ依リ季節ヲ限リ教授ヲ爲シ又ハ日曜日若ハ夜間ニ於テ教授時間ヲ設クルコトヲ得

第七條 徒弟學校ヲ卒業シタル者ニシテ既修ノ事項ヲ補習セントスル者アルトキハ之ヲ在學セシムルコトヲ得

第八條 現ニ職業ニ従事スル者等ニシテ職業ニ關スル教科目又ハ實習ヲ修メントスル者アルトキハ特ニ之ヲ入學セシムルコトヲ得

前項ノ教科目又ハ實習ハ其ノ一部ヲ限リ修メシムルコトヲ得

第九條 徒弟學校ハ工業學校又ハ其ノ他ノ學校ニ附設スルコトヲ得

第十條 徒弟學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

- 一 學校ノ目的
- 二 修業年限ニ關スル事項
- 三 教授日數ニ關スル事項
- 四 休業日ニ關スル事項
- 五 教科目及其ノ程度ニ關スル事項
- 六 各教科目毎週教授時數ニ關スル事項
- 七 入學退學ニ關スル事項
- 八 試験ニ關スル事項
- 九 賞罰ニ關スル事項
- 十 授業料等ニ關スル事項
- 十一 寄宿舎ニ關スル事項
- 第十二條 徒弟學校ニ於テハ教科目、教授時數及學級數ニ應ジ相當ノ教員ヲ置クヘシ
- 第十三條 徒弟學校ニ於テハ教室其ノ他必要ノ諸室ヲ備ヘ又實習ノ爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ但シ實習場ハ校内ニ設ケス便宜他ノ工場ヲ以テ之ニ充ツルモ妨ケナシ

第十三條 女子ニ制織、縫織及其他ノ職業ヲ授クル爲ニ設クル所ノ女子職業學校ニシテ此ノ規程ニ依ルモノハ徒弟學校ノ種類トス

附則

第十四條 本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

第十五條 明治三十七年文部省令第二十六號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十七年十一月文部省令第二十六號ハ徒弟學校ニ於テ便宜體操ヲ加フルコトヲ得ルノ件ナリ

○文部省令第九號

明治三十一年文部省令第十五號中央氣象臺附屬測候所職員月手當給與細則中左ノ通改正ス

明治三十七年三月九日

文部大臣久保田讓

第七條ヲ左ノ如ク改ム

月手當金ハ毎月俸給ト同時ニ之ヲ支給ス

〔參照〕

文部省令第十五號中央氣象臺附屬測候所職員月手當給與細則(明治三十一年七月十六日)抄録
第七條 月手當金ハ毎月俸給ト同時ニ之ヲ支給スルコトニ付ハ條上ケトス

○文部省令第十號

中央氣象臺臨時觀測技手ノ月手當給與ニ關シテハ明治三十一年文部省令第十五號中央氣象臺附屬測候所職員月手當給與細則ヲ準用ス

明治三十七年三月九日

文部大臣久保田讓

○文部省令第十一號

明治三十二年文部省令第三十四號公立私立學校認定ニ關スル規則中第二條第一號ヲ左ノ通改正ス

明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

文部大臣久保田讓

一 專門學校(別科ヲ除ク)及實業專門學校(別科ヲ除ク)ニ在リテハ其ノ入學者ハ中學校ヲ卒業シタル者、專門學校令第五條ノ檢定ニ合格シタル者、又ハ當該學校ノ豫科ヲ修了シタル者ナルコト

〔參照〕

文部省令第三十四號公立私立學校認定ニ關スル規則(明治三十二年六月二十八日)抄録
第二條 前條ノ申請ニ基キ文部大臣ニ於テ認定ヲ爲スヘキ學校ハ其管理及維持ノ方法確實ニシテ所定ノ學科ヲ教授スルニ足ルハ申相當ノ教員及設備ヲ具ヘ左號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

一 專門學校(別科)及實業專門學校(別科)ニ在リテハ其ノ入學者ハ中學校ヲ卒業シタル者、又ハ專門學校令第五條ノ檢定ニ合格シタル者ナルコト

○逕信省令第十三號

俘虜郵便規則左ノ通相定ム

明治三十七年三月三日

逕信大臣大浦兼武

俘虜郵便規則

第一條 本規則ニ於テ俘虜郵便物ト稱スルハ俘虜事務ニ關シテ俘虜情報局ニ於テ發受シ若ハ俘虜ノ發受スル内地及外國郵便物ヲ謂フ

第二條 俘虜郵便物ニ關シ本規則ニ定メタルモノノ外ハ總テ内地及外國郵便ニ關スル一般ノ規定ニ依ル

第三條 俘虜郵便物ハ差出人ニ於テ其ノ表面ニ俘虜郵便又ハ Service des Prisonniers de Guerre

ノ文字ヲ記載スヘシ

第四條 停廢郵便物ハ條約ニ依リ郵便ニ關スル料金ヲ免除セラルルモノトス

第五條 停廢ノ發受スル書留又ハ價格表記ノ通常郵便物及小包郵便物ノ受領證ハ之ヲ當該停廢收容所監督者ニ交付シ又ハ同監督者ヨリ之ヲ差出サシム

○逓信省令第十四號

停廢郵便爲替規則左ノ通相定ム

明治三十七年三月三日

逓信大臣大浦兼武

停廢郵便爲替規則

第一條 本規則ニ於テ停廢郵便爲替ト稱スルハ停廢ニ於テ又ハ停廢ノ爲メ發受スル内國通常郵便爲替及外國郵便爲替ヲ云フ

第二條 停廢郵便爲替ニ關シ本規則ニ定メタルモノノ外ハ總テ内國郵便爲替及外國郵便爲替ニ關スル一般ノ規定ニ依ル

第三條 停廢郵便爲替ハ條約ニ依リ總テ其ノ料金ヲ免除セラルルモノトス

第四條 停廢郵便爲替ノ振出ヲ請求セムトスル者ハ通常爲替振出請求書又ハ外國郵便爲替願書ニ「停廢爲替」ノ文字ヲ記載シ郵便局所ニ差出スヘシ

第五條 停廢郵便爲替ニ關シ停廢ニ交付スヘキ爲替金爲替證書及其ノ他ノ書類ハ代理ノ手續ヲ要セス停廢收容所ノ監督者ニ關シ停廢ニ交付スヘキ爲替金爲替證書及其ノ他ノ書類ハ代理ノ手續ヲ要セス停廢收容所ノ監督者ニ交付ス

第六條 停廢收容所ノ監督者ハ代理ノ手續ヲ要セス停廢ニ代リ郵便局所ニ對シ停廢郵便爲替ニ關スル各種ノ請求ヲ爲スコトヲ得

○逓信省令第十五號

明治三十年月十二號逓信省令第三十二號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通追加シ本月五日ヨリ施行ス

明治三十七年三月四日

逓信大臣大浦兼武

○佐世保佐賀間金二十五錢金十五錢ノ次ニ

東京 熊谷間	金二十五錢	東京 川越間	金二十五錢	金十五錢
浦和 熊谷間	金二十五錢	浦和 川越間	金二十五錢	金十五錢
高崎 熊谷間	金二十五錢	高崎 川越間	金二十五錢	金十五錢
前橋 熊谷間	金二十五錢	前橋 川越間	金二十五錢	金十五錢
熊谷 池上間	金二十五錢	熊谷 池上間	金二十五錢	金十五錢
熊谷 川口間	金二十五錢	熊谷 川口間	金二十五錢	金十五錢
熊谷 羽田間	金二十五錢	熊谷 羽田間	金二十五錢	金十五錢
熊谷 川崎間	金二十五錢	熊谷 川崎間	金二十五錢	金十五錢
熊谷 越前間	金二十五錢	熊谷 越前間	金二十五錢	金十五錢
神戶 龜岡間金三十錢金二十錢ノ次ニ		八王子 熊谷間	金三十錢	金二十錢
横濱 熊谷間	金三十錢			
八王子 川越間	金三十錢			

○逓信省令第十六號

明治三十年月十二號逓信省令第三十二號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通追加シ本月十日ヨリ施行ス

明治三十七年三月九日

逓信大臣大浦兼武

○西宮鹽屋間金二十五錢ノ次ニ

金二十錢

○逓信省令第十七號

明治三十七年三月 逓信省令第五號中左ノ通改ム

明治三十七年三月 省令 逓信省第十五號 第十六號 第十七號

明治三十七年三月十日

逓信大臣大浦兼武

第二項但書中長崎郵便局ノ下「及」ノ一字ヲ删除シ門司郵便局ノ下ニ「三宮電信局下關郵便局及盛北郵便電信局大稻埕支局」ノ二十三字ヲ加フ

〔参照〕

逓信省令第五號(明治三十七年二月五日)抄録

第一項

本邦並韓韓山仁川及京城ヨリ發スル私用ノ外國電報ハ普通ノ日本語英語又ハ佛語ヲ以テ之ヲ記載スルヲ要シ暗號ヲ用フルヲ許ス但シ東京郵便局横濱郵便局神戸郵便局大阪郵便局長崎郵便局及門司郵便局へ差出スモノニ限り暗號ヲ用フルコトヲ許スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ發信ノ際北暗號ニ日本語英語又ハ佛語ノ譯文ヲ添ヘ暗號ト共ニ之ヲ發信局ニ差出スヘシ

○逓信省令第十八號

在韓國帝國軍用通信所ヨリ發スル左ノ電報ハ配達局ニ於テ受信人ヨリ其料金ヲ追徴ス
本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

明治三十七年三月十一日

逓信大臣大浦兼武

一帝國政府ノ電報但シ陸軍部内ヨリ發スル官報ヲ除ク

一陸軍官憲ヨリ韓國内帝國軍用電信線ト通信ノ特許ヲ受ケタル電報

○逓信省令第十九號

明治三十七年三月二十二號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通達加シ本月十六日ヨリ施行ス

明治三十七年三月十一日

逓信大臣大浦兼武

川越川崎間金二十五錢金十五錢ノ次ニ

新潟新津間

金二十五錢

金十五錢

長岡新津間

金二十五錢

金十五錢

○逓信省令第二十號

明治三十七年三月四號逓信省令第八號本邦ト在韓國本邦郵便電信局郵便局間直發著電報取扱規則第四條第九號ヲ左ノ通改正シ來四月一日ヨリ施行ス

明治三十七年三月十九日

逓信大臣大浦兼武

九 電報ノ配達

〔参照〕

逓信省令第八號本邦ト在韓國本邦郵便電信局郵便局間直發著電報取扱規則(明治三十三年四月二十日)抄録
第四條 左ニ掲グルモノハ内國電信ノ規定ヲ準用ス
九 在韓國本邦郵便電信局郵便局發本邦著電報ノ配達

○逓信省令第二十一號

明治三十二年十月逓信省令第四十七號第二條第四項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ
明治三十七年三月二十二日

逓信大臣大浦兼武

第一項ノ規定ニ依リ管海官廳ニ於テ體格検査ヲ受クルコト能ハサル者ハ該官廳ノ定ムル體格検査例規ニ依リ相當醫師ノ検査ヲ受ケ其成績書ヲ添ヘ該官廳ニ於テ検査ヲ受クルコト能ハサル事由ヲ説明シテ體格検査ノ執行ニ代フルコトヲ申請スルコトヲ得
管海官廳ニ於テ前項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ體格検査成績書ニ依リ申請人ノ體格ヲ審査シ

備考	
計	

一入レ換工亦補助ノ各專用ニ屬スルモノ又ハ修繕中、認可ヲ得テ貸借中ノモノハ各別ニ符號ヲ附シテ其欄内ニ區別記載スヘシ

第四表

鐵道株式會社客車表

明治何年度何半期末日調

私設鐵道法第六十六條營業報告書ト同時呈出

種	類	輛數	定員			計	備考
			一	二	三		
一等客車	定員何人						
	定員何人						
二等客車	定員何人						
	定員何人						
三等客車	定員何人						
	定員何人						
計							

種	類	輛數	定員			計	備考
			一	二	三		
一等客車	定員何人						
	定員何人						
二等客車	定員何人						
	定員何人						
三等客車	定員何人						
	定員何人						
計							

一定員總數ノ欄ニハ其輛數ニ對スル各等定員ノ合計ヲ記載スヘシ又手小荷物室及郵便室容積欄内ニハ合造車中ノ部分ヲモ記載スヘシ

一修繕中又ハ認可ヲ得テ貸借中ノモノハ符號ヲ附シテ其欄内ニ區別記載スヘシ

第五表

私設鐵道法第六十六條營業報告書ト同時呈出

鐵道株式會社貨車表		明治何年度何半期末日調	
種	類	輛數	容積
貨物車	何噸		
	何噸		
手小荷物車	何噸		
	何噸		
計			

備考	無蓋貨車	材木車	何噸積
	、緩土炭、急運車、車	、何噸積	
總計			
備考	一 重量ノ關ニハ發見シ得ヘキ重量ヲ記載スヘシ 一 工事專用修繕中又ハ認可ヲ得テ貸借中ノモノハ符號ヲ附シテ其内ニ區別記載スヘシ 一 貨車中ボギー車アルトキハ之ヲ區別記載スヘシ 第六號 私設鐵道法第六十六條營業報告書ト同時呈出		

鐵道株式會社機關車其他走行哩數表 明治何年度何半期中

備考	列車走行哩	客車走行哩	貨物列車
	、混合列車	、混合列車	、混合列車
總計			
備考	一 機關車、列車及客貨車走行哩數ハ總テ自己編路ニ於テ營業上運轉シタルモノヲ計算シ他編路ヲ走行シタルモノ又ハ建築及保線用ニ係ルモノヲ算入スヘカラス 一 列車走行哩及客貨車走行哩數ニハ車輛入レ換ノ爲運轉シタル哩數ヲ算入スヘカラス 第七號 私設鐵道法第六十六條營業報告書ト同時呈出		

鐵道株式會社運轉用燃料及油用消費額 明治何年度何半期中

機關車燃料	運轉用石炭	噸	代價
點火用石炭	油炭		
油炭			

備考	油	
	客貨車用 計 、油	機關車用 計 、油

第八表

鐵道株式會社旅客貨物及運費表

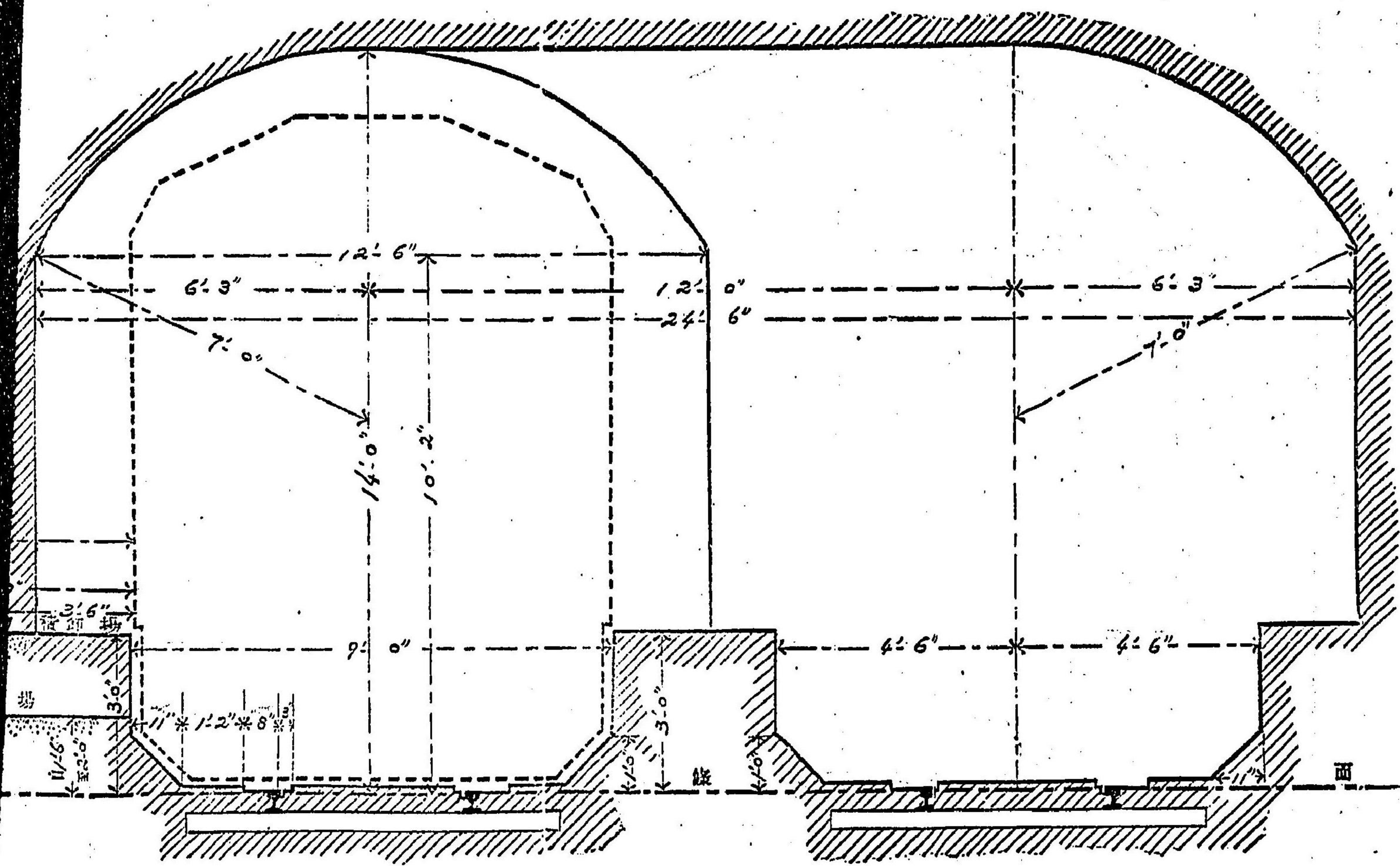
明治何年度何半期中

備考	旅客		
	三 等 官 用 人	二 等 官 用 人	一 等 官 用 人
備考	貨物		
	計 、油	計 、油	計 、油

備考	手小荷物	
	計 、油	計 、油
備考	客車	
	計 、油	計 、油
備考	貨物	
	計 、油	計 、油
備考	貨車	
	計 、油	計 、油
備考	收入	
	計 、油	計 、油

一 定期又は回數乘車ノ類ハ各等級ノ内ニ總テ北越人員ヲ以テ算入スヘシ
 一 貨車及貨物等ニシテ前數又ハ頭數ヲ以テ取扱ハタルモノハ之ヲ斤量ニ換算シ手小荷物又ハ貨物ノ數及運賃ニ算入スヘシ
 一 郵便物、陸揚手數料、輸入ハ其金額ノミヲ記載スヘシ
 一 通過取扱貨物ハ買置噸數、切取扱貨物ハ車載噸數ヲ以テ計算スヘシ
 一 客車及貨車附帶ノ雜入ハ損益勘定ニ於テ客車又ハ貨車收入ニ組入レタル雜入ヲ記載スヘシ

甲 號 圖 面 (第 一)
 停 車 場 內 建 築 定 規



明治三十七年三月 省令 通達第百二十三號

九六

- 一 排障器制輪子及撒砂管等輪鐵ノ幅外ニ出テサル部分並聯結器ノ下端ハ軌條面上二吋ノ高さ
- 二 彈機ノ作用ニ依リ上下動ヲ爲ササル部分ハ車輛定規中心ヨリ左右各三呎四吋ノ幅内ニ於テ軌條面上二吋ノ高さ

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

本條ノ規定ハ輪鐵其他ノ磨損シ又ハ彈機ノ變形シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第四十一條ヲ左ノ通改ム

輪鐵ノ高ハ車輪一對ノ中心線ヨリ左右各一呎十吋ノ距離ニ於ケル踏面ヨリ度リ一吋以上二吋十

六分ノ七以下トス

車輪一對ノ中心線ヨリ輪鐵外面迄ノ距離ハ車輪一對ノ中心線ヨリ左右各一呎十吋ノ距離ニ於ケル踏面ヨリ半吋ノ下位ニ於テ一呎八吋四分ノ三ヨリ大ナルコトヲ得ス

第四十二條第三項以下ヲ左ノ通改ム

車輪ノ聯結器ハ總テ複式聯結ノ裝置トシ其ノ一ハ螺旋聯結器タルコトヲ要ス但シ旅客列車ニ聯結セサル貨車ニ限リ特別ノ場合ニ於テ特許ヲ得テ本項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

中央緩衝聯結器ヲ使用スル場合ニハ本條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第五十條第一項第二號中第四項ヲ第三項ニ改ム

甲乙丙號圖面左記ノ通改ム

一 排障器制輪子及鐵砂管等輪鐵ノ幅外ニ出テサル部分並聯結器ノ下端ハ軌條面上二吋ノ高さニ
 二 彈機ノ作用ニ依リ上下動ヲ爲ササル部分ハ車輛定規中心ヨリ左右各三呎四吋ノ幅内ニ於テ
 軌條面上二吋ノ高さ

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

本條ノ規定ハ輪鐵其他ノ變損レ又ハ彈機ノ變形レタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第四十一條ヲ左ノ通改ム

六分ノ七以下トス

車輪一對ノ中心線ヨリ輪鐵外面迄ノ距離ハ車輪一對ノ中心線ヨリ左右各一呎十吋ノ距離ニ於ケル踏面ヨリ半吋ノ下位ニ於テ一呎八吋四分ノ三ヨリ大ナルコトヲ得ス

輪鐵ノ厚ハ前項半吋ノ下位ニ於テ輪鐵内側ノ平面ヨリ測リ四分ノ三吋ヨリ小ナルコトヲ得ス

本條ノ規定ハ輪鐵ノ變損レタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第四十二條第三項以下ヲ左ノ通改ム

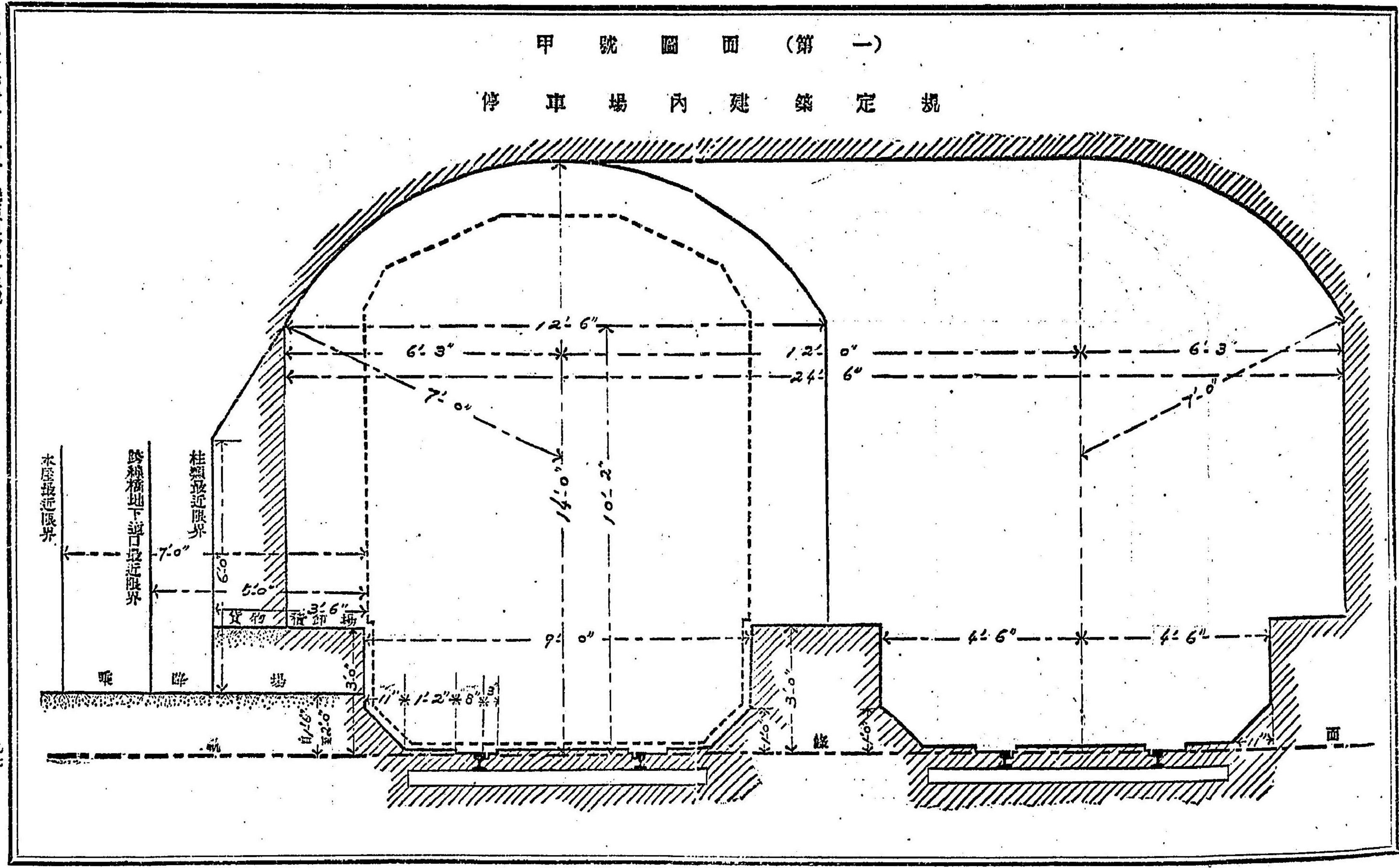
車輛ノ聯結器ハ總テ複式聯結ノ裝置トシ其ノ一ハ螺旋聯結器タルコトヲ要ス但レ旅客列車ニ聯結セサル貨車ニ限リ特別ノ場合ニ於テ特許ヲ得テ本項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

中央緩衝聯結器ヲ使用スル場合ニハ本條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第五十條第一項第二號中第四項ヲ第三項ニ改ム

甲乙丙號圖面左記ノ通改ム

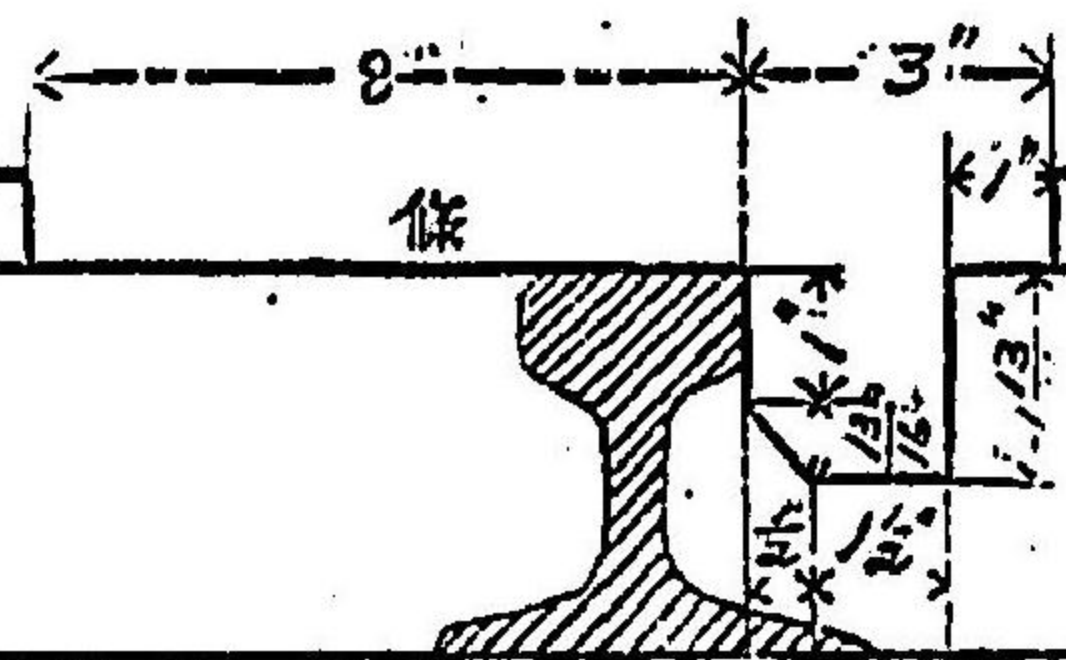
甲 號 圖 面 (第 一)
 停 車 場 内 建 築 定 規



甲 號 圖 面 (第 三)

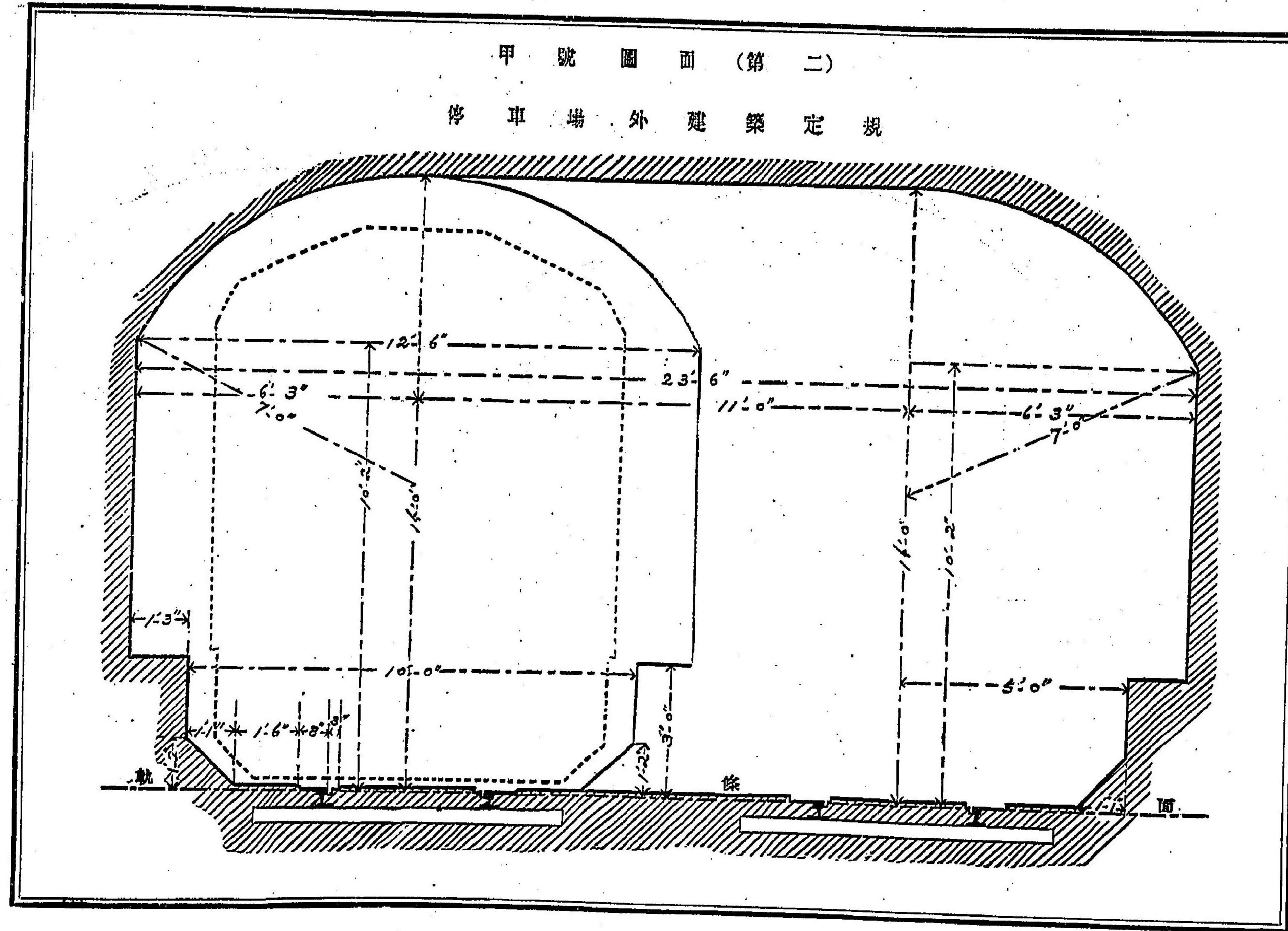
建 築 定 規 軌 條 部 分 明 細 圖

繪 圖 中 心



甲 號 圖 面 (第 二)

停 車 場 外 建 築 定 規

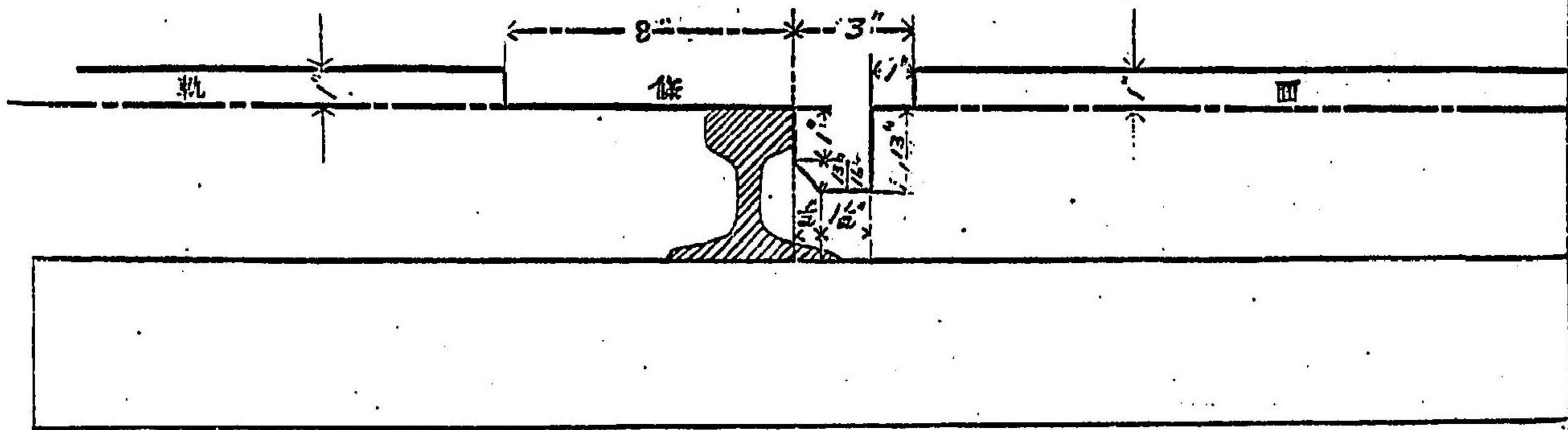


明 治 三 十 七 年 三 月 省 令 通 信 省 第 二 十 三 號

明治三十七年三月 省令 逕信第百二十三號

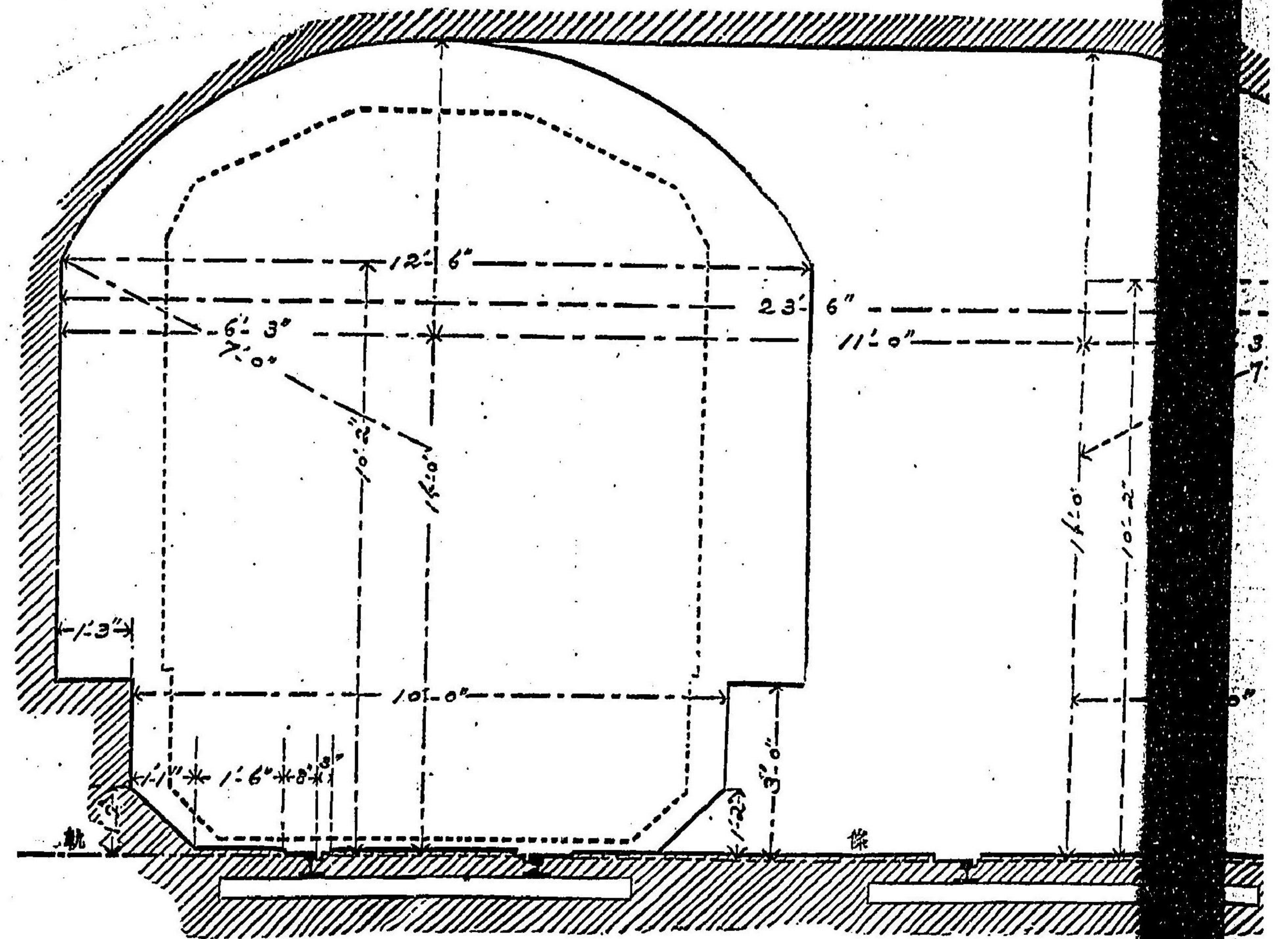
甲 號 圖 面 (第 三)
建 築 定 規 軌 條 部 分 明 細 圖

總務中心



九九

甲 號 圖 面 (第 二)
停 車 場 外 建 築 定 規



（Faint, mostly illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page. Some characters like '第一條' and '第二條' are faintly visible.)

○内務省令第三號

下士兵卒家族救助令施行規則左ノ通定ム

明治三十七年四月九日

内務大臣子爵芳川顯正

下士兵卒家族救助令施行規則

- 第一條 下士兵卒家族救助令ニ依リ救助ヲ受ケントスルトキハ一家經理ノ任ニ在ル者若ハ之ニ代ル者ヨリ住所地方長官ニ願出ツヘン
- 前項願出アリタルトキハ地方長官ハ資産ノ程度勞役ノ能否扶養義務者其他救護ヲ爲ス者ノ有無竝ニ各種ノ狀況ヲ調査シ其詳否ヲ決定スヘン
- 第二條 救助ハ生業扶助現品給與施療現金給與等ノ方法ニ依ル
- 前項救助ハ適當ナル他ノ施設ニ委嘱シ之ヲ行ハシムルコトヲ得
- 第三條 救助ノ額ハ戦死者ノ遺族ニ支給スヘキ扶助料ノ最低額ヲ超ユルコトヲ得ス其支給額ノ標準等ハ被救助者ノ狀況ニ依リ地方長官之ヲ定ム
- 第四條 救助ヲ受クル者自營ノ途ヲ得若ハ他ノ扶助等ヲ受クルニ至リタルトキハ其狀況ニ依リ救助ノ程度ヲ減少シ又ハ救助ヲ廢止ス
- 第五條 本令ニ規定スルモノヲ除クノ外必要ナル事項ハ地方長官之ヲ定ム

○内務省令第四號

下士兵卒家族救助令ハ明治三十七年五月一日ヨリ施行ス

明治三十七年四月十二日

内務大臣子爵芳川顯正

○内務省令第五號

本年勅令第六十三號實施後町村會成立スルニ至ルマテ町村會ノ議決スヘキ事件ハ戶長ニ於テ之ヲ決定シ島司ノ認可ヲ受ク可シ

明治二十一年内務省令第四號ニ依リ舊町村會ノ議決スヘキ事件ニ付テモ亦前項ノ例ニ依ル但シ舊町村會ノ存在セル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

明治三十七年四月十二日

内務大臣子爵芳川顯正

○内務省令第六號

明治三十七年勅令第六十三號ハ明治三十七年五月一日ヨリ施行ス

明治三十七年四月十三日

内務大臣子爵芳川顯正

○大藏省令第七號

沖繩縣酒類出港稅則施行細則中左ノ通改正ス

第一條及第二條中「船政所」ヲ「稅務署」ニ改ム

第五條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス

第六條 沖繩縣ニ於テ製造シタル清酒、濁酒、白酒、味淋又ハ燒酎ヲ帝國内ノ他ノ地方ニ移出スルハ那覇港ニ由ルヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年四月一日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省令第八號

明治二十二年大藏省令第六號土地臺帳施行細則第一條中「地租」ノ二字及第四條土地臺帳原本雛形中地租ノ欄ヲ削除ス

明治三十七年四月一日

大藏大臣男爵曾禰荒助

〔參照〕

大藏省令第六號土地臺帳規則施行細則(明治二十二年四月一日)抄録

第一條 土地臺帳ハ市町村ニ區別シ土地ノ字番號地目段別等級地價地租所有者及買取主ノ住所氏名ヲ登錄スヘシ

○大藏省令第九號

明治三十六年大藏省令第二十四號中神戸棧橋事務局ノ部ヘ左ノ通追加ス

明治三十七年四月五日

大藏大臣男爵曾禰荒助

出張所名稱	位	區
上 福 島	大阪府大阪市	
八 尾	同府中河内郡八尾村	
岸 和田	同府最南郡岸和田町	
茨 木	同府三島郡茨木町	
平 野 郷	同府東成郡平野郷町	
池 田	同府豐能郡池田町	
枚 方	同府北河内郡枚方町	

界	同府界市
中	神奈川縣津久井郡中野村
伊	兵衛縣川邊郡伊丹町
大多	千葉縣夷隅郡大多喜町
奈	奈良縣奈良市
高	同縣北葛城郡高田町
三	同縣磯城郡三輪町
松	同縣宇陀郡松山町
五	同縣宇智郡五條町
上	同縣吉野郡上市町
津	同縣東郡津和野町
津	島根縣鹿足郡津和野町
大	同縣道原郡大森村
關	慶島縣深安郡福山町
關	山口縣大島郡屋代村
船	同縣厚狹郡船木村
和	和歌山縣高野郡界田村

和	同縣和歌山市
德	德島縣德島市
若	同縣名西郡石井村
川	同縣麻植郡松川村
撫	同縣坂野郡撫養町
長	香川縣大川郡長尾村
高	高知縣高知市
加	盛岡縣東宇和郡宇和町

○大藏省令第十號

明治三十七年勅令第九號ニ依ル特許手数料ノ金額左ノ通相定ム

大藏大臣 野村浩光 助

特許手数料

税關監吏一人ノ派出ヲ必要ト認ムルモノ

每一箇月

金貳拾五圓

以上税關監吏ノ派出一人ヲ増ス毎ニ金貳拾五圓ヲ加フ

○大藏省令第十一號

臨時煙草製造準備局出張所ノ名稱位置左ノ通相定ム其ノ管轄區域ハ其ノ地所轄ノ專賣支局管轄區域ニ依ル

明治三十七年四月十八日

大藏大臣男爵曾禰荒助

臨時煙草製造準備局出張所名稱位置

名	稱	位	置
東京臨時煙草製造準備局出張所		東京府東京市	
水戸臨時煙草製造準備局出張所		茨城縣水戸市	
茂木臨時煙草製造準備局出張所		栃木縣芳賀郡茂木町	
大田原臨時煙草製造準備局出張所		栃木縣那須郡大田原町	
三春臨時煙草製造準備局出張所		福島縣田村郡三春町	
東根臨時煙草製造準備局出張所		山形縣北村山郡東根町	
小出臨時煙草製造準備局出張所		新潟縣中頸城郡新井町	
秦野臨時煙草製造準備局出張所		神奈川縣中郡秦野町	
名古屋臨時煙草製造準備局出張所		愛知縣名古屋巖市	
鶴來臨時煙草製造準備局出張所		石川縣石川郡鶴來町	
大阪臨時煙草製造準備局出張所		大阪府大阪市	
高梁臨時煙草製造準備局出張所		岡山縣上房郡高梁町	
府中臨時煙草製造準備局出張所		廣島縣廣島郡府中町	
米子臨時煙草製造準備局出張所		島根縣邑伯郡米子町	
池田臨時煙草製造準備局出張所		徳島縣三好郡池田村	
琴平臨時煙草製造準備局出張所		香川縣仲多度郡琴井村	
熊本臨時煙草製造準備局出張所		熊本縣鹿毛郡熊本村	
臼杵臨時煙草製造準備局出張所		大分縣北海部郡臼杵町	
出水臨時煙草製造準備局出張所		鹿児島縣出水郡上出水村	
鹿児島臨時煙草製造準備局出張所		鹿児島縣鹿児島市	

○大藏省令第十二號

明治三十六年大藏省令第二十四號中福岡樟腦事務局ノ部ヘ左ノ通追加シ同部大野下瀬高三池長崎樟腦事務局ノ部藤早神崎熊本樟腦事務局ノ部宇土神戶樟腦事務局ノ部五條江尻氣賀ノ項ヲ削ル

明治三十七年四月二十日

大藏大臣男爵曾禰荒助

出張所名稱 大牟田

位置 福岡縣三池郡大牟田町

○大藏省令第十三號

煙草賣捌規則左ノ通相定ム

明治三十七年四月二十一日

大藏大臣男爵曾禰荒助

煙草賣捌規則

第一條 煙草賣捌人ハ大藏大臣之ヲ指定ス

煙草賣法發布ノ日迄一箇年以上引續キ煙草ノ製造又ハ製造煙草ノ仲買ヲ業トシ明治三十六年分ノ所得稅(本規則發布後ノ追加申告及ヲ納メタル者ハ其ノ申出ニ依リ本規則施行ノ際ニ限リ)

煙草元賣捌人ニ指定セラルルコトヲ得但シ同一地方ニ元賣捌人ヲラムトスル者多數ニシテ若シ
テ現状ヲ變更スルノ虞アリト認メタルトキハ大藏大臣ハ煙草製造ヲ業トシタル者ニ限り其ノ所
得額ノ多キ者ヨリ順次之ヲ指定シ相當ノ數ニ至リ之ヲ止ムルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ煙草元賣捌人ヲラムトスル者ハ明治三十七年五月十日迄ニ第一號書式ニ依リ
其ノ申出ヲ爲スベシ

第三條 左ニ掲グル者ハ煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ニ指定セラルルコトヲ得ス

- 一 煙草耕作者之ト同一ノ家ニ在ル者又ハ煙草耕作者ノ同居者
- 二 專賣法規若ハ租稅法規ニ違反シ罰金以上ノ處分ヲ受ケ二箇年ヲ經サル者
- 三 身代限處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者又ハ家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シ
タルトキヨリ復權ノ確定スルニ至ル迄ノ者
- 四 國稅滯納處分ヲ受ケ又ハ之ニ準シタル處分ヲ受ケ一箇年ヲ經サル者
- 五 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定
スルニ至ル迄ノ者
- 六 公權剝奪若ハ停止中ノ者
- 七 履行期日ヲ過キ仍ホ製造煙草ノ買入代金ヲ完済セサル者

第三條 煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ニ指定セラレタル者ハ指定ノ日ヨリ五箇年間其ノ營業ヲ爲
スコトヲ得
煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人死亡シタルトキ其ノ相續人ハ大藏大臣ニ届出テ殘期間其ノ營業ヲ
承繼スルコトヲ得

第四條 煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ニシテ其ノ營業ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ廢業ノ日ヨリ

三十日以前ニ其ノ旨大藏大臣ニ届出ツヘシ

第五條 左ノ場合ニ於テ大藏大臣ハ煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ノ指定ヲ取消スコトヲ得但シ第

三號ノ規定ハ煙草小賣人ニハ之ヲ適用セス

一 本規則ニ定ムル義務ヲ怠リ當該官吏ノ注意ヲ受ケルモ尙ホ之ヲ履行セサルトキ

二 第二條ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ

三 煙草買渡代金ニ備年五千圓未滿ナルトキ

第六條 煙草元賣捌人ノ買受ケル煙草ノ代金ハ定價ニ對シ一定ノ割引歩合ニ依リ之ヲ定ム

第七條 煙草元賣捌人煙草ヲ買受ケムトスルトキハ第二號書式ニ依リ毎月五日迄ニ翌月分ノ煙草

買渡請求書ヲ大藏大臣ノ指定シタル煙草製造所又ハ煙草藏置場ニ差出スヘシ

第八條 煙草元賣捌人ハ煙草ノ買受代金ヲ納付シタル後ニ非サレハ現品ノ引渡ヲ受ケルコトヲ得

第九條 煙草元賣捌人カ買受ケタル煙草ハ煙草製造所又ハ煙草藏置場ニ於テ之カ引渡ヲ爲スモノ

トス

煙草製造所又ハ煙草藏置場ノ所在地ヨリ煙草元賣捌人ノ所在地ニ至ル迄ノ間ノ煙草運搬費ハ一

定ノ割合ヲ以テ政府之ヲ支給ス但シ煙草製造所又ハ煙草藏置場ノ所在地及之ニ準スヘキ地ニ在

ル煙草元賣捌人ニハ之ヲ支給セス

第十條 煙草元賣捌人ト煙草小賣人トハ互ニ相兼スルコトヲ得ス又其ノ營業場ヲ同クスルコトヲ

得ス

第十一條 煙草元賣捌人ノ營業場ハ一人一箇所ニ限ルモノトス但シ本規則發布ノ際煙草製造業者ニシテ二箇所以上ノ煙草製造場ヲ有シ又ハ製造煙草ノ仲買業者ニシテ支店又ハ代理店ヲ有シタル者ハ其ノ場所ニ限リ營業場ヲ設クルコトヲ得

第十二條 煙草元賣捌人ハ大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ營業場ノ位置ヲ變更スルコトヲ得ス

第十三條 煙草元賣捌人他ノ營業ヲ兼ヌルトキハ其ノ營業場ト他ノ營業場トノ間ニ相當ノ區別ヲ設クヘシ

第十四條 煙草ノ定價ヲ引下ケタル場合ニ於テハ煙草元賣捌人ハ變更定價ノ適用期日後十五日以内ニ其ノ舊定價ニテ買受ケ變更定價ノ適用期日ニ至ル迄所有シタル煙草買受代金ト變更定價ニ基キ計算シタル金額トノ差額ノ拂戻ヲ大藏大臣ノ指定シタル煙草製造所ニ請求スルコトヲ得

第十五條 煙草元賣捌人ハ製造煙草ニシテ品質ノ惡變シ又ハ包裹ノ破損シタルモノアルトキハ大藏大臣ノ指定シタル煙草製造所ニ之カ引替ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ煙草元賣捌人ハ其ノ事由ヲ詳記シタル書類ヲ調製シ其ノ煙草ハ別ニ之ヲ保存シ當該官吏ノ検査ヲ受ケ其ノ證明書ヲ添ヘ煙草製造所ニ現品ヲ差出スヘシ

第十六條 煙草元賣捌人ハ製造煙草ニシテ品質ノ惡變シ又ハ包裹ノ破損シタルモノアルトキハ大藏大臣ノ指定シタル煙草製造所ニ之カ引替ヲ請求スルコトヲ得

第十七條 煙草元賣捌人ハ第三號及第四號書式ノ帳簿ヲ調製シ翌月五日迄ニ第五號書式ノ煙草受拂月計表ヲ所管專賣支局ニ差出スヘシ

第十八條 煙草元賣捌人死シ其ノ營業ヲ承繼スル者ナキトキ又ハ其ノ指定ヲ取消サレ若ハ其ノ營業ヲ廢止シタルトキ現存スル煙草ハ大藏大臣ノ指定シタル煙草製造所ニ之カ買戻ヲ請求スルコトヲ得

ヲ納付スヘシ

第十九條 煙草元賣捌人ハ製造煙草ニシテ品質ノ惡變シ若ハ包裹ノ破損シタルモノアルトキ又ハ引替若ハ買戻ノ爲メニ煙草元賣捌人ヨリ引渡ヲ受ケタル煙草ニシテ煙草元賣捌人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ品質惡變シ若ハ包裹ノ破損シタルモノアルトキハ排戻スヘキ金額ヨリ其價格減少ニ相當スル金額ヲ控除ス

第二十條 煙草元賣捌人以外ヨリ煙草ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十一條 煙草元賣捌人ハ製造煙草ノ製造又ハ製造煙草ノ仲買ヲ業トシタル者ニシテ煙草元賣捌人ニ指定セラレサル者製造煙草ノ小賣ヲ業トシタル者及葉煙草ノ賣買ヲ業トシタル者ハ本規則施行ノ際ニ限リ煙草小賣人ニ指定セラレルコトヲ得

第二十二條 煙草元賣捌人ハ製造煙草ノ製造又ハ製造煙草ノ仲買ヲ業トシタル者ニシテ煙草元賣捌人ニ指定セラレサル者製造煙草ノ小賣ヲ業トシタル者及葉煙草ノ賣買ヲ業トシタル者ハ本規則施行ノ際ニ限リ煙草小賣人ニ指定セラレルコトヲ得

第二十三條 煙草元賣捌人ハ製造煙草ノ製造又ハ製造煙草ノ仲買ヲ業トシタル者ニシテ煙草元賣捌人ニ指定セラレサル者製造煙草ノ小賣ヲ業トシタル者及葉煙草ノ賣買ヲ業トシタル者ハ本規則施行ノ際ニ限リ煙草小賣人ニ指定セラレルコトヲ得

第二十四條 煙草元賣捌人ハ製造煙草ノ製造又ハ製造煙草ノ仲買ヲ業トシタル者ニシテ煙草元賣捌人ニ指定セラレサル者製造煙草ノ小賣ヲ業トシタル者及葉煙草ノ賣買ヲ業トシタル者ハ本規則施行ノ際ニ限リ煙草小賣人ニ指定セラレルコトヲ得

第二十五條 煙草元賣捌人ハ製造煙草ノ製造又ハ製造煙草ノ仲買ヲ業トシタル者ニシテ煙草元賣捌人ニ指定セラレサル者製造煙草ノ小賣ヲ業トシタル者及葉煙草ノ賣買ヲ業トシタル者ハ本規則施行ノ際ニ限リ煙草小賣人ニ指定セラレルコトヲ得

第二十六條 煙草元賣捌人ハ製造煙草ノ製造又ハ製造煙草ノ仲買ヲ業トシタル者ニシテ煙草元賣捌人ニ指定セラレサル者製造煙草ノ小賣ヲ業トシタル者及葉煙草ノ賣買ヲ業トシタル者ハ本規則施行ノ際ニ限リ煙草小賣人ニ指定セラレルコトヲ得

第二十七條 煙草元賣捌人ハ製造煙草ノ製造又ハ製造煙草ノ仲買ヲ業トシタル者ニシテ煙草元賣捌人ニ指定セラレサル者製造煙草ノ小賣ヲ業トシタル者及葉煙草ノ賣買ヲ業トシタル者ハ本規則施行ノ際ニ限リ煙草小賣人ニ指定セラレルコトヲ得

第二十八條 煙草元賣捌人ハ製造煙草ノ製造又ハ製造煙草ノ仲買ヲ業トシタル者ニシテ煙草元賣捌人ニ指定セラレサル者製造煙草ノ小賣ヲ業トシタル者及葉煙草ノ賣買ヲ業トシタル者ハ本規則施行ノ際ニ限リ煙草小賣人ニ指定セラレルコトヲ得

第二十九條 煙草元賣捌人ハ製造煙草ノ製造又ハ製造煙草ノ仲買ヲ業トシタル者ニシテ煙草元賣捌人ニ指定セラレサル者製造煙草ノ小賣ヲ業トシタル者及葉煙草ノ賣買ヲ業トシタル者ハ本規則施行ノ際ニ限リ煙草小賣人ニ指定セラレルコトヲ得

第三十條 煙草元賣捌人ハ製造煙草ノ製造又ハ製造煙草ノ仲買ヲ業トシタル者ニシテ煙草元賣捌人ニ指定セラレサル者製造煙草ノ小賣ヲ業トシタル者及葉煙草ノ賣買ヲ業トシタル者ハ本規則施行ノ際ニ限リ煙草小賣人ニ指定セラレルコトヲ得

第三十一條 煙草元賣捌人ハ製造煙草ノ製造又ハ製造煙草ノ仲買ヲ業トシタル者ニシテ煙草元賣捌人ニ指定セラレサル者製造煙草ノ小賣ヲ業トシタル者及葉煙草ノ賣買ヲ業トシタル者ハ本規則施行ノ際ニ限リ煙草小賣人ニ指定セラレルコトヲ得

第三十二條 煙草元賣捌人ハ製造煙草ノ製造又ハ製造煙草ノ仲買ヲ業トシタル者ニシテ煙草元賣捌人ニ指定セラレサル者製造煙草ノ小賣ヲ業トシタル者及葉煙草ノ賣買ヲ業トシタル者ハ本規則施行ノ際ニ限リ煙草小賣人ニ指定セラレルコトヲ得

第三十三條 煙草元賣捌人ハ製造煙草ノ製造又ハ製造煙草ノ仲買ヲ業トシタル者ニシテ煙草元賣捌人ニ指定セラレサル者製造煙草ノ小賣ヲ業トシタル者及葉煙草ノ賣買ヲ業トシタル者ハ本規則施行ノ際ニ限リ煙草小賣人ニ指定セラレルコトヲ得

第三十四條 煙草元賣捌人ハ製造煙草ノ製造又ハ製造煙草ノ仲買ヲ業トシタル者ニシテ煙草元賣捌人ニ指定セラレサル者製造煙草ノ小賣ヲ業トシタル者及葉煙草ノ賣買ヲ業トシタル者ハ本規則施行ノ際ニ限リ煙草小賣人ニ指定セラレルコトヲ得

第三十五條 煙草元賣捌人ハ製造煙草ノ製造又ハ製造煙草ノ仲買ヲ業トシタル者ニシテ煙草元賣捌人ニ指定セラレサル者製造煙草ノ小賣ヲ業トシタル者及葉煙草ノ賣買ヲ業トシタル者ハ本規則施行ノ際ニ限リ煙草小賣人ニ指定セラレルコトヲ得

第三十六條 煙草元賣捌人ハ製造煙草ノ製造又ハ製造煙草ノ仲買ヲ業トシタル者ニシテ煙草元賣捌人ニ指定セラレサル者製造煙草ノ小賣ヲ業トシタル者及葉煙草ノ賣買ヲ業トシタル者ハ本規則施行ノ際ニ限リ煙草小賣人ニ指定セラレルコトヲ得

第三十七條 煙草元賣捌人ハ製造煙草ノ製造又ハ製造煙草ノ仲買ヲ業トシタル者ニシテ煙草元賣捌人ニ指定セラレサル者製造煙草ノ小賣ヲ業トシタル者及葉煙草ノ賣買ヲ業トシタル者ハ本規則施行ノ際ニ限リ煙草小賣人ニ指定セラレルコトヲ得

第三十八條 煙草元賣捌人ハ製造煙草ノ製造又ハ製造煙草ノ仲買ヲ業トシタル者ニシテ煙草元賣捌人ニ指定セラレサル者製造煙草ノ小賣ヲ業トシタル者及葉煙草ノ賣買ヲ業トシタル者ハ本規則施行ノ際ニ限リ煙草小賣人ニ指定セラレルコトヲ得

第二十一條 煙草小賣人ハ營業場ノ見物キ場所ニ煙草定價表ヲ掲クヘシ

第二十二條 製造煙草ニシテ品質ノ惡變シ又ハ包裝ノ破損シタルモノアルトキハ煙草小賣人ハ其ノ販賣ヲ爲シタル煙草元賣捌人ニ之カ引替ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ煙草小賣人ハ其ノ事由ヲ詳記シタル書類ヲ調製シ其ノ煙草ハ別ニ之ヲ保存シ當該官吏ノ検査ヲ受ケ其ノ證明書ヲ添ヘ煙草元賣捌人ニ現品ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ引替ノ原因カ煙草小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ煙草小賣人ハ煙草ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ辨償スヘシ

第二十三條 煙草小賣人ハ第七號書式ノ帳簿ヲ調製シ第八號書式ノ煙草受拂月計表ヲ毎年十月五日及四月五日迄ニ所管專賣支局ニ差出スヘシ

第二十四條 煙草小賣人死亡シ其ノ營業ヲ承繼スル者ナキトキ又ハ其ノ指定ヲ取消サレ若ハ其ノ營業ヲ廢止シタルトキ現存スル煙草ハ其ノ販賣ヲ爲シタル煙草元賣捌人ニ之カ買戻ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ以テ煙草小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ品質惡變シ若ハ包裝ノ破損シタルモノアルトキハ拂戻スヘキ金額ヨリ其ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ控除スヘシ

第二十五條 本規則中大藏大臣ニ差出スヘキ書類ハ所管專賣支局ヲ經由スヘシ

第一號書式

煙草元賣捌人指定申請書

一 營業場ノ位置
府縣 市 町 村 字 番地

一 三十六年分所得額

一 營業期間

明治 年 月 日ヨリ 年 月 日迄繼續

一 製造又ハ販賣シタル高

年次	區分	製造又ハ販賣シタル高	賣渡代金	利益歩合
三十五年	製造 販賣			
三十六年	製造 販賣			
合計				

右之通ニ付煙草元賣捌人ニ指定相成度申請候也

年 月 日

住 所

氏 名

生年月日

大藏大臣宛

前記所得額相違無之候也

何稅務署長 官 氏 名 印

備 考

- 一 會社ノ申請ニ付テハ氏名ノ箇所ニハ會社名ヲ記載シ且代表者之ニ署名捺印スヘシ
- 一 無能力者ノ申請ニ付テハ法定代理人之ニ連署捺印スヘシ
- 一 營業場ニシテ從來ノ位置ト異ルモノハ其旨附記スヘシ

第二號書式

指定番號	煙草賣渡請求書			
年月日	營業場所在地 煙草元賣捌人 何 某			
製造所宛	製造所			
區分名稱	一箇ノ數量	一箇ノ代金	箇數	代金
口付				
兩切				
葉卷				
刻				
計				

第三號書式

口付(葉卷) 煙草買受帳

買受月日	箇數	代金	買受先
、月、日	1,000	100,000	何製造所

、月、日	1,000	100,000	
月計	1,100	110,000	
累計	
本月賣渡高	600	60,000	
翌月越高	600	60,000	

備考

- 一 本帳ハ口付紙巻煙草兩切紙巻煙草葉巻煙草及刻標草ノ四冊トスヘシ但シ適宜合冊シ口座ヲ設クルヲ妨ケス
- 二 本帳ニハ製造標草ノ名稱一箇ノ數量一箇ノ代金ノ與ナル毎ニ口座ヲ設クヘシ
- 三 本帳ニハ毎月月計二箇月目ヨリ累計ヲ附シ尙製造標草賣渡帳ノ月計ト對比シ其ノ越高ヲ記入スヘシ
- 四 本帳ハ便宜横式ト爲スヲ妨ケス

第四號書式

口付(葉卷) 煙草賣渡帳

賣渡月日	箇數	代金	賣渡先
、月、日	100	10,000	何郡何町何ノ某

月計	600	60,000		
累計		60,000		

備考

- 一 本表ハ口付紙巻煙草、兩切紙巻煙草、葉巻煙草及刻煙草毎ニ別表トスヘシ
- 二 本表ニハ製造煙草ノ名稱、一箇ノ數量ノ與ナル毎ニ記載シ名稱毎ニ小計ヲ附シ更ニ合計ヲ附スヘシ
- 三 本表ニハ毎月計ニ前月目ロリ累計ヲ附スヘシ
- 四 本表ハ便宜様式ヲ爲スコトナシ

第五號書式

指定番號

明治 年 月 分製造煙草受拂月計表

年 月 日 營業場所所在地 煙草元賣納入何 某

口付(兩切紙巻刻)

名稱	數量	代金	數量	代金	數量	代金	數量	代金	數量	代金
小計	100	1,000	100,000	1,000	10,000	100,000	1,000	10,000	100,000	1,000
合計		1,000,000		10,000,000		100,000,000		1,000,000,000		10,000,000,000

備考

- 一 本表ハ口付紙巻煙草、兩切紙巻煙草、葉巻煙草及刻煙草毎ニ別表トスヘシ
- 二 本表ニハ製造煙草ノ名稱、一箇ノ數量ノ與ナル毎ニ記載シ名稱毎ニ小計ヲ附シ更ニ合計ヲ附スヘシ
- 三 本表ニハ毎月計ニ前月目ロリ累計ヲ附スヘシ
- 四 本表ハ便宜様式ヲ爲スコトナシ

第六號書式

煙草小賣人指定申請書

- 一 從來ノ營業ノ種類
- 二 明治 年 月 日 迄煙草小賣業(煙草製造業製造煙草ノ仲買業、葉煙草賣買業)ノ營業ノ種類
- 三 何ノ業
- 四 營業場所ノ位置
- 五 府縣 郡市 町村字野地
- 六 右ノ通ニ付煙草小賣人ニ指定相成度申請候也

年 月 日

住所 職業身分 氏 名

第七號書式

大藏大臣宛

大阪稅務監督局	高田稅務署所轄內	六
橫濱稅務監督局	小田原稅務署所轄內	六
長崎稅務監督局	靜岡稅務署所轄內	六
宇都宮稅務監督局	濱松稅務署所轄內	八
名古屋稅務監督局	長崎稅務署所轄內	八
熊本稅務監督局	佐賀稅務署所轄內	八
	高崎稅務署所轄內	七
	桑名稅務署所轄內	六
	津稅務署所轄內	八
	岐阜稅務署所轄內	八
	大牟田稅務署所轄內	六

○陸軍省令第十四號

明治三十七年勅令第八十三號臨時召集ニ關シテハ明治三十二年陸軍省令第二十九號陸軍召集條例施行細則中補充召集ニ關スル規定ヲ準用ス但シ臨時召集令狀ノ様式ハ充員召集令狀ニ準ス

明治三十七年四月四日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍省令第十五號

馬匹徵發事務細則第二十九條第二項ヲ左ノ通改正ス

明治三十七年四月十二日

陸軍大臣寺內正毅

郡市町村吏員ニシテ徵發事務ニ關シ馬匹差出場所等ニ出張職務シタル者ノ旅費其他郡市町村ニ於

テ使用セシ郵便電信料使丁賃金等總テ徵發實施ニ關スル諸費ハ當該師團司令部ニ請求スヘシ

附則

本令ハ今回ノ戰役ニ關シ既ニ實施シタル徵發ニモ之ヲ適用ス

〔參照〕

陸軍省令第三十一號馬匹徵發事務細則(明治三十二年十月二十六日)抄錄

第二十九條第二項

立會郡市長若ハ其代理吏員ノ旅費其他郡市ニ於テ使用セシ郵便電信料使丁賃金等總テ徵發實施ニ關スル諸費ハ當該師團司令部ニ請求スヘシ

○陸軍省令第十六號

第一條 明治三十六年召集ノ士官候補生ニシテ目下軍隊ニ在ル者ハ明治三十七年六月一日士官學校ニ入校セシム

明治三十七年ニ於テ中央幼年學校卒業者ヨリ採用スル士官候補生ハ明治三十七年六月一日直ニ士官學校ニ入校セシム

第二條 前條士官候補生ノ士官學校ニ於ケル修學期ハ概ネ一箇年、目下在校中ノ者ノ修學期ハ概ネ十一箇月トス

明治三十七年四月十四日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍省令第十七號

陸軍監獄條例施行細則中左ノ通改正ス

明治三十七年四月二十五日

陸軍大臣寺內正毅

第七十六條中「衛戍司令官屯田兵司令官」ヲ「師團長」東京ニ在リテハ「第二改」
第八十七條第八十九條中「衛戍司令官屯田兵司令官」ヲ「師團長」ニ改ム
第九十條中「衛戍司令官屯田兵司令官」ヲ「師團長」ニ改ム

〔參照〕

陸軍省令第一號陸軍監獄條例施行細則(明治二十七年一月十日抄録)
第七十六條 在監人中死亡者アリタルトキハ速ニ衛戍司令官屯田兵司令官ニ具申シ本人所屬ノ長官隊長米籍及近地所在ノ親屬ニ通報スヘシ
第八十七條 大赦特赦減刑假出獄ノ申渡ハ其命令ノ監獄署ニ送シタルヨリ二十四時内ニ之ヲ爲シ其旨ヲ衛戍司令官屯田兵司令官ニ具申スヘシ
第八十九條 假出獄中重罪罪状ヲ犯シタル者アルトキハ其裁判所ニ上現ニ之ヲ管束スル所ノ監獄長假出獄ノ停止ヲ旨渡シ監獄ヲ取上テ其旨ヲ衛戍司令官屯田兵司令官ニ具申シ尙ホ本人所屬ノ長官隊長ニ報告スヘシ
第九十條 囚徒ノ救護ハ監獄長適當ノ者ヲ選ビ衛戍司令官屯田兵司令官ノ認可ヲ得テ之ニ囑託スヘシ
若シ囑託スヘキ相當ノ者ナキトキハ司令官ニ具申シ適宜ノ方法ヲ設ケルコトヲ得

○司法省令第九號

死刑執行ノ榜示公告ニ關スル件左ノ通定ム

明治三十七年四月十一日

司法大臣波多野敬直

死刑執行ノ榜示公告ニ關スル件

第一條 死刑執行ノ榜示公告ハ刑ヲ宣告シタル裁判所ノ檢事局ニ於テ之ヲ爲ス可シ

第二條 公告書ニハ刑法附則第八條ニ掲グル事項ノ外刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所及ヒ年月日刑ノ執行ヲ爲シタル監獄及ヒ年月日ヲ記載ス可シ

第三條 刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前ニ掲示ス可キ公告書ニハ公告ヲ爲ス旨公告ヲ爲ス檢事局及

ヒ年月日ヲ附記シテ少クトモ三日間之ヲ其裁判所ノ掲示場ニ貼附ス可シ犯罪ノ地及ヒ犯人住居ノ地ニ掲示ス可キ公告書ハ速ニ其地ノ市町村長若クハ其職務ヲ行フ吏員ニ之ヲ送致ス可シ
第四條 公告書ノ送致ヲ受ケタル市町村長若クハ其職務ヲ行フ吏員ハ其公告書ニ公告ヲ爲ス旨公告ヲ爲ス公署及ヒ年月日ヲ附記シテ少クトモ三日間犯罪ノ地又ハ犯人住居ノ地ニ近接スル掲示場ニ之ヲ掲示ス可シ
第五條 明治十五年二月司法省達丙第三號死刑者犯由掲示方ハ之ヲ廢止ス

第二條ニ規定シタル公告書雛形

住所 氏名 年 齡
死刑ニ處セラレタル犯罪事實ノ要領 以上ノ事實ニ依リ何年何月何日何裁判所ニ於テ死刑ヲ宣告サレ其判決確定シタルヲ以テ何年何月何日何監獄ニ於テ之ヲ執行シタリ

○司法省令第十號

仙臺地方裁判所古川支部ニ於テハ豫審事務ヲ除ク外當分民事刑事第一審事務ヲ取扱ハス
本令ハ明治三十七年四月十六日ヨリ施行ス

明治三十七年四月十三日

司法大臣波多野敬直

○文部省令第十二號

盛岡高等農林學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並研究生及選科生ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

文部大臣久保田讓

明治三十七年四月十一日

盛岡高等農林學校規程

第二條 盛岡高等農林學校ノ修業年限ハ三箇年トス

第二條 學科ハ分テ農學科、林學科及獸醫學科トス

第三條 各學科ノ學科目及其ノ程度ハ左ノ如シ

農學科

科目	年		
	第一學年	第二學年	第三學年
倫理	一	二	三
作物	(一)二	一	(二)三
畜産及馬學	二	(一)三	(一)二
養蠶	二	(一)三	(一)二
肥料	二	二	(一)三
地質土壤及土地改良	二	二	(一)三
農具	二	二	(一)三

農産製造	二		(一)三
農業經濟及農政	二		三
法律大意	二		三
數學	二		(三)二
測量及測圖	二		(三)二
物理及氣象	二		(二)二
化學及分析	三		(四)二
動物及昆蟲	(一)二		(二)二
細菌學	(一)二		(二)二
植物學	(一)二		(二)二
外國語	二		二
體育	二		二
合計	(四)二	(二)二	(三)二
實習	無定時	無定時	無定時

(備考) 第三學年ノ化學及分析物理及氣象ノ實驗ハ志望者ニノミ之ヲ限ス

林學科

科目	第一學年	第二學年	第三學年
倫理	1	隨時	
造林及保護		3	1
森林數學及經理		3	1
森林利用及林產製造		2	3
森林土木		3	2
經濟學	2		
財政學			
林政及木材商況		2	
森林管理及現行法規			3
法律及行政大意		2	
數學	3		
森林測量及製圖	3		
物理及氣象	2	3	2
化學及分析	2	1	
森林動物及昆蟲	2		

(備考) 農學大意(物理及氣象ノ實驗ハ志望者ニノミ之ヲ課ス)

獸醫學科

科目	第一學年	第二學年	第三學年
倫理	2	隨時	
解剖及組織	3		
生理	2		2
藥物及調劑法	2		
病理通論	2		
內科		3	1
外科及眼科		5	2

第三條 特許代理業者組合ハ府縣ノ區域ニ依リ其ノ地區ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 特許代理業者組合ヲ設ケムトスルトキハ其ノ地區内ニ於ケル同業者過半數ノ同意ヲ得ヘシ

第五條 特許代理業者組合ニハ左ノ役員ヲ置クヘシ

- 一 組合長 一名
- 二 副組合長 一名若ハ二名

前項ノ外規約ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

役員ハ組合員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

第六條 組合長ハ組合ノ事務ヲ掌理シ組合ヲ代表スルモノトス

副組合長ハ組合長ヲ輔佐シ組合長故障アルトキハ之ヲ代理スルモノトス

副組合長ハ規約ノ定ムル所ニ依リ組合長ノ擔任スル事務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

第七條 組合規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 事務所
- 四 組合ノ地區
- 五 組合員ノ資格及加入脱退ニ關スル規定
- 六 役員ノ資格權限任期及其ノ選任或解任ニ關スル規定

七 會議ニ關スル規定

八 會計ニ關スル規定

九 風紀保持及違約者ノ處分ニ關スル規定

十 規約變更ニ關スル規定

十一 解散ニ關スル規定

第八條 農商務大臣又ハ特許局長ノ諮問アルトキハ特許代理業者組合ハ之ニ答申スヘシ

第九條 特許代理業者組合ハ特許局長ノ主管事務若ハ特許代理業者ノ業務上ノ利害ニ關シ農商務大臣又ハ特許局長ニ建議スルコトヲ得

第十條 特許代理業者組合ハ經費ノ豫算及其ノ賦課徵收方法ヲ定メ前年度ノ終了前三十日以内其ノ初テ組合ヲ設ケタル場合ニ於テハ其ノ規約ノ認可ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ特許局長ニ報告スヘシ

特許代理業者組合ハ經費ノ決算及事務成績ヲ其ノ年度終了後三十日以内ニ之ヲ特許局長ニ報告スヘシ

第十一條 組合長ハ左ニ掲グル事項ヲ遲滞ナク特許局長ニ報告スヘシ

- 一 組合員ノ加入及脱退
- 二 役員ノ選任及解任
- 三 違約者ノ處分
- 四 其ノ他特許局長ニ於テ隨時報告ヲ求ムル事項

○逓信省令第三十號

郵便局經費渡切規則施行細則左ノ通相定ム

明治三十七年四月六日

逓信大臣大浦兼武

郵便局經費渡切規則施行細則

第一條 明治三十六年三月勅令第四十四號郵便局經費渡切規則ニ依リ特ニ指定シタル郵便局長ニ交付スヘキ渡切經費ノ種類ハ左ノ如シ

- 一 器具器械費
- 二 式紙帳簿雜品費 物品會計ニ於テ備品トシテ整理スルモノ及現品ヲ以テ交付スルモノヲ除ク
- 三 圖書購買費
- 四 薪炭費
- 五 照燈費
- 六 通信運搬費 電話ノ使用料及海外電報料ヲ除ク
- 七 備入料
- 八 賄費
- 九 諸雜費 土地建物ノ借料ヲ除ク

第二條 渡切經費ノ交付ヲ受ケタル郵便局長ハ其ノ交付額ヲ以テ前條ニ指定スル所ノ一切ノ費途ヲ負擔シ其ノ仕拂ノ責ニ任スヘシ

第三條 前條費途ノ仕拂ニ關シテハ官職名ヲ以テスルト否トニ拘ラス總テ當該郵便局長自己ノ責任トシ政府其ノ責ニ任セス

第四條 渡切經費ノ交付額ハ毎年度其ノ年額及月割額ヲ定メ之ヲ當該郵便局長ニ令達ス

第五條 渡切經費ハ前條ノ月割額ヲ以テ毎月十六日以後繰替拂ノ手續ニ依リ當該郵便局長ニ之ヲ交付ス但シ時宜ニ依リ別途仕拂ヲ爲シ又ハ別途現品ヲ以テ交付スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ本條ノ交付額ヨリ其ノ費額ヲ控除ス

第六條 開局當月分ノ渡切經費ハ日割計算ヲ以テ之ヲ交付ス在來ノ局ニ對シ渡切經費ヲ交付スヘキコトヲ指定シタル場合ニ於ケル當月分ノ渡切經費亦同シ

廢局當月分ノ渡切經費ハ其ノ全額ヲ交付ス

局長ノ交迭又ハ死亡當月分ノ渡切經費ハ其ノ交迭又ハ死亡ノ日カ月ノ十五日以前ナルトキハ前任局長ニ半額ヲ交付シ後任局長ニ全額ヲ交付ス其ノ交迭又ハ死亡ノ日カ月ノ十六日以後ナルトキハ前任局長ニ全額ヲ交付シ後任局長ニ半額ヲ交付ス

第七條 開局ノ場合ニ於テ創業準備ノ爲ニ要スルモノ又ハ在來ノ局ニ對シ渡切經費ヲ交付スヘキコトヲ指定シタル場合ニ於テ常用準備ノ爲ニ要スルモノハ前各條ニ依リ交付スルモノノ外別ニ指定シタル範圍内ニ於テ一時限リ別途仕拂ヲ爲シ又ハ別途現品ヲ以テ交付スルコトアルヘシ

第八條 廢局又ハ局長ノ交迭若ハ死亡ノ場合ニ於テ渡切經費ノ支辨ニ屬スル費途ノ仕拂未濟ニ係ルモノアルトキハ總テ前任局長又ハ特ニ命シタル清算官吏ニ於テ遲滞ナク其ノ仕拂ヲ完了スヘシ

第九條 左ノ各號ノ場合ニ於テハ特ニ渡切經費ノ種類又ハ其ノ交付額ヲ増減スルコトアルヘシ

一 天災事變又ハ事業ノ興廢伸縮若ハ規模變更等ノ場合ニ於テ渡切經費ヲ以テ支辨スヘキ費途ニ著シク異動ヲ生シタルトキ

二 前號ノ外逓信大臣ニ於テ必要ト認メタルトキ
第十條 土地ノ狀況ニ依リ一時ニ數月分ノ渡切經費ノ交付ヲ必要トスルトキハ當該郵便局長事由
ヲ詳具シ逓信大臣ノ許可ヲ受クヘシ

附則

第十一條 本令ハ明治三十七年度ヨリ施行ス

○逓信省令第三十一號

明治三十三年ハ逓信省令第四十號電話呼出規程中左ノ通改メ本月十日ヨリ施行ス

明治三十七年四月六日

第一條第一項ヲ左ノ通改ム

逓信大臣大浦兼武

電話加入者及特設電話加入者ハ別ニ告示スル地域内ニ在ル者及特ニ指定シタル場合ニ於テハ其
ノ地域港灣内ニ碇泊ノ艦船中ニ在ル者ヲ電話所ニ呼出シ通話スル爲所屬電話局所ニ共ノ請求ヲ
爲スコトヲ得

第十三條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

四 艦船中ニ在ル者ニ交付スヘキ電話料前納證書ヲ艦船ノ出帆又ハ被呼者居所ノ改正等ニ依リ
當初指定ノ艦船ニ配達セザリシトキノ増納呼出料

同條第二項中「電話料前納證書」ノ下ニ「ニシテ未使用ノモノ」ノ九字ヲ加フ

(參照)

逓信省令第四十號電話呼出規程(明治三十三年八月二十三日)抄録
第一條 電話加入者及特設電話加入者ハ別ニ指定スル地域内ニ居住スル者ヲ電話所ニ呼出シ通話スル爲メ所屬電話局

第十三條 左記各號ノ料金ハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付スヘシ
前項料金還付ノ請求ハ呼出ノ請求ヲ爲シタル加入者又ハ電話所所屬ノ電話交換局又ハ電話交換支局ニ之ヲ爲スヘシ其ノ
期間ハ料金納付ノ日ヨリ三十日トス但シ被呼者ノ受領シタル電話料前納證書ハ之ヲ請求書ニ添付スヘシ

○逓信省令第三十二號

明治三十年ハ逓信省令第三十二號中第三號ニ左ノ但書ヲ加ヘ本月十日ヨリ施行ス

明治三十七年四月六日

逓信大臣大浦兼武

但シ艦船中ニ在ル者ヲ呼出サムトスルトキハ左記電話呼出料ノ外一回毎ニ金二十錢ヲ増納スヘシ

○逓信省令第三十三號

明治三十三年ハ逓信省令第四十五號郵便爲替規則第四十一條第一項ニ左ノ但書ヲ追加シ來五月一
日ヨリ施行ス

明治三十七年四月十二日

逓信大臣大浦兼武

但シ郵便集配事務ヲ取扱ハサル郵便局所ニ於テ拂渡スヘキモノナルトキハ其ノ附近ニ在ル郵便
集配事務及郵便爲替事務ヲ取扱フ郵便局所ニ於テ木文ノ手續ヲ爲ス

(參照)

逓信省令第四十五號郵便爲替規則(明治三十三年九月一日)抄録
第四十一條 拂渡郵便局所ニ於テ前條ノ爲替電報ヲ受ケタルトキハ之ニ依リ電信爲替證書ヲ作り之ヲ受取人ニ送達ス

○逓信省令第三十四號

在韓國通信官署官吏其ノ在勤地ニ於テ戰時若ハ事變ニ際會スルトキハ其ノ繼續中ニ限り在勤手當
別表ノ通增加ス但シ加給手當ハ本項給與額ノ四分ノ一ヲ増給ス

明治三十七年四月十九日

逓信大臣大浦兼武

(別表)

増加在勤手當給與年額表

任所	局長		通信員	通信手
	兼任官	兼任官		
京城	四〇〇	四〇〇	一六三	一〇八
釜山	一五二		七	四八
元山			二〇	八四
仁川			二〇	九〇
木浦			三三	四八
鎮南浦			六〇	四八
馬山			三〇	四八
群山			三三	四八
群山			六〇	四八
城津			三〇	八八
平壤			二八	九六

○逓信省令第三十五號

明治三十七年三月三十一日抄録

在韓國帝國軍用通信所ヨリ發スル左ノ電報ハ配達所ニ於テ受信人ヨリ其料金ヲ追徴ス

【参照】

逓信省令第十八號(明治三十七年三月三十一日)抄録
在韓國帝國軍用通信所ヨリ發スル左ノ電報ハ配達所ニ於テ受信人ヨリ其料金ヲ追徴ス
一帝國政府ノ電報但シ陸軍部内ヨリ發スル電報ヲ除ク

逓信大臣大浦兼武

○内務省令第七號

本年四月内務省令第三號下士兵卒家族救助令施行規則第五條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス

明治三十七年五月五日

内務大臣子爵芳川顯正

第六條

本令中地方長官ノ職務ハ臺灣ニ於テハ臺灣總督之ヲ行フ

○内務省令第八號

明治二十四年五月内務省令第五號改正日本藥局方別冊ノ通追加シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年五月十七日

内務大臣子爵芳川顯正

(別冊)

消毒用石炭酸水

Agua carbolisata pro desinfectione.

消毒用石炭酸水

五分

ヲ取リ

石炭酸

常水

九十四分

ニ溶解スルニ

鹽酸

ヲ和シ製スルニ

フオルマリン水

Agua formalinata.

明治三十七年五月省令 内務省第七號 第八號 日本藥局方

「フォルマリン」水
「フォルマリン」
常水
ヲ取り混和シ製スヘシ
日本藥局方藥品索引
(フ)
フォルマリン水

一分
三十四分

(セ)
消毒用石炭酸水

一四三

INDEX NOMINUM.

	Pag.
Aqua carbolisata pro desinfectione.....	143.
Aqua formalinata	143.

一四三頁

○大藏省令第十六號

第一條 煙草專賣法第七十條第一號ノ物件ヲ所有スルモノハ明治三十七年七月五日迄ニ同條第二號ノ物件ヲ所有スル者ハ明治三十八年四月五日迄ニ第一號書式ニ依リ所管臨時煙草製造準備局出張所ニ申告スヘシ

第二條 煙草專賣法第七十條第三號ノ葉煙草ヲ所有スル者ハ明治三十八年四月五日迄ニ第二號書式ニ依リ所管臨時煙草製造準備局出張所ニ申告スヘシ

第三條 煙草專賣法第七十二條但書ニ依リ外國產葉煙草ノ買上ヲ請求セントスル者ハ明治三十七年七月二十日迄ニ第二號書式ノ請求書ニ其ノ現品ヲ添ヘ所管臨時煙草製造準備局出張所ニ差出スヘシ

第四條 煙草專賣法第七十三條第二項ニ依リ政府ニ於テ徵收スヘキ物件ノ調査ヲ爲ス場合ニハ當該官吏ハ豫メ其ノ期日ヲ告知シ所有者立會ノ上之ヲ調査シ調査済ノ物件ハ其ノ徵收ヲ標記スヘシ

第五條 煙草專賣法第七十四條ノ物件並器具機械ノ買上ヲ請求セントスル者ハ刻煙草以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十七年七月五日迄ニ刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十八年四月五日迄ニ第三號書式ニ準シタル請求書ニ其ノ現品ヲ添ヘ所管臨時煙草製造準備局出張所ニ差出スヘシ

但シ原動機ノ如キ特ニ運搬ニ困難ナルモノハ臨時煙草製造準備局出張所ノ承認ヲ受ケ現品ヲ添ハサルコトヲ得

第六條 前條物件ノ種類數並器具機械ノ種類ハ左ノ如シ

明治三十七年五月 省令 大藏省第十六號

一四五

- 一 庵刀 刻煙草卷煙草及葉卷煙草製造ニ用フルモノ
- 一 磁石
- 一 口紙 口付紙卷煙草製造用
- 一 吸口 蠟紙製竹製及陶器製ノモノ
- 一 包裏 商標其ノ他ノ記號ヲ印刷セル包紙紙製及金屬製箱類封緘紙
- 一 錫紙 製品包装用
- 一 包裏用紙 製品包装用
- 一 記號用紙類 商標記號等ヲ印刷セル紙類
- 一 蠟紙 製品包装用
- 前各號ノ數量ハ明治三十六年ニ於ケル平均一箇月分ノ使用高ニ相當スル額ヲ超ニルコトヲ得ス
- 一 衡器
- 一 砂掃臺
- 一 葉卷臺
- 一 卷葉箱 卷葉ヲ入ルルニ用フルモノ
- 一 葉煙草骨拔臺
- 一 卷葉壓押器
- 一 庵刀鉋 磨滅セル庵刀ニ手入ヲ爲スモノ
- 一 庵刀打臺
- 一 刻煙草裁切機械

- 一 加香用霧吹ホソソ
- 一 煙草貯藏箱 加香後ノ刻煙草貯藏用
- 一 紙裁臺
- 一 紙裁器
- 一 包裏用型
- 一 煙草包装用紙函製造ニ用フル器具機械
- 一 製品包装用框 葉卷煙草製造用
- 一 葉卷煙草製造用尺度
- 一 真空葉浸漬用水槽 葉卷煙草製造用
- 一 水切臺 同上
- 一 酸酵箱 同上
- 一 葉卷煙草型
- 一 葉卷煙草型押壓器
- 一 紙卷煙草解放器
- 一 吸口型 葉卷煙草製造用
- 一 葉卷煙草轉壓板
- 一 葉卷煙草蓋箱 葉卷煙草製造用
- 一 製品貯藏箱
- 一 捺印押壓器 葉卷煙草製造用

- 一 製品運搬箱
- 一 原動機 煙草製造用ノ爲メ特設シタルモノ
- 一 口紙旋絡機

一 前記各種機械ノ附屬品並捲板摺板押研砥弓等煙草製造用ノ雜具

第七條 煙草專賣法第七十七條第一項ノ鑑定人ハ二人以上トシ臨時煙草製造準備局長官之ヲ選定ス

前項ノ鑑定人ハ少ナクトモ其ノ半數ヲ官吏以外ヨリ選定スルモノトス

臨時煙草製造準備局長官補償價格又ハ買上價格ノ決定ヲ爲シタルトキハ其決定書ヲ作り之ヲ本人ニ交付スヘシ

第八條 前條ノ決定ニ對シ不服ノ申立ヲ爲サントスル者ハ十日以内ニ不服ノ要領ヲ具シ必要ノ書類アルモノハ其書類ヲ添附シ所管臨時煙草製造準備局出張所ヲ經由シ大藏大臣ニ再鑑定ノ請求ヲ爲スヘシ

第九條 大藏大臣前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ第七條ニ依リ選定シタル鑑定人以外ヨリ二人以上ノ鑑定人ヲ選定ス

前項ノ鑑定人ハ少クモ其半數ヲ官吏以外ヨリ選定スルモノトス

大藏大臣補償價格又ハ買上價格ノ決定ヲ爲シタルトキハ其決定書ヲ作り之ヲ本人ニ交付スヘシ

第十條 煙草專賣法第八十九條第三項ニ依リ國庫債券ヲ以テ補償金又ハ買上金ノ給付ヲ受ケムトスル者ハ豫メ其旨所管臨時煙草製造準備局出張所ニ申告スヘシ

第十一條 官吏以外ヨリ選定シタル鑑定人ニハ一日金壹圓乃至拾圓ノ範圍内ニ於テ手當ヲ支給ス

第十二條 官吏以外ヨリ選定シタル鑑定人ニハ左ノ範圍内ニ於テ旅費ヲ支給ス

- 一 汽車賃ハ一哩ニ付三錢以上六錢以下
- 二 船賃ハ一海里ニ付三錢以上六錢以下
- 三 車馬賃ハ一里ニ付十錢以上三十錢以下

前項旅費ノ支給ハ内國旅費規則ニ準據ス但シ同規則第九條ハ此ノ限ニ在ラス

明治三十七年五月六日 大藏大臣 齋藤實 勅

第一號書式

煙草製造專用ノ器具機械及卷紙申告書

種 類	數 量	買入年月	買 入 價 格		備 考
			單 價	計 價	
何式割機	一	何年月	15000	15000	
何	二	何年月	80000	160000	
合 計				175000	

右申告候也

府縣市町村所在地

何 某

臨時煙草製造準備局長官宛

備考

一 種類ハ買入年月買上價格ノ異ナル毎ニ區分スヘシ(自家製造ニ係ルモノハ買入年月及價格ノ間ニ製造年月及價格ヲ記

第一號書式
二 購買煙草ニシテ何式製煙機ト云フカ加申名稱アルモノハ其名稱ヲ記載スヘシ

煙草購買上請求書

年度	種別	葉分	量目	買入年月	買入先	買入價	計
何年	何支局	何分	何目	何年何月	何支局	何價	何計
何年	何支局	何分	何目	何年何月	何支局	何價	何計
合計							

右買上相成度此段及請求候也

年月日

臨時煙草製造準備局長官宛

府縣郡市町村并地
何 某

備考

- 一 買入ハ二買入價ヲ記載スヘシ
- 二 外國產煙草ハ其種類ニ依リ國產者ヲ記載シ種別ノ欄ハ空欄ヲ遺スヘシ

第三號書式
煙草ノ製造及裝置ニ使用スヘキ物件並製造專用ニ非ラサル煙草製造及裝置用器具機械買上請求書

種別	數量	買入年月	買入價	計	備考
何	何	何年何月	何價	何計	
何	何	何年何月	何價	何計	
合計					

右買上相成度此段及請求候也

年月日

臨時煙草製造準備局長官宛

府縣郡市町村并地
何 某

備考

- 一 種別ハ買入年度買入價格ノ異ナルモノハ區分スヘシ(自來製造ニ係ルモノハ買入年月及價格ノ欄ニ製造年月及價格ヲ記入スヘシ)
- 二 煙草ノ製造及裝置ニ使用スヘキ物件ノ數量ハ明治三十六年ニ於ケル煙草製造ニ要シタル數量ノ十二分ノ一以內タルコトヲ證明スルニ足ル資料ヲ添附スヘシ

○大藏省令第十七號

第二回國庫債券發行規程左ノ通之ヲ定ム

大藏大臣男爵曾禰荒助

明治三十七年五月二十二日

第二回國庫債券發行規程

第一條 政府ハ明治三十七年法律第一號ニ依リ國庫債券發售億圓ヲ發行ス

第二條 國庫債券利率ノ割合ハ一箇年百分ノ五トス

明治三十七年五月廿七日 大藏省第十七號 第二回國庫債券發行規程

米子米穀草收納所	池田米穀草收納所	宇平米穀草收納所	熊本米穀草收納所
三刀屋出張所 三好出張所 山崎出張所 西條出張所 東山出張所 一宮出張所 東光出張所 木原出張所 後免出張所 西條出張所 東條出張所	三好出張所 三好出張所 三好出張所 三好出張所 三好出張所 三好出張所 三好出張所 三好出張所 三好出張所 三好出張所 三好出張所 三好出張所	三好出張所 三好出張所 三好出張所 三好出張所 三好出張所 三好出張所 三好出張所 三好出張所 三好出張所 三好出張所 三好出張所 三好出張所	大分出張所 大分出張所 大分出張所 大分出張所 大分出張所 大分出張所 大分出張所 大分出張所 大分出張所 大分出張所 大分出張所 大分出張所
大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市	大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市	大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市	大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市 大分縣大分市

鹿兒島米穀草收納所	熊本米穀草收納所	百種米穀草收納所	熊本米穀草收納所
志布志出張所 加世田出張所 種子島出張所 大島出張所 那覇出張所 八重山出張所	鹿兒島出張所 鹿兒島出張所 鹿兒島出張所 鹿兒島出張所 鹿兒島出張所 鹿兒島出張所	鹿兒島出張所 鹿兒島出張所 鹿兒島出張所 鹿兒島出張所 鹿兒島出張所 鹿兒島出張所	鹿兒島出張所 鹿兒島出張所 鹿兒島出張所 鹿兒島出張所 鹿兒島出張所 鹿兒島出張所
鹿兒島縣志布志市 鹿兒島縣志布志市 鹿兒島縣志布志市 鹿兒島縣志布志市 鹿兒島縣志布志市 鹿兒島縣志布志市	鹿兒島縣志布志市 鹿兒島縣志布志市 鹿兒島縣志布志市 鹿兒島縣志布志市 鹿兒島縣志布志市 鹿兒島縣志布志市	鹿兒島縣志布志市 鹿兒島縣志布志市 鹿兒島縣志布志市 鹿兒島縣志布志市 鹿兒島縣志布志市 鹿兒島縣志布志市	鹿兒島縣志布志市 鹿兒島縣志布志市 鹿兒島縣志布志市 鹿兒島縣志布志市 鹿兒島縣志布志市 鹿兒島縣志布志市

○大藏省令第十九號
煙草專賣法施行細則左ノ通相定ム

明治三十七年五月二十八日

大藏大臣 野村浩将

煙草專賣法施行細則

- 第一條 煙草ヲ耕作セムトスル者ハ葉煙草收納所長ノ定ムル期間内ニ第一號書式ノ申請書ヲ所管葉煙草收納所ニ差出シ許可ヲ受ケヘシ
- 前項耕作ノ許可ヲ受ケタル者ニハ第二號書式ノ許可證ヲ交付スヘシ
- 第二條 葉煙草收納所長ハ左ノ順序ニ依リ煙草ノ耕作ヲ許可スヘシ
 - 一 前年ニ於テ煙草ノ耕作、乾燥、調理、包裝、品質等他ノ模範トナルヘキモノト認メラレタル者
 - 二 前年迄煙草ノ耕作ヲ繼續シタル者
 - 三 本年新規耕作ヲ申請セル者
- 第三條 葉煙草收納所長ハ耕作許可申請ニ係ル段別カ申請者ノ資力及其ノ耕作上ノ設備ニ比シテ適當ナリト認ムルトキハ其ノ段別ヲ減少シテ許可スルコトアルヘシ
- 第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ煙草耕作者タルコトヲ得ス
 - 一 煙草賣捌人
 - 二 煙草製造専用ノ器具機械又ハ巻紙ノ製作者、販賣者又ハ藏置者
 - 三 煙草ノ輸出又ハ移出ヲ業トスル者
 - 四 前各號ノ一ニ該當スル者ト同一ノ家ニ在ル者又ハ其ノ同居者
- 第五條 葉煙草收納所長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ煙草耕作ヲ許可セサルコトアルヘシ

- 一 煙草ニ關スル法令ニ違反シタル者
- 二 煙草耕作ノ成績不良ナリシ者
- 三 不適當ト認ムル場所ニ煙草ヲ耕作セムトスル者
- 四 取締上不便ト認ムル場所ニ煙草ノ耕作、乾燥又ハ藏置ヲ爲サムトスル者
- 五 段別五畝歩未満ノ土地ニ煙草ヲ耕作セムトスル者
- 六 其ノ他煙草耕作者タルニ不適當ナリト認ムル者
- 第六條 煙草耕作者苗床ノ場所、坪數、煙草耕作地ノ場所、段別、煙草ノ種類、本數、乾燥場及藏置場ヲ變更増減シ又ハ耕作ヲ廢止セムトスルトキハ第一號書式ニ準シ所管葉煙草收納所ニ申請シ許可ヲ受ケヘシ
- 第七條 相續ニ因ルノ外煙草ノ耕作ヲ承繼セムトスル者ハ其ノ耕作許可證並第三號書式ノ申請書ヲ所管葉煙草收納所ニ差出シ許可ヲ受ケヘシ
- 相續ニ因リ共ノ耕作ヲ承繼シタルトキハ其ノ耕作許可證並第四號書式ノ申請書ヲ所管葉煙草收納所ニ差出シ耕作許可證ノ交付ヲ受ケヘシ
- 第八條 煙草耕作者共ノ耕作段別ノ減少又ハ耕作廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ共ノ現存スル煙草又ハ煙草苗ハ當該官吏ノ承認ヲ受ケ相當ノ處置ヲ爲スヘシ 煙草專賣法第三十七條ニ依リ耕作ノ許可ヲ取消サレタルトキ亦同シ
- 第九條 煙草耕作者煙草苗ノ讓渡又ハ讓受ヲ爲サムトスルトキハ第五號書式ノ申請書ヲ所管葉煙草收納所ニ差出シ許可ヲ受ケヘシ
- 第十條 煙草耕作者共ノ耕作許可證ヲ亡失シタルトキハ直ニ事由ヲ具シ之カ再交付ヲ所管葉煙草收納

所ニ申請スル

第十一條 左ニ掲グル事項ハ葉煙草收納所長ノ指示スル所ニ従フヘシ

- 一 種子ノ採收
- 二 苗床ノ設備及其ノ管理
- 三 播種期
- 四 移植期
- 五 畦間條間ノ距離
- 六 腋芽ノ摘採
- 七 心止
- 八 其ノ他ノ耕作方法
- 九 葉分ノ選別
- 十 乾燥方法
- 十一 葉數ノ方法
- 十二 一把ノ葉數
- 十三 一包ノ把數又ハ量目
- 十四 結束材料
- 十五 包裝ノ方法

第十二條 煙草ノ移植ヲ了シタルトキハ殘存セル煙草苗ハ直ニ廢棄スヘシ但シ移植後三週間ヲ限リ豫備田トシテ必要ノ木敷ヲ保存スルコトヲ得

第十三條 煙草耕作者ハ其ノ耕作地一箇所毎ニ字、地番、氏名及許可番號ヲ記シタル目録ヲ設クヘシ

第十四條 煙草專賣法第十一條ニ依リ葉煙草ノ量目又ハ葉數ヲ査定セムトスルトキハ葉煙草收納所長ハ其ノ期日ヲ定メ豫メ之ヲ公示スヘシ

第十五條 煙草耕作者當該官吏ノ査定シタル量目又ハ葉數ニ對シ異議ノ申立ヲ爲サムトスルトキハ即時異議申立簿ニ其ノ不服ノ要領ヲ記入シ捺印スヘシ

第十六條 煙草專賣法第十二條第二項ニ依リ選定スヘキ鑑定人ハ葉煙草收納所長ニ於テ少クトモ其ノ半數ヲ煙草專賣局員以外ヨリ選定スルモノトス

第十七條 葉煙草收納所長煙草專賣法第十二條第二項ニ依リ決定ヲ爲シタルトキハ第六號書式ノ決定書ヲ異議申立人ニ交付スヘシ

第十八條 煙草耕作者災害其ノ他ノ事故ニ因リ其ノ耕作煙草ニ損害ヲ受ケタルトキハ其ノ事由ヲ具シ所管葉煙草收納所ニ届出ツヘシ

第十九條 枯葉、不熟葉、蝕損葉、立枯等アルトキハ煙草耕作者ハ當該官吏ニ申出テ其ノ指揮ヲ受ケ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

第二十條 煙草耕作者種子採取ノ爲母木ヲ保存セムトスルトキハ其ノ種類、木敷ヲ定メ豫メ所管葉煙草收納所長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十一條 葉煙草ハ其ノ種類、乾燥法、葉分、品質、葉竝ニ依リ區分調理スヘシ

第二十二條 前條ノ葉分ハ總テ左ノ區分ニ依ルヘシ

一 十葉

- 二 中葉
- 三 水葉
- 四 天葉

前項ノ葉分ニ依リ難キモノハ雜葉トスヘシ

第二十三條 乾燥調理ノ際生シタル葉屑等ニシテ收納ニ適セサルモノハ當該官吏ノ承認ヲ經テ之ヲ廢棄スヘシ

第二十四條 葉煙草納付ノ場所及期日ハ葉煙草收納所長之ヲ定メ豫メ公示スヘシ

第二十五條 煙草耕作者納付ノ爲葉煙草ヲ運送スルトキハ耕作許可證ヲ携帶スヘシ

前項ノ許可證ハ納付ノ際之ヲ所管葉煙草收納所ニ提出シ葉煙草ノ納付量目、賠償金等ノ記入ヲ受クヘシ

第二十六條 煙草耕作者ノ納付セムトスル葉煙草ニシテ乾燥、調理、包裝ノ不完全ナルモノハ耕作者ヲシテ更ニ相當ノ處理ヲ爲サシムヘシ

第二十七條 煙草耕作者煙草專賣法第十六條ニ依リ再鑑定ヲ求メムトスルトキハ賠償金ノ請求前ニ於テ第七號書式ニ依リ其ノ不服ノ要領ヲ所管葉煙草收納所長ニ申出ツヘシ

第二十八條 第二十七條ニ依リ再鑑定ノ申立アリムルトキハ葉煙草收納所長ハ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ之ヲ決定シ第八號書式ノ決定書ヲ申立人ニ交付スヘシ

前項ノ鑑定人ハ少クトモ其ノ半收ヲ煙草專賣局員以外ヨリ選定スヘシ

第二十九條 葉煙草收納所長ハ取締上必要ト認ムルトキハ煙草耕作者ニ對シ葉煙草運送ノ通路及時間ヲ指定スルトコトヲ得

第三十條 公共團體又ハ私人ニ於テ試作場ヲ特設シ煙草ノ試作ヲ爲サムトスルトキハ第一號書式ニ準シテ申請書ヲ所管葉煙草收納所ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

前項試作ノ許可ヲ受ケタル者ニハ第二號書式ニ準シタル許可證ヲ交付スヘシ

第三十一條 輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ノ賣渡ヲ請求セムトスル者ハ第九號書式ノ輸出煙草賣渡申請書ヲ煙草專賣局長ニ差出シ其ノ指定スル煙草專賣官者ニ代金ヲ納付シ現品ヲ引取ルヘシ

輸出ノ爲煙草ヲ買受ケタル者煙草ノ搬置場ヲ變更セムトスルトキハ所管葉煙草收納所ニ申出テ許可ヲ受クヘシ

第三十二條 輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ヲ買受ケタル者ハ輸出後煙草專賣局長ノ指定シタル期間内ニ輸出免狀並外國仕向港ニ陸揚ヲ爲シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ煙草專賣局ニ差出スヘシ

第三十三條 輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ヲ買受ケタル者ハ帳簿ヲ調製シ少クトモ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 葉煙草ノ買入年月日排出(輸出納付)年月日包裝番號種類葉分量目代金及仕向先
 - 二 葉煙草ノ改裝年月日元包裝番號元量目改裝番號及改裝量目
 - 三 製造煙草ノ買入年月日排出(輸出納付)年月日種類名稱數量(本數別又ハ量目別)代金及仕向先
- 第三十四條 輸出ノ爲買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ニシテ其ノ使用ニ適セサルニ至リ之ヲ廢棄セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ所管葉煙草收納所ニ申出テ許可ヲ受クヘシ

第三十五條 標本ニ供スル爲業煙草ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ第十號書式ノ申請書ヲ所管業煙草
收納所ニ差出スヘシ

第三十六條 標本ニ供スル爲業煙草又ハ製造煙草ノ輸入ヲ爲サムトスル者ハ第十一號書式ノ申請
書ヲ所管業煙草局ニ差出シ許可ヲ受ケヘシ

第三十七條 第三十五條及第三十六條ノ標本煙草ヲ標本トシテ他ニ讓渡サムトスル者ハ第十二
號書式ノ申請書ヲ所管業煙草收納所ニ差出シ許可ヲ受ケヘシ

第三十八條 煙草專賣法第三十二條ニ依リ製造煙草ヲ輸入セムトスル者ハ第十三號書式ノ申請書
ヲ煙草專賣局ニ差出シ許可ヲ受ケヘシ

第三十九條 煙草專賣法ヲ施行セサル地ニ移出スル爲製造煙草ノ賣渡ヲ請求スル者アルトキハ煙
草專賣局長ハ特ニ定メタル價格ヲ以テ之ヲ賣渡スコトヲ得

第四十條 移出ノ爲ニ製造煙草ノ賣渡ヲ請求セムトスル者ハ第九號書式ニ準シタル賣渡申請書
ヲ煙草專賣局長ニ差出シ其ノ指定スル煙草製造所ニ代金ヲ納付シ現品ヲ引取ルヘシ

第四十一條 移出ノ爲ニ製造煙草ヲ買受ケタル者ハ仕向地ニ陸揚ヲ爲シタルコトヲ證スヘキ書類
ヲ買受後相當ノ期間内ニ其ノ買受ヲ爲シタル煙草製造所ニ差出スヘシ

正當ノ事由ナクシテ仕向地ニ陸揚ヲ爲シタル數量ヲ買受ヲ爲シタル數量ヨリ少キトキハ移出者
ヲシテ其ノ不足額ニ對シタル煙草ノ定價ト共ニ買受價額トノ差額ニ相當スル金額ヲ其ノ買受ヲ爲
シタル煙草製造所ニ納付セシム

第四十二條 移出者ハ第三十三條ノ規定ニ準シ帳簿ノ複製記載ヲ爲スヘシ

第四十三條 煙草製造専用ノ器具機械又ハ巻紙ヲ製作シ販賣シ又ハ裁置セムトスル者ハ第十四號
又ハ第十五號書式ノ申請書ヲ所管業煙草收納所ニ差出シ許可ヲ受ケヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者其ノ業ヲ廢セムトスルトキハ其ノ旨所管業煙草收納所ニ届出ツヘシ

第四十四條 煙草製造専用ノ器具機械又ハ巻紙ノ製作者又ハ販賣者ハ帳簿ヲ製シ少クトモ器具
機械又ハ巻紙ノ種類、數量、代金、製作月日又ハ買受月日、賣渡月日、賣渡先ヲ記載スヘシ

第四十五條 煙草、煙草製造専用ノ器具機械又ハ巻紙ノ運送ヲ委託セラレタル者ハ其ノ運送中ハ
委託者ノ代理人トナリタルモノト看做ス

附則
第四十六條 本省令ハ煙草專賣法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十七條 明治三十年大藏省令第十六號業煙草再鑑定規程及明治三十四年大藏省令第四號業煙
草專賣法施行細則ハ本省令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但シ煙草專賣法附則第六十八條第二項ニ依
リ刻煙草ノ製造ヲ業トスル者及業煙草ノ買買ヲ業トスル者ニ對シテハ仍業煙草專賣法施行細則
ヲ適用ス

第四十八條 煙草專賣法第八十三條ニ依ル申告書ハ第十六號書式ニ依リ所管業煙草收納所ニ差出
スヘシ

第四十九條 煙草專賣法第八十四條ニ依リ調製スヘキ帳簿ニ關シテハ第三十三條ノ規定ヲ準用ス

明治三十七年七月以後ニ於ケル毎月末日現在製造煙草ノ種類、數量及其ノ月ノ受排高ハ第十七
號書式ニ依リ翌月五日迄ニ所管業煙草收納所ニ申告スヘシ